
第 129 回日本森林学会大会プログラム

会 期 2018 年 3 月 26 日 (月) ～3 月 29 日 (木)

会 場 高知県立県民文化ホール (26 日), 高知大学朝倉キャンパス (27～29 日)

連絡先 〒783-8502 高知県南国市物部乙 200 高知大学農林海洋科学部 農林資源環境科学科内

第 129 回日本森林学会大会運営委員会

E-mail: jfs129@kochi-u.ac.jp

大会日程

3 月 26 日 (月) : 高知県立県民文化ホール

- | | | |
|-------------|-----------------------------|----------------------|
| 10:00～12:30 | 日本森林学会各賞授賞式・受賞者講演 | (県民文化ホール グリーンホール) |
| 13:30～17:00 | 公開シンポジウム「林業大学校～その役割と目指すもの～」 | (県民文化ホール グリーンホール) |
| 12:30～14:00 | JFR 編集委員会 | (県民文化ホール 第 6 多目的室) |
| 14:00～16:00 | 日本森林学会誌編集委員会 | (県民文化ホール 第 6 多目的室) |
| 17:00～19:00 | 【学会企画】観光レクリエーション分野のあり方検討会 | (県民文化ホール 第 6 多目的室) |
| 14:30～16:00 | 森林科学編集委員会 | (県民文化ホール 第 7.8 多目的室) |
| 16:00～17:00 | 日林誌・JFR・森林科学合同編集会議 | (県民文化ホール 第 7.8 多目的室) |
| 17:00～19:00 | 中等教育連携推進委員会 | (県民文化ホール 第 7.8 多目的室) |

3 月 27 日 (火) : 高知大学朝倉キャンパス

- | | | |
|-------------|-----------------------------------|---------------------|
| 9:00～17:30 | 研究発表 (部門別口頭発表, 企画シンポジウム, 公募セッション) | (共通教育棟 1～3 号館) |
| 11:00～16:30 | 研究発表 (P1 ポスター; コアタイム 12:00～13:30) | (北体育館) |
| 18:30～20:30 | 懇親会 (三翠園) | (※大学よりシャトルバスを運行します) |

3 月 28 日 (水) : 高知大学朝倉キャンパス

- | | | |
|-------------|---|----------------------|
| 9:00～18:30 | 研究発表 (部門別口頭発表, 公募セッション) | (共通教育棟 1～3 号館) |
| 11:00～16:30 | 研究発表 (P2 ポスター・高校生ポスター; コアタイム 12:00～13:30) | (北体育館) |
| 12:15～13:15 | 【学会企画】男女共同参画ランチョンセミナー「海外滞在と研究者家族」 | (共通教育棟 1 号館 125 講義室) |
| 13:30～14:30 | 【学会企画】大学院進学とその後の進路の選択ー公立研究機関, 行政機関への就職ー | (共通教育棟 1 号館 125 講義室) |
| 17:00～19:00 | 【学会企画】論文執筆や審査の経験を共有しよう Part 3 | (共通教育棟 1 号館 125 講義室) |

3 月 29 日 (木) : 高知大学朝倉キャンパス

- | | | |
|-------|--------|---------------------------|
| 9:00～ | 関連研究集会 | (共通教育棟 1～2 号館, 森林総合センター他) |
|-------|--------|---------------------------|

大会受付 : 26 日は県民文化グリーンホール前, 27～28 日は高知大学朝倉キャンパス共通教育 210 講義室に設置

第 129 回日本森林学会大会運営委員会

後藤 純一 (委員長), 笹原 克夫 (副委員長), 原田 寿郎 (副委員長), 吉井 二郎 (副委員長), 市浦 英明, 市榮 智明, 大谷 慶人, 鹿島 潤, 酒井 敦, 酒井 寿夫, 鈴木 保志, 戸田 篤, 長井 宏賢, 長谷川 元洋, 比嘉 基紀, 藤本 浩平, 古川 泰, 松岡 真如, 松本 美香, 渡辺 直史

林業 大学学校

第129回
日本森林学会
シンポジウム

～その役割と目指すもの～

林業大学校が将来の林業の担い手を育てる場として期待されています。近年、林業を専門に教える学校の設立が相次いでいます。

いままな林業人材育成が必要なのか。どのような人材が求められており、社会や地域は彼らに何を期待しているのか。そこに人材育成の場である林業大学校はどのような役割を期待され何を指せばよいのか。そして学校や卒業生に研究者や教育者がどのように関わり、学会や行政はどのように支えていけばよいのか。

林業大学校に関わる様々な課題について、現在の課題と将来の展望を考える場とします。



基調講演

林業学校のめざすもの

～森林文化アカデミーの実例から

川尻 秀樹氏 (岐阜県立森林文化アカデミー 副学長)

講演

林業大学校はいま

～林業の担い手はどのように育まれるか

田村 典江氏 (総合地球環境学研究所プロジェクト上級研究員)



写真提供: 高知県

お問い合わせ

第129回 日本森林学会大会運営委員会

(国立大学法人 高知大学 農林海洋科学部 担当: 松本)

E-mail jfs129@kochi-u.ac.jp

主催: 一般社団法人 日本森林学会・公益社団法人 国土緑化機構「緑と水の森林ファンド」助成事業
後援: 高知県、国立大学法人 高知大学

参加無料
[定員 500名]

事前の申し込みは不要です。
一般の方も是非ご参加ください。

2018年
3.26月
13:30～17:00
[開場 12:30～]
高知県立県民文化ホール
グリーンホール



※ご来場には公共交通機関をご利用ください。至 緑橋

2018 年度 日本森林学会各賞 受賞者および受賞業績

1. 日本森林学会賞

陶山 佳久（東北大学）

森林生態・遺伝育種学的研究のための分子生物学的分析手法の開発と普及

田村 淳（神奈川県自然環境保全センター）

丹沢山地のブナ林の衰退と再生に関する一連の研究

2. 日本森林学会奨励賞

小林 真（北海道大学）

Differences in soil type drive the intraspecific variation in the responses of an earthworm species and, consequently, tree growth to warming

梅林 利弘（北海道大学）

Spatial distribution of xylem embolisms in the stems of *Pinus thunbergii* at the threshold of fatal drought stress

3. 日本森林学会学生奨励賞

邱 滇璋（投稿時：九州大学 応募時：東京農工大学）

Scaling-up from tree to stand transpiration for a warm-temperature multi-species broadleaved forest with a wide variation in stem diameter

4. 日本森林学会功績賞

金子 真司（森林総合研究所）

東京電力福島第一原子力発電所事故による森林放射能汚染対策への貢献

紙谷 智彦（新潟大学）

ブナ林の生態的解明に基づく持続的利用に関する研究

5. Journal of Forest Research論文賞

Wei Wang, Yuichi Hanai, Chisato Takenaka, Rie Tomioka, Kazuya Iizuka, and Hajime Ozawa

論文題目：Cesium absorption through bark of Japanese cedar (*Cryptomeria japonica*)

掲載巻・号・頁：Vol.21, No.5, 251-258, 2016

（筆頭著者の所属：名古屋大学 現在：中国科学院上海応用物理研究所）

6. 日本森林学会誌論文賞

山田 祐亮

論文題目：市町村森林整備計画におけるアダプティブ・マネジメント応用の可能性-

掲載巻号・頁・発行年：99 巻 2 号, 84-96, 2017 年

（筆頭著者の所属：森林総合研究所）

3月26日（月）10：00から、高知県立県民文化ホールにおいて、授賞式ならびに学会賞、奨励賞、学生奨励賞の受賞者講演を行います。また27日（火）にはJournal of Forest Research論文賞のポスターを271番地に、日本森林学会誌論文賞のポスターを272番地に展示いたします。

研究発表される方へ

部門別口頭発表

部門別口頭発表の講演時間は 1 件 15 分（講演 12 分、討論 3 分） です。

部門別口頭発表の機材は、液晶プロジェクタのみとします。発表会場には、Microsoft PowerPoint 2013 をインストールしたコンピュータを準備します。発表に用いる PowerPoint ファイルは 2013 までのバージョンでご準備ください。ファイルは、USB 接続可能なメディアに保存してご持参ください。発表する午前あるいは午後のセッション開始 10 分前までに、発表会場のコンピュータのデスクトップ上にある日付と名前のついたフォルダー（例「28 日午後 生態」）内にそのファイルをコピーしてください。ファイル名は、「講演番号+筆頭者の名前」（例「000 氏名」）としてください。なお、コピー後に動作確認されることをお勧めします。特にアニメーション・動画の機能を使用される場合は、ご自分で事前に動作確認されることを強くお勧めします。OHP は使用できません。最近、USB メモリを介したウィルス感染の事例が増えています。使用される USB メディアのウィルスチェックも含めて、USB メモリ等の管理はご自分をお願いいたします。なお、会場設置のコンピュータからウィルスの感染が起こった場合でも、運営委員会は一切責任を負えませんのでご了解ください。

ポスター発表

ポスター発表のポスターの大きさは、A0 縦置き（高さ 1,189 mm × 幅 841 mm）を基本とします。ポスターには、発表題目、発表者氏名を明記してください。運営委員会で用意するものは、パネル・講演番号、画紙のみです。コアタイム時間には、発表者は必ず掲示場所で、発表・質疑応答を行ってください。

企画シンポジウム・公募セッション・関連研究集会での発表

運営は責任者（コーディネータ）に一任していますので、責任者からの指示に従って準備してください。

企画シンポジウム・公募セッションコーディネータ・関連研究集会責任者の方へ

企画シンポジウム・公募セッションの発表会場には、Microsoft PowerPoint 2013 をインストールしたコンピュータと液晶プロジェクタを、関連研究集会会場には、液晶プロジェクタのみを準備します。これ以外の機器が必要な場合には各自ご準備ください。

企画シンポジウム・公募セッションについては、各会場にタイムキーパーを配置します。発表資料のコンピュータへのコピーの手順や時間配分などは、コーディネータの責任で発表者に周知徹底するようお願いいたします。

大会へ参加される方へ

プログラム・学術講演集について

前回大会に引き続き冊子体の学術講演集（要旨集）を作成し、会場受付にて配布いたします。プログラム（印刷体）もこの学術講演集に含まれます。各要旨は、日本森林学会ホームページ（<http://www.forestry.jp/>）からリンクしたサイトにおいて 3 月初旬より閲覧できる予定ですので、必要な要旨は各自で事前に印刷しご持参ください。

名札ケースについて

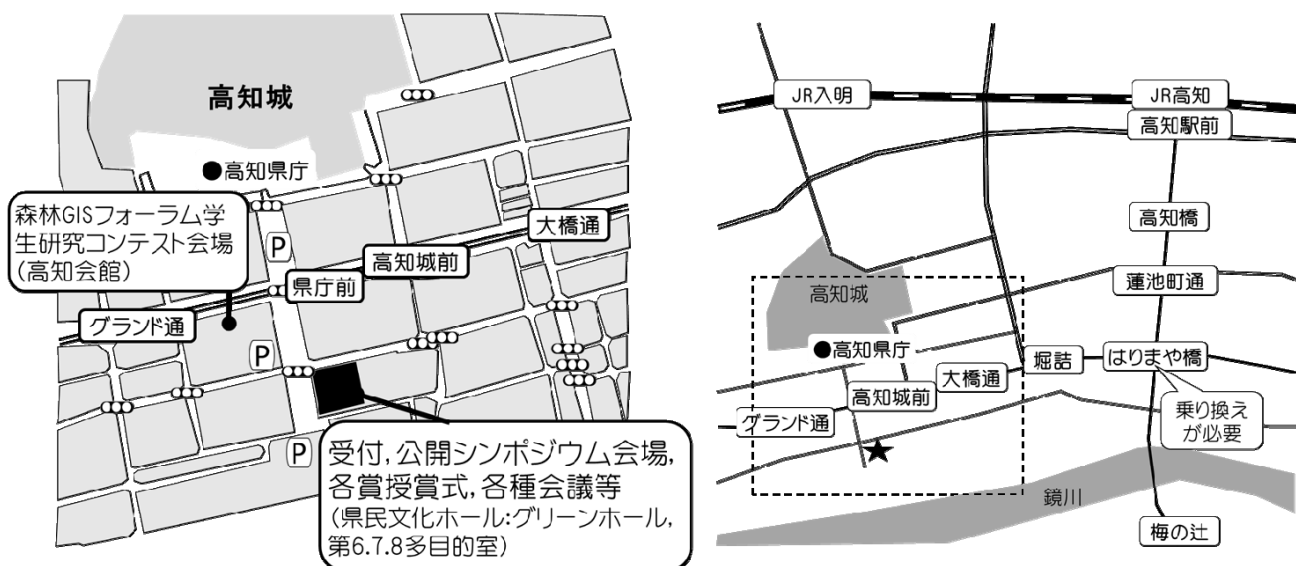
名札を収納するケースの持参をお願いいたします。運営委員会で名刺サイズの名札を用意いたしますので、お手持ちの名札ケースに入れてお使いください。

懇親会について

今大会の懇親会は、大会会場（高知大学朝倉キャンパス）から離れた会場となっております。大会会場からの移動は、チャーターバスにてご案内いたします。開始時間 18:30 までに懇親会会場へご参集をお願いいたします。なお、チャーターバスの出発時間などは当日ご案内いたしますので、円滑な移動にご協力をお願いいたします。

会場案内図：高知県立県民文化ホール（高知県高知市本町 4 丁目 3-30 電話：088-824-5321）

（3 月 26 日）



【高知龍馬空港から】※南国バイパス経由の連絡バスでは約 10 分多く要します。

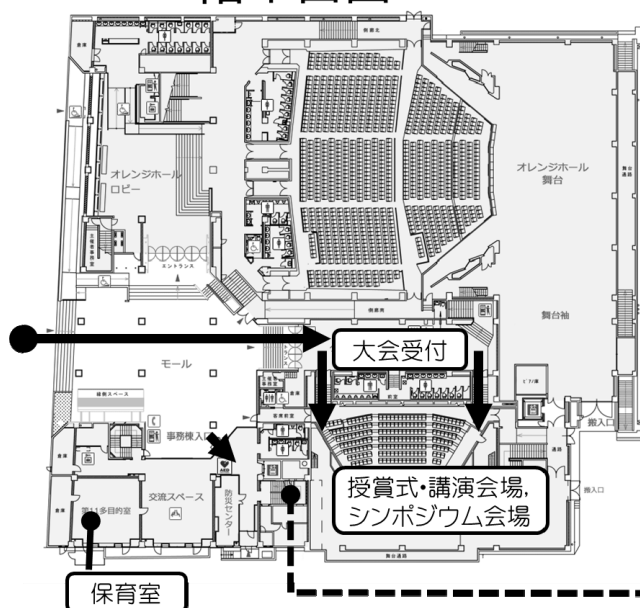
- ・車で約 25 分（会場の駐車場は使えません。会場周辺の有料駐車場をご利用ください。）
- ・空港連絡バス（県庁前行き）＜約 25 分＞「県庁前」下車 徒歩 3 分
- ・空港連絡バス（JR 高知駅行き）＜約 20 分＞「はりまや橋」下車。路面電車（柵形，鏡川橋，朝倉，いの行き）に乗り換え＜約 5 分＞「県庁前」下車 徒歩 3 分

【JR 高知駅から】

- ・車で約 10 分（会場の駐車場は使えません。会場周辺の有料駐車場をご利用ください。）
- ・路面電車「高知駅前」＜約 5 分＞「はりまや橋」下車。西行きの「はりまや橋」電停から（柵形，鏡川橋，朝倉，いの行き）に乗り換え＜約 5 分＞「県庁前」下車 徒歩 3 分

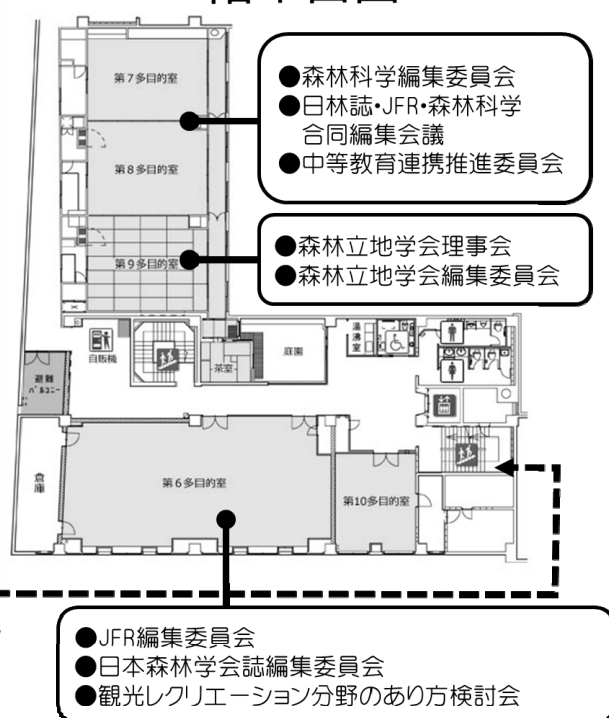
※「高知駅前」から路面電車にて「県庁前」まで移動される場合の乗り継ぎ方法につきましては、とさでん交通 HP（<http://www.tosaden.co.jp>）の乗り継ぎ案内でご確認ください。

1 階平面図



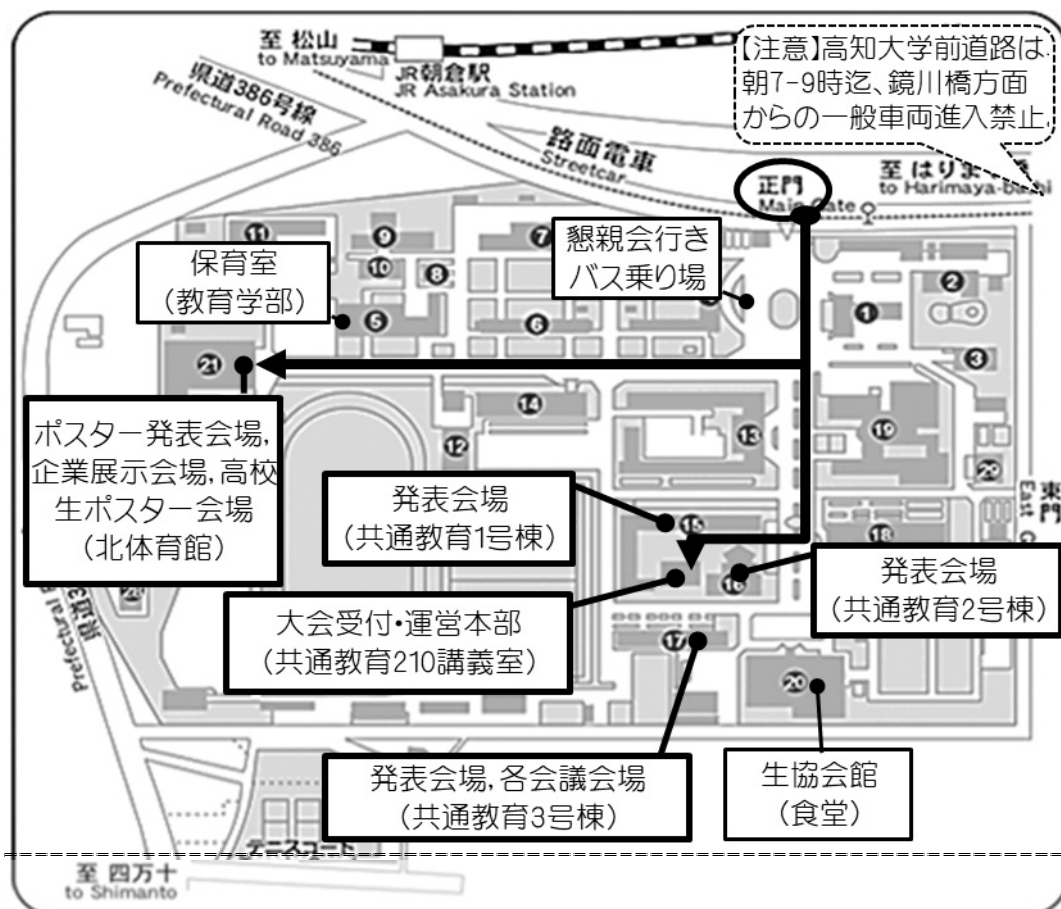
1階から4階へ→

4 階平面図



会場案内図：高知大学朝倉キャンパス（高知県高知市曙町二丁目5番1号）

（3月27・28・29日）



- ※ 懇親会は、口頭発表・ポスター発表会場から離れた会場となっております。大会会場（高知大学朝倉キャンパス）からの移動は、チャーターバスにてご案内いたします。バスの発車時刻は当日の受付横などに掲示いたしますので、ご確認をお願いいたします。
- ※ 校内駐車場は有料で限りがあります。周辺にはパーキングはありません。原則として、公共交通機関の利用をお願いいたします。
- ※ 公共交通機関の乗り換えにつきましては、「とさでん交通 HP」<http://www.tosaden.co.jp> や「バスこっち」<https://buskocchi.desuca.co.jp/> をご利用ください。

【高知龍馬空港から】※南国バイパス経由の連絡バスでは約10分多く要します。

- ・空港連絡バス＜約20分＞「はりまや橋」か、＜約25分＞「JR高知駅」で下車。路線バス、路面電車またはJR土讃線へお乗り換えください。

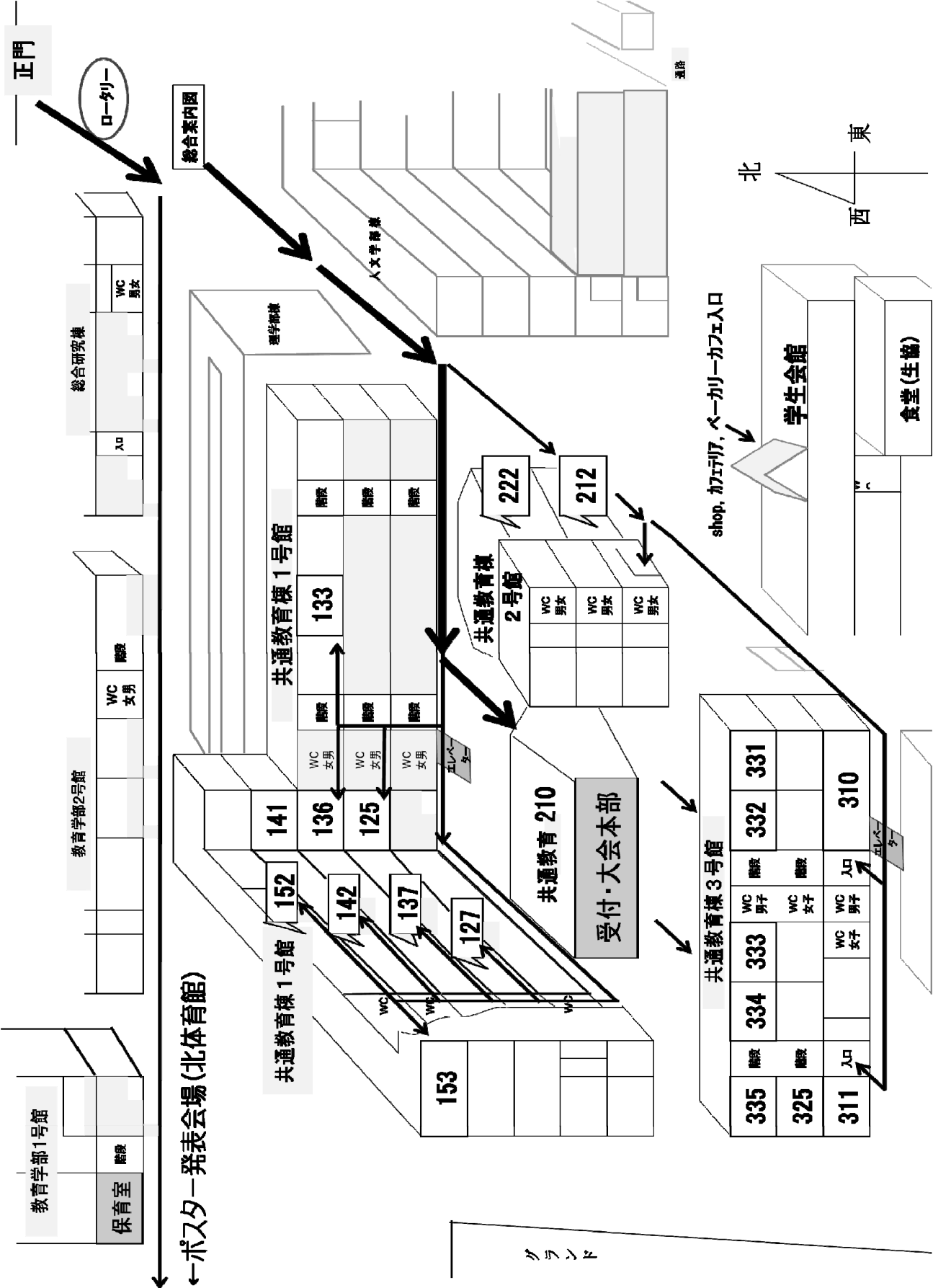
【はりまや橋から】

- ・路線バス（はりまや橋南西乗り場「堺町」から乗車）で＜約20分＞「朝倉高知大学前」下車すぐ（行先 Y2～6：天王ニュータウン，八田，高岡，須崎出張所，宇佐行き）（行先 Z2～4：狩山口，土居，長沢，行き）
- ・路面電車（朝倉，いの行き）で＜約30分＞「朝倉（高知大学前）」下車すぐ

【JR高知駅から】

- ・路線バスで＜約25分＞「朝倉高知大学前」下車すぐ（行先番号 Y4～6：高岡，須崎出張所，宇佐行き）※「高知駅」からの直通便です。
- ・路面電車「高知駅前」＜約5分＞「はりまや橋」下車。西行きの「はりまや橋」電停から（朝倉，いの行き）に乗り換え＜約30分＞「朝倉（高知大学前）」下車すぐ
- ・JR土讃線下り＜15分＞「朝倉駅」下車 徒歩3分

会場詳細図：高知大学朝倉キャンパス（高知県高知市曙町二丁目5番1号）
 (3月27・28・29日)



ポスター発表会場配置（北体育館）

※ポスター番号（下3ケタ）は各配置場所に対して割り振られており、1日目と2日目で同一です（高校生ポスター発表を除く）。そのため、場所によっては空き番号があります。当日会場に掲示されている配置図に従ってポスターを11：00までに掲示してください。ポスターは、発表当日の16：30～17：30（27日）に撤収してください。学生ポスター・授賞ポスターは、28日にも掲示します。

配置場	3月27日		3月28日	
	ポスター番号	部門	ポスター番号	部門
1	P1-001	林政	PP01	学生ポスター 授受賞 ポスター
2	P1-002		PP02	
3	P1-003		PP03	
4	P1-004		PP04	
5	P1-005		PP05	
6	P1-006		PP06	
7	P1-007		PP07	
8	P1-008		PP08	
9	P1-009		PP09	
10	P1-010		PP10	
11	P1-011	風致	PP11	
12	P1-012		PP12	
13	P1-013		PP13	
14	P1-014		PP14	
15	P1-015		PP15	
16	P1-016		PP16	
17	P1-017		PP17	
18	P1-018		PP18	
19	P1-019	T7	PP19	
20	P1-020		PP20	
21	P1-021		PP21	
22	P1-022		PP22	
23	P1-023	教育	PP23	経営
24	P1-024		PP24	
25	P1-025		P2-025	
26	P1-026		P2-026	
27	P1-027		P2-027	
28	P1-028		P2-028	
29	P1-029		P2-029	
30	P1-030		P2-030	
31	P1-031		P2-031	
32	P1-032		P2-032	
33	P1-033	経営	P2-033	
34	P1-034		P2-034	
35	P1-035		P2-035	
36	P1-036		P2-036	
37	P1-037		P2-037	
38	P1-038		P2-038	
39	P1-039		P2-039	
40	P1-040		P2-040	
41	P1-041		P2-041	
42	P1-042		P2-042	
43	P1-043	造林	P2-043	
44	P1-044		P2-044	
45	P1-045		P2-045	
46	P1-046		P2-046	
47	P1-047		P2-047	
48	P1-048		P2-048	
49	P1-049		P2-049	
50	P1-050		P2-050	
51	P1-051		P2-051	
52	P1-052		P2-052	
53	P1-053	遺伝・育種	P2-053	
54	P1-054		P2-054	
55	P1-055		P2-055	
56	P1-056		P2-056	
57	P1-057		P2-057	
58	P1-058		P2-058	
59	P1-059		P2-059	
60	P1-060		P2-060	
61	P1-061		P2-061	
62	P1-062		P2-062	
63	P1-063	特用林産	P2-063	造林
64	P1-064		P2-064	
65	P1-065		P2-065	
66	P1-066		P2-066	
67	P1-067		P2-067	
68	P1-068		P2-068	
69	P1-069		P2-069	
70	P1-070		P2-070	
71	P1-071		P2-071	
72	P1-072		P2-072	
73	P1-073	生理	P2-073	
74	P1-074		P2-074	
75	P1-075		P2-075	
76	P1-076		P2-076	
77	P1-077		P2-077	
78	P1-078		P2-078	
79	P1-079		P2-079	
80	P1-080		P2-080	
81	P1-081		P2-081	
82	P1-082		P2-082	
83	P1-083	防災	P2-083	
84	P1-084		P2-084	
85	P1-085		P2-085	
86	P1-086		P2-086	
87	P1-087		P2-087	
88	P1-088		P2-088	
89	P1-089		P2-089	
90	P1-090		P2-090	
91	P1-091		P2-091	
92	P1-092		P2-092	
93	P1-093	立地	P2-093	
94	P1-094		P2-094	
95	P1-095		P2-095	
96	P1-096		P2-096	

配置場	3月27日		3月28日	
	ポスター番号	部門	ポスター番号	部門
97	P1-097	生理	P2-097	造林
98	P1-098		P2-098	
99	P1-099		P2-099	
100	P1-100		P2-100	
101	P1-101		P2-101	
102	P1-102		P2-102	
103	P1-103		P2-103	
104	P1-104		P2-104	
105	P1-105		P2-105	
106	P1-106		P2-106	
107	P1-107	植物生態	P2-107	
108	P1-108		P2-108	
109	P1-109		P2-109	
110	P1-110		P2-110	
111	P1-111		P2-111	
112	P1-112		P2-112	
113	P1-113		P2-113	
114	P1-114		P2-114	
115	P1-115		P2-115	
116	P1-116	立地	P2-116	高校生ポスター発表 関連展示
117	P1-117		P2-117	
118	P1-118		P2-118	
119	P1-119		P2-119	
120	P1-120		P2-120	
121	P1-121		KP31	
122	P1-122		KP32	
123	P1-123		KP33	
124	P1-124		KP34	
125	P1-125		KP35	
126	P1-126	T2	KP36	遺伝・育種
127	P1-127		KP37	
128	P1-128		KP38	
129	P1-129		P2-129	
130	P1-130		P2-130	
131	P1-131		P2-131	
132	P1-132		P2-132	
133	P1-133		P2-133	
134	P1-134		P2-134	
135	P1-135		P2-135	
136	P1-136	T2	P2-136	遺伝・育種
137	P1-137		P2-137	
138	P1-138		P2-138	
139	P1-139		P2-139	
140	P1-140		P2-140	
141	P1-141		P2-141	
142	P1-142		P2-142	
143	P1-143		P2-143	
144	P1-144		P2-144	
145	P1-145		P2-145	
146	P1-146	T2	P2-146	遺伝・育種
147	P1-147		P2-147	
148	P1-148		P2-148	
149	P1-149		P2-149	
150	P1-150		P2-150	
151	P1-151		P2-151	
152	P1-152		P2-152	
153	P1-153		P2-153	
154	P1-154		P2-154	
155	P1-155		P2-155	
156	P1-156	T2	P2-156	遺伝・育種
157	P1-157		P2-157	
158	P1-158		P2-158	
159	P1-159		P2-159	
160	P1-160		P2-160	
161	P1-161		P2-161	
162	P1-162		P2-162	
163	P1-163		P2-163	
164	P1-164		P2-164	
165	P1-165		P2-165	
166	P1-166	T2	P2-166	遺伝・育種
167	P1-167		P2-167	
168	P1-168		P2-168	
169	P1-169		P2-169	
170	P1-170		P2-170	
171	P1-171		P2-171	
172	P1-172		P2-172	
173	P1-173		P2-173	
174	P1-174		P2-174	
175	P1-175		P2-175	
176	P1-176	防災	P2-176	植物生態
177	P1-177		P2-177	
178	P1-178		P2-178	
179	P1-179		P2-179	
180	P1-180		P2-180	
181	P1-181		P2-181	
182	P1-182		P2-182	
183	P1-183		P2-183	
184	P1-184		P2-184	
185	P1-185		P2-185	
186	P1-186	立地	P2-186	立地
187	P1-187		P2-187	
188	P1-188		P2-188	
189	P1-189		P2-189	
190	P1-190		P2-190	
191	P1-191		P2-191	
192	P1-192		P2-192	

配置場	3月27日		3月28日	
	ポスター番号	部門	ポスター番号	部門
193	P1-193	防災	P2-193	立地
194	P1-194		P2-194	
195	P1-195		P2-195	
196	P1-196		P2-196	
197	P1-197		P2-197	
198	P1-198		P2-198	
199	P1-199		P2-199	
200	P1-200		P2-200	
201	P1-201		P2-201	
202	P1-202		P2-202	
203	P1-203	利用	P2-203	
204	P1-204		P2-204	
205	P1-205		P2-205	
206	P1-206		P2-206	
207	P1-207		P2-207	
208	P1-208		P2-208	
209	P1-209		P2-209	
210	P1-210		P2-210	
211	P1-211		P2-211	
212	P1-212		P2-212	
213	P1-213	動物・昆虫	P2-213	
214	P1-214		P2-214	
215	P1-215		P2-215	
216	P1-216		P2-216	
217	P1-217		P2-217	
218	P1-218		P2-218	
219	P1-219		P2-219	
220	P1-220		P2-220	
221	P1-221		P2-221	
222	P1-222		P2-222	
223	P1-223	動物・昆虫	P2-223	
224	P1-224		P2-224	
225	P1-225		P2-225	
226	P1-226		P2-226	
227	P1-227		P2-227	
228	P1-228		P2-228	
229	P1-229		P2-229	
230	P1-230		P2-230	
231	P1-231		P2-231	
232	P1-232		P2-232	
233	P1-233	T3	P2-233	
234	P1-234		P2-234	
235	P1-235		P2-235	
236	P1-236		P2-236	
237	P1-237		P2-237	
238	P1-238		P2-238	
239	P1-239		P2-239	
240	P1-240		P2-240	
241	P1-241	微生物	P2-241	
242	P1-242		P2-242	
243	P1-243		P2-243	
244	P1-244		P2-244	
245	P1-245		P2-245	
246	P1-246		P2-246	
247	P1-247		P2-247	
248	P1-248		P2-248	
249	P1-249		P2-249	
250	P1-250		P2-250	
251	P1-251	微生物	P2-251	
252	P1-252		P2-252	
253	P1-253		P2-253	
254	P1-254		P2-254	
255	P1-255		KP39	
256	P1-256		KP40	
257	P1-257		KP01	
258	P1-258		KP02	
259	P1-259		KP03	
260	P1-260		KP04	
261	P1-261	植物生態	KP05	
262	P1-262		KP06	
263	P1-263		KP07	
264	P1-264		KP08	
265	P1-265		KP09	
266	P1-266		KP10	
267	P1-267		KP11	
268	P1-268		KP12	
269	空き		KP13	
270	空き		KP14	
271	JR論文賞ポスター展示	高校生ポスター発表	KP15	
272	日林誌論文賞ポスター展示		KP16	
273	空き		KP17	
274	P1-274		KP18	
275	P1-275		KP19	
276	P1-276		KP20	
277	P1-277		KP21	
278	P1-278		KP22	
279	P1-279		KP23	
280	P1-280		KP24	
281	P1-281	T5	KP25	
282	空き		KP26	
283	空き		KP27	
284	空き		KP28	
285	空き		KP29	
286	空き		KP30	
会場案内板裏			森林・林業関係試験研究機関の現状と研究推進上の課題に関するアンケート調査 ポスター展示	

大会スケジュール 3月26日

開始時刻／会場	高知県立県民文化ホール グリーンホール	高知県立 県民文化ホール 第6多目的室	高知県立 県民文化ホール 第7-8多目的室	高知県立 県民文化ホール 第9多目的室	高知会館 「飛鳥」	高知県立 県民文化ホール グリーンホール前
8:30						
8:45	授賞式・受賞者講演					
9:00						
9:15						
9:30	開場					
9:45						
10:00						
10:15						
10:30						
10:45						
11:00	日本森林学会各賞授賞式・受賞者講演					
11:15						
11:30						
11:45						
12:00						
12:15						
12:30	シンポジウム					
12:45						
13:00	開場	JFR編集委員会				大会受付
13:15						
13:30						
13:45						
14:00						
14:15						
14:30						
14:45		日林誌 編集委員会	森林科学 編集委員会			
15:00	市民公開シンポジウム 「林業大学校～その役割と目指すもの～」					
15:15						
15:30						
15:45						
16:00						
16:15			日林誌・JFR・ 森林科学 合同編集会議			
16:30						
16:45		学会企画		森林立地学会 理事会		
17:00						
17:15						
17:30						
17:45		観光レクリエー ション分野の あり方検討会	中等教育連携 推進委員会		森林GIS フォーラム 学生研究 コンテスト	
18:00						
18:15				森林立地 編集委員会		
18:30						
18:45						

■学会企画

会場

第6多目的室 観光レクリエーション分野のあり方検討会

■委員会

会場

第6多目的室 JFR編集委員会
 第6多目的室 日林誌編集委員会
 第7-8多目的室 森林科学編集委員会
 第7-8多目的室 日林誌・JFR・森林科学合同編集会議
 第7-8多目的室 中等教育連携推進委員会

■関連研究集会一覧(詳細は別ページをご覧ください)

会場

高知会館「飛鳥」 森林GISフォーラム学生研究コンテスト
 第9多目的室 森林立地学会理事会
 第9多目的室 森林立地編集委員会

大会スケジュール 3月27日

開始時間／会場	共通教育1号館 125講義室	共通教育1号館 127講義室	共通教育1号館 133講義室	共通教育1号館 137講義室	共通教育1号館 141講義室	共通教育1号館 142講義室	共通教育1号館 152講義室	共通教育1号館 153講義室
8:30								
8:45	S1	S10		S4	S5	S6	S3	S2
9:00	S1-1 S1-2 S1-3 S1-4 S1-5 S1-6 S1-7 S1-8 S1-9 S1-10	S10-1 S10-2 S10-3 S10-4 S10-5 S10-6 S10-7 S10-8 S10-9	T1a	S4-1 S4-2 S4-3	S5-1 S5-2 S5-3 S5-4 S5-5 S5-6 S5-7 S5-8	S6-1 S6-2 S6-3 S6-4 S6-5 S6-6 S6-7 S6-8	S3-1 S3-2 S3-3 S3-4 S3-5 S3-6 S3-7	S2-1 S2-2 S2-3 S2-4
9:15			趣旨説明					
9:30			T1-1					
9:45			T1-2					
10:00			T1-3					
10:15			T1-4					
10:30			調整・討論					
10:45			T1-5					
11:00			T1-6	T5a				
11:15			T1-7	趣旨説明				
11:30			T1-8	ポスター紹介				
11:45			調整・討論	ポスター紹介				
12:00								
12:15								
12:30								
12:45								
13:00								
13:15								
13:30								
13:45								
14:00								
14:15	S11	林政1	T1b	T5b	S13	T6	S12	植物生態1
14:30	S11-1 S11-2 S11-3 S11-4 S11-5 S11-6 S11-7 S11-8 S11-9	A1	T1-9	T5-1	S13-1 S13-2 S13-3 S13-4 S13-5 S13-6	趣旨説明	S12-1 S12-2 S12-3	H1
14:45		A2	T1-10	T5-2		T6-1		H2
15:00		A3	T1-11	調整・討論		T6-2		H3
15:15		A4	T1-12	T5-3		T6-3		調整・討論
15:30		A5	調整・討論	T5-4		T6-4		造林1
15:45		A6	T1-13	調整・討論		T6-5		E1
16:00		A7	T1-14	T5-5		総合討論		E2
16:15		A8	T1-15	T5-6		総合討論		E3
16:30		A9	T1-16	T5-7				E4
16:45		調整	調整・討論	T5-8				調整・討論
17:00				調整・討論				
17:15								
17:30								
17:45								
18:00								
18:15								
18:30-20:30	懇親会（会場：三翠園 高知市鷹匠町1-3-35）							

■関連研究集会

会場

3号館331講義室 IUFRO-J平成30年度機関代表会議

■企画シンポジウム一覧（詳細は別ページをご覧ください）

会場

- 1号館125講義室 S1.下刈り省力化を睨んだ造林要素技術の展開
1号館153講義室 S2.気候変動はマツ材線虫病の拡大に対してどのような影響を与えるか？
1号館152講義室 S3.冬の森林生態学－気候変動への示唆－
1号館137講義室 S4.データベースは樹木根研究を加速させるか？－樹木根の成長と機能 企画シンポジウム－
1号館141講義室 S5.わが国における新たな国産材産地形成の実態とその意味について
1号館142講義室 S6.森林気象害のリスク管理－森林保険創設80周年を迎えて－
3号館335講義室 S7.林業遺産の保存と持続的な活用に向けて－日本森林学会の選定遺産の紹介－
3号館311講義室 S8.生理部門企画シンポジウム「金属元素－輸送・集積・無毒化」とポスター1分紹介
3号館325講義室 S9.里山林の前史としての「草山」を考える
1号館127講義室 S10.森林教育研究のさらなる展開を目指して－教育学、実践現場との関わりを通じて
1号館125講義室 S11.津波被災海岸林の再生に向けた取り組み：人工造成基盤上への森林造成の状況
1号館152講義室 S12.薬剤使用の制約を見越して松くい虫被害対策を考える
1号館141講義室 S13.日本の伝統的な漆塗を支える国産漆の増産
3号館311講義室 S14.環境変化にともなう森林の生産性と分布の予測
3号館325講義室 S15.森林の種間交雑の実態にせまる

■公募セッション一覧（詳細は別ページをご覧ください）

会場

- 1号館133講義室 T1.木質バイオマスのエネルギー利用の現状と展望－FIT後を見据えて－
1号館212講義室 T2.被災地での林業活動再開のために森林の放射性セシウム研究から見えること
1号館222講義室 T3.森林におけるシカ問題の解決に向けて
3号館335講義室 T4.林業遺産の保存と持続的な活用に関する研究
1号館137講義室 T5.樹木根の成長と機能
1号館142講義室 T6.気象害リスクを低める主伐期時代の森林施業を考える－個体から景観までの空間構造と森林施業－

大会スケジュール 3月27日

開始時間／会場	共通教育 2号館 212講義室	共通教育 2号館 222講義室	共通教育 3号館 311講義室	共通教育 3号館 325講義室	共通教育 3号館 331講義室	共通教育 3号館 335講義室	北体育館	北体育館	共通教育 2号館 210講義室
8:30									
8:45		T3	S8	S9		S7		企業展示準備	
9:00	T2a	T3-1					P1 ポスター 準備 (11:00までに 掲示して ください)		
9:15	趣旨説明	T3-2				S7-1 S7-2 S7-3 S7-4 S7-5 S7-6			
9:30	T2-1	T3-3							
9:45	T2-2	調整・討論							
10:00	T2-3	T3-4		S9-1					
10:15	調整・討論	T3-5	S8-1 S8-2 S8-3	S9-2 S9-3 S9-4 S9-5					
10:30	T2-4	T3-6							
10:45	T2-5	調整・討論							
11:00	T2-6	T3-7				T4a			
11:15	調整・討論	T3-8				T4-1	P1 ポスター 発表		
11:30	ポスター紹介	T3-9				T4-2			
11:45	ポスター紹介	調整・討論				T4-3			
12:00					IUFRO-J 平成30年度 機関代表 会議		P1 (奇数番) コアタイム		
12:15									
12:30									
12:45							P1 (偶数番) コアタイム		
13:00								企業展示	大会受付
13:15									
13:30									
13:45									
14:00									
14:15	T2b	経営1	S14	S15		T4b			
14:30	T2-7	D1				T4-4	P1 ポスター 発表		
14:45	T2-8	D2				T4-5			
15:00	T2-9	D3				T4-6			
15:15	T2-10	調整・討論	S14-1 S14-2 S14-3 S14-4 S14-5 S14-6 S14-7 S14-8	S15-1 S15-2 S15-3 S15-4 S15-5 S15-6 S15-7		T4-7			
15:30	調整・討論	D4				調整・討論			
15:45	T2-11	D5				T4-8			
16:00	T2-12	D6				T4-9			
16:15	T2-13	調整・討論				T4-10			
16:30	調整・討論	D7				T4-11			
16:45	総合討論	D8				調整・討論	P1ポスター撤 収・受賞ポ スター移動		
17:00		D9							
17:15		D10							
17:30									
17:45									
18:00									
18:15									
懇親会（会場：三翠園 高知市鷹匠町1-3-35）									

■森林・林業関係試験研究機関の現状と研究推進上の課題に関するアンケート調査 ポスター展示（北体育館、会場案内板の裏）

■P1ポスター発表（北体育館）

林政	P1-001～P1-013	
風致	P1-014～P1-019	
T7	P1-020～P1-024	
教育	P1-025～P1-034	
経営	P1-035～P1-048	※学生ポスター賞応募ポスターのみ
造林	P1-049～P1-065	※学生ポスター賞応募ポスターのみ
遺伝・育種	P1-066～P1-077	※学生ポスター賞応募ポスターのみ
特用林産	P1-078～P1-084	
生理	P1-085～P1-116	
植物生態	P1-117～P1-128、P1-257～P1-268	※学生ポスター賞応募ポスターのみ
立地	P1-129～P1-141	※学生ポスター賞応募ポスターのみ
T2	P1-142～P1-162	
防災	P1-163～P1-197	
利用	P1-198～P1-218	
動物・昆虫	P1-219～P1-238	※学生ポスター賞応募ポスターのみ
T3	P1-239～P1-245	
微生物	P1-246～P1-256、P1-274～P1-275	※学生ポスター賞応募ポスターのみ
T5	P1-276～P1-281	

※ポスター番号（下3ケタ）は各配置場所に対して割り振られており、1日目と2日目と同一です。そのため、場所によっては空き番号があります。
 ※植物生態と微生物は番号が離れていますが、場所は近いです。

大会スケジュール 3月28日

開始時間／会場	共通教育1号館 125講義室	共通教育 1号館 127講義室	共通教育 1号館 133講義室	共通教育 1号館 137講義室	共通教育 1号館 141講義室	共通教育 1号館 142講義室	共通教育 1号館 152講義室	共通教育 1号館 153講義室
8:30								
8:45	風致	T8			教育1	生理		動物・昆虫1
9:00	B1	趣旨説明	立地		C1	G1		L1
9:15	B2	T8-1	I1	植物生態2	C2	G2		L2
9:30	B3	T8-2	I2	H4	C3	G3		L3
9:45	B4	T8-3	I3	H5	C4	調整・討論		L4
10:00	B5	T8-4	I4	H6	C5	G4		L5
10:15	B6	総合討論	I5	H7	調整・討論	G5		調整・討論
10:30	B7	T7a	調整・討論	調整・討論	C6	G6		L6
10:45	B8	T7-1	I6	H8	C7	調整・討論		L7
11:00	B9	T7-2	I7	H9	C8	G7		L8
11:15	調整	T7-3	I8	H10	C9	G8		L9
11:30		T7-4	I9	H11	C10	調整・討論		L10
11:45		調整・討論	調整・討論	調整・討論	調整・討論			調整・討論
12:00	学会企画							
12:15	男女共同参画 ランチョンミーティ ング「海外滞在と研究 者家族」							
12:30								
12:45								
13:00								
13:15	学会企画							
13:30	大学院進学とその後の 進路の選択ー公立研究機関、行政機 関への就職ー							
13:45								
14:00								
14:15		T7b	T9	造林2	教育2	防災		動物・昆虫2
14:30		T7-5	T9-1	E5	C11	J1		L11
14:45		T7-6	T9-2	E6	C12	J2		L12
15:00		T7-7	T9-3	E7	C13	J3		L13
15:15		T7-8	T9-4	E8	C14	J4		L14
15:30		T7-9	調整	E9	C15	J5		L15
15:45		調整・討論	T9-5	調整・討論	C16	J6		L16
16:00		T7-10	T9-6	E10	調整・討論	調整・討論		調整・討論
16:15		T7-11	T9-7	E11	C17	J7		L17
16:30		T7-12	T9-8	E12	C18	J8		L18
16:45	学会企画	T7-13	調整	E13	C19	J9		L19
17:00	論文執筆や審査 の経験を共有 しようPart 3	T7-14		E14	C20	J10		L20
17:15		調整・討論		調整・討論	C21	J11		L21
17:30					調整・討論	調整・討論		調整・討論
17:45								
18:00								
18:15								
18:30								
18:45								

■学生ポスター授賞式 12:00-12:30 北体育館学生ポスター賞受賞ポスター掲示場所前(受付付近)

■高校生ポスター表彰式等 14:00-15:00 北体育館学生高校生ポスター掲示場所前

■学会企画

会場

1号館125講義室 男女共同参画ランチョンミーティング「海外滞在と研究者家族」
1号館125講義室 大学院進学とその後の進路の選択ー公立研究機関、行政機関への就職ー
1号館125講義室 論文執筆や審査の経験を共有しようPart 3

■公募セッション一覧(詳細は別ページをご覧ください)

会場

1号館127講義室 T7.観光とレクリエーション
1号館127講義室 T8.森林環境の持つ保健休養機能の基礎的研究と応用研究
1号館133講義室 T9.熱帯林研究

大会スケジュール 3月28日

開始時間／会場	共通教育 2号館 212講義室	共通教育 2号館 222講義室	共通教育 3号館 311講義室	共通教育 3号館 325講義室	共通教育 3号館 335講義室	北体育館	北体育館	北体育館	共通教育2号館 210講義室
8:30									
8:45	林政2	経営2			利用1				
9:00	A10	D11			K1				
9:15	A11	D12		遺伝・育種	K2				
9:30	A12	D13		F2	K3				
9:45	A13	調整・討論		F3	調整・討論				
10:00	A14	D14		F4	K4				
10:15	A15	D15		調整・討論	K5				
10:30	A16	D16		F5	K6				
10:45	A17	D17		F6	調整・討論				
11:00	A18	調整・討論		F7	K7				
11:15	A19	D18		F8	K8				
11:30	A20	D19		F9	K9				
11:45	調整	調整・討論		調整・討論	調整・討論				
12:00									
12:15									
12:30									
12:45									
13:00									
13:15									
13:30									
13:45									
14:00									
14:15	林政3	経営3		特用林産	利用2				
14:30	A21	D20		N1	K10				
14:45	A22	D21		N2	K11				
15:00	A23	D22		N3	K12				
15:15	A24	D23		調整・討論	調整・討論				
15:30	A25	D24		微生物	K13				
15:45	A26	調整・討論		M1	K14				
16:00	A27	D25		M2	K15				
16:15	A28	D26		M3	K16				
16:30	A29	D27		調整・討論	調整・討論				
16:45	A30	D28		M4	K17				
17:00	A31	調整・討論		M5	K18				
17:15	調整	D29		M6	K19				
17:30		D30		調整・討論	調整・討論				
17:45		D31							
18:00		D32							
18:15		調整・討論							
18:30									
18:45									

■森林・林業関係試験研究機関の現状と研究推進上の課題に関するアンケート調査 ポスター展示(北体育館、会場案内板の裏)

■P2ポスター発表(北体育館)

経営 P2-025～P2-061
 造林 P2-062～P2-120
 遺伝・育種 P2-129～P2-161
 植物生態 P2-162～P2-183
 立地 P2-184～P2-209
 動物・昆虫 P2-210～P2-237
 微生物 P2-238～P2-254

※ポスター番号(下3ケタ)は各配置場所に対して割り振られており、1日目と2日目で同一です。

■高校生ポスター発表(北体育館)

高校生ポスター KP01～KP30 (配置場所番号は257～286)
 高校生関連展示 KP31～KP40 (配置場所番号は121～128, 255～256)

■学生ポスター・受賞ポスター展示(北体育館)

PP01～PP24 (配置場所番号は001～024)

大会スケジュール 3月29日

開始時刻／会場	共通教育 1号館 127講義室	共通教育 1号館 133講義室	共通教育 1号館 136講義室	共通教育 1号館 137講義室	共通教育 1号館 141講義室	共通教育 1号館 142講義室	共通教育 1号館 153講義室	共通教育2号館 212講義室
8:30								
8:45								
9:00								
9:15								
9:30								
9:45								
10:00								
10:15	第22回森林 施業研究会 シンポジウム	樹木病害 研究会	第34回林木の 成長機構 研究会	第7回森林 遺伝育種 シンポジウム	第24回森林 昆虫談話会	森林計画学会 総会		
10:30								
10:45								
11:00								
11:15								
11:30								
11:45								
12:00								
12:15								
12:30								
12:45								
13:00								
13:15						森林計画学会賞 受賞者講演会		
13:30								
13:45								
14:00								
14:15								
14:30								
14:45								
15:00								
15:15								
15:30								
15:45								
16:00								
16:15								
16:30								
16:45								
17:00								
17:15								
17:30								
17:45								

■関連研究集会一覧(詳細は別ページをご覧ください)

会場	
1号館127講義室	第22回森林施業研究会シンポジウム
1号館133講義室	樹木病害研究会
1号館136講義室	第34回林木の成長機構研究会
1号館137講義室	第7回森林遺伝育種シンポジウム
1号館141講義室	第24回森林昆虫談話会
1号館142講義室	森林計画学会総会・受賞者講演会・春季シンポジウム
1号館153講義室	森林利用学会総会・シンポジウム
2号館212講義室	林業経済学会2018年春季大会

口頭発表 座長

部門	発表番号	座長氏名(所属)
林政1	A1	山本信次(岩手大学)
	A2～A9	前の講演者が座長(司会)を務める
林政2	A10	横田康裕(森林総合研究所)
	A11～A20	前の講演者が座長(司会)を務める
林政3	A21	興梠克久(筑波大学)
	A22～A31	前の講演者が座長(司会)を務める
風致	B1	奥敬一(富山大学)
	B2～B9	前の講演者が座長(司会)を務める
教育1	C1～C5	井上真理子(森林総合研究所)
	C6～C10	杉浦克明(日本大学)
教育2	C11～C16	大石康彦(森林総合研究所)
	C17～C21	東原貴志(上越教育大学)
経営1	D1～D6	光田靖(宮崎大学)
	D7～D10	西園朋広(森林総合研究所)
経営2	D11～D13	村上拓彦(新潟大学)
	D14～D17	栗屋善雄(岐阜大学)
経営3	D18～D19	齋藤英樹(森林総合研究所)
	D20～D24	平田泰雅(森林総合研究所)
	D25～D28	加藤正人(信州大学)
	D29～D32	加藤顕(千葉大学)
造林1	E1～E4	渡邊仁志(岐阜県森林研究所)
造林2	E5～E9	八木橋勉(森林総合研究所)
	E10～E14	吉田俊也(北海道大)
遺伝・育種	F2～F4	内山憲太郎(森林総合研究所)
	F5～F9	渡辺洋一(千葉大学)
生理	G1～G3	東若菜(京都大学)
	G4～G6	井上裕太(森林総合研究所)
	G7～G8	赤田辰治(弘前大学)
植物生態1,2	H1～H11	長池卓男(山梨県森林総合研究所)
立地	I1～I5	石塚成宏(森林総合研究所)
	I6～I9	高橋輝昌(千葉大学)
防災	J1～J6	瀧澤英紀(日本大学)
	J7～J11	小杉賢一朗(京都大学)
利用1	K1～K3	吉村哲彦(島根大学)
	K4～K6	寺岡行雄(鹿児島大学)
	K7～K9	仁多見俊夫(東京大学)
利用2	K10～K12	斎藤仁志(信州大学)
	K13～K16	山口浩和(森林総合研究所)
	K17～K19	松本武(東京農工大学)
動物・昆虫1	L1～L5	山崎理正(京都大学)
	L6～L10	浦野忠久(森林総合研究所)
動物・昆虫2	L11～L16	中村克典(森林総合研究所)
	L17～L21	福本浩士(三重県林業研究所)
微生物	M1～M3	太田祐子(日本大学)
	M4～M6	松田陽介(三重大学)
特用林産	N1～N3	木下晃彦(森林総合研究所)

セッション番号	発表番号	座長氏名(所属)
T1	趣旨説明	鈴木保志(高知大学)
	T1-1～T1-4	横田康裕(森林総合研究所)
	T1-5～T1-8	久保山裕史(森林総合研究所)
	T1-9～T1-12	有賀一広(宇都宮大学)
T2	T1-13～T1-16	寺岡行雄(鹿児島大学)
	趣旨説明	小松雅史(森林総合研究所)
	T2-1～T2-6	小松雅史(森林総合研究所)
	T2-7～T2-13	大久保達弘(宇都宮大学)
T3	T3-1～T3-3	藤木大介(兵庫県立大学)
	T3-4～T3-6	明石信廣(北海道立総合研究機構)
	T3-7～T3-9	飯島勇人(森林総合研究所)
T4	T4-1～T4-3	柴崎茂光(国立歴史民俗博物館)
	T4-4～T4-7	深町加津枝(京都大学)
	T4-8～T4-11	竹本太郎(東京農工大学)
T5	趣旨説明	平野恭弘(名古屋大学)
	T5-1～T5-2	田中(小田)あゆみ(森林総合研究所)
	T5-3～T5-4	遠藤いず貴(兵庫県立大学)
	T5-5～T5-8	牧田直樹(信州大学)
T6	趣旨説明	水永博己(静岡大学)
	T6-1	水永博己(静岡大学)
	T6-2～T6-5	南光一樹(森林総合研究所)
T7	T7-1～T7-4	武正憲(筑波大学)
	T7-5～T7-9	水内佑輔(東京大学)
	T7-10～T7-14	庄子康(北海道大学)
T8	趣旨説明	上原巖(東京農業大学)
	T8-1	竹内啓恵(東京農業大学)
	T8-2	尾崎勝彦(フリーランス)
	T8-3	高山範理(森林総合研究所)
T9	T8-4	上原巖(東京農業大学)
	T9-1	御田成顕(九州大学)
	T9-2	鷹尾元(国際農林水産業研究センター)
	T9-3	趙昕(国立環境研究所)
	T9-4	大田真彦(九州工業大学)
	T9-5	Budiman Imam(九州大学)
	T9-6	山崎勝(筑波大学)
	T9-7	神田倫花(筑波大学)
	T9-8	Mon Su Myat(筑波大学)

調整・討論のコマは座長の裁量で、総合討論、質疑、時間調整等にお使いください。
林政部門、風致部門では、講演終了後に次の講演の座長をお願いします。

研究発表題目(企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表) 3月27日午前 1/2

会場	1号館125講義室	1号館127講義室	1号館133講義室	1号館137講義室	1号館141講義室	1号館142講義室	1号館152講義室
開始時刻	S1 下刈り省力化を睨んだ 造林要素技術の展開	S10 森林教育研究のさらなる展 開を目指してー教育学、実 践現場との関わりを通じてー		S4 データベースは樹木根 研究を加速させるか？ ー樹木根の成長と機能 企画シンポジウムー	S5 わが国における新たな 国産材産地形成の実態 とその意味について	S6 森林気象害のリスク管理 ー森林保険創設80周年 を迎えてー	S3 冬の森林生態学 ー気候変動への示唆ー
9:00	S1-1 積雪地域に適した スギ林の下刈り省略方 法:長枝昭彦(秋田県林業 研究研修センター)ら	S10-1 学習指導要領等の改訂 を踏まえた「森林ESD」の推進:木 俣知大(公益社団法人国土緑化 推進機構)	T1a 木質バイオマスのエネル ギー利用の現状と展望 ーFIT後を見据えてー	S4-1 生態系研究における データ公開:Long-Term Ecological Researchの取り 組み:柴田英昭(北海道大学)	S5-1 新たな国産材産地の 形成、脱国産材産地につい て:山田壽夫(木構造振興株 式会社)	S6-1 転換期の森林保険:興 梶克久(筑波大学)	S3-1 植物の寒冷適応機構 の理解を目指して:実験室 から野外へ:上村松生(岩手 大学)ら
9:15	S1-2 下刈スケジュール が植栽木の成長に与える 影響:渡辺直史(高知県 庁)ら	S10-2 秋田県における森林環境 学習等の取り組みについて:戸 部信彦(秋田県)	趣旨説明	S4-2 樹木形質データベース の紹介と活用:小野田雄介 (京都大学)ら	S5-2 北関東における新たな 国産材産地の形成とプレカッ トおよび住宅産業の動向:坂 野上なお(京都大学)	S6-2 統計学からみた森林に おけるリスク管理:加茂憲一 (札幌医科大学)ら	S3-2 樹木木部の生活細胞 (柔細胞)の水点下温度へ の適応ー組織学的なアプ ローチ:黒田克史(森林総合 研究所)
9:30	S1-3 ワラビカバーク ロップによる下刈り省力 化:中村人史(山形県森林 研究研修センター)ら	S10-3 地域密着型ネイチャーセ ンターにおける野外教育の人材 育成:山田亮(北海道教育大学岩 見沢校)ら	T1-1 未利用バイオマス需給 の現状と課題:久保山裕史(国 立研究開発法人森林研究・整 備機構森林総合研究所)	S4-3 あなたとわたしの樹木 根研究の発展のためにー データベースとの付き合い 方ー:牧田直樹(信州大学)	S5-3 東北地域の林業構造 の再編と地域林業の課題:伊 藤幸男(岩手大学)ら	S6-3 統計資料に基づく36年 間の日本の民有人工林にお ける干害の発生状況:吉藤奈 津子((国研)森林研究・整備 機構 森林総合研究所)	S3-3 雪山における落葉樹 の開業時期:可塑性と適 化、気候変動に対する応答: 石田清(弘前大学)ら
9:45	S1-4 下刈作業の省力 化・軽労化へむけた林地 用除草剤の散布事例:外 館聖八朗(ノースジャパ ン素材流通協同組合)	S10-4 びわこちびこキャンプの 取り組みとその効果:中野友博 (びわこ成蹊スポーツ大学)	T1-2 木質バイオマス発電所 の運用実態と今後の展望:佐 藤政宗(株式会社森のエネル ギー研究所)	S5-4 北東北の原木需給と 産地形成:大塚生美(国立研 究開発法人森林研究・整備 機構 森林総合研究所)	S5-4 北東北の原木需給と 産地形成:大塚生美(国立研 究開発法人森林研究・整備 機構 森林総合研究所)	S6-4 統計資料に基づく36年 間の日本の民有人工林にお ける干害の発生状況:吉藤奈 津子((国研)森林研究・整備 機構 森林総合研究所)	S3-4 冷温帯林の高木にお いて温暖化が植物と昆虫の 相互作用に与える影響:中村 誠宏(北海道大学)
10:00	S1-5 下刈り機械化のた めの根株除去技術の検 討:渡辺一郎(地独) 北海 道立総合研究機構森林研 究本部林業試験場)ら	S10-5 幼児期における森林教育 ー東京ゆりかご幼稚園の事例報 告ー:内野彰裕(東京ゆりかご幼 稚園)	T1-3 バイオマス燃料材料活 用に対応する木材需給要因 の分析:澤田直美(東京大学)ら	S5-5 北関東における新たな 国産材産地の形成:餅田治 之(一般財団法人林業経済 研究所)	S5-6 1990年代以降の近畿 ・東海地方における木材加工 業の動向:幅建樹(東京大学)	S6-5 気象データから冠雪害 の発生リスクを評価する:勝島 隆史(森林総合研究所)ら	S3-5 土壌の凍結融解が根 リター増加を介して土壌の 窒素変換に与える影響:細川 奈々枝(北海道大学)ら
10:15	S1-6 機械地擦えによる 競合植生抑制の可能性: 大矢信次郎(長野県林業 総合センター)ら	S10-6 こどものけんくちがっ: 鷹野敦(鹿児島大学)	T1-4 木質バイオマスエネル ギーの利用と地域経済への 影響:豊田知世(島根県立大 学)	S5-6 1990年代以降の近畿 ・東海地方における木材加工 業の動向:幅建樹(東京大学)	S5-7 中国地方における新 ・国産材産地形成:伊藤勝久 (島根大学)	S6-6 気象データから冠雪害 の発生リスクを評価する:勝島 隆史(森林総合研究所)ら	S3-6 樹木の冬の窒素獲得 と植物体内での窒素動態:上 田実希(日本女子大学)
10:30	S1-7 クラッシュ地擦に よる下刈コスト削減効 果:原山尚徳(森林総合研 究所北海道支所)ら	S10-7 幼児教育における木育の 環境構成:寺床勝也(鹿児島大 学)	T1-5 兵庫県における木質バ イオマス発電原燃料の安定供 給の取り組み:横田康裕(森林 総合研究所)ら	S5-8 四国地方における国産 材加工産業の大型化と原木 流通の変化:川田勲(高知大 学)	S6-7 森林気象害と森林情報 ・高橋正義(森林総合研究所)ら	S6-8 森林保険と今後の方向 性:大貫肇(国研)森林研究・ 整備機構 森林保険センター)	S3-7 雪解けの早まりが土 壌を介して森林植物に及ぼ す影響:小林真(北海道大学)
10:45	S1-8 雑草木被度と苗の 成長に与える下刈り頻度 の影響:城田徹史(信州大 学)ら	S10-8 中学校における生物育 成の実践:大谷忠(東京学芸大 学)	T1-6 福井県における林業機 械作業システムと木質バ イオマス集荷可能量の推定:金 森啓介(福井県立大学大学院)				
11:00	S1-9 雑草木の植生によ り下刈り要否の判断基準 は異なるのか?:鶴崎幸 (福岡県農林業総合試験 場)	S10-9 森林ボランティアサー クルによる大学演習林を活用 した森林環境教育の実践:神代 圭輔(京都府立大学)	T1-7 富山県における皆伐施 業に基づく発電用バイオマス 資源利用可能量の長期予測: 関子光太郎(富山県農林水産 総合技術センター森林研究 所)				
11:15	S1-10 下刈り省力化に向 けたUAV/ドローン活用の 可能性と限界:中尾勝洋 (森林総合研究所 関西支 所)ら		T1-8 木質バイオマス発電所 稼働後素材生産業者の経営 の変化ー岩手県を事例にー: 陸海環(岩手大学)ら				
11:30			調整・討論				
11:45							
12:00 ～ 13:30	P1ポスター発表コアタイム						

企画シンポジウムについては、発表の順序を示しており、時間の配分は企画シンポジウムごとに異なります。

発表時間の厳守をお願いします。

座長は別のページに記載しています。

「調整・討論」のコマは、座長の裁量で、時間調整、総合討論等に使用します(林政、風致部門を除く)。

発表後、「調整・討論」の終了時間までは、会場にいてください(林政、風致部門を除く)。

林政部門は、直前の発表者が次の発表の司会(座長)を務めてください。

研究発表題目(企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表) 3月27日午前 2/2

会場	1号館153講義室	2号館212講義室	2号館222講義室	3号館311講義室	3号館325講義室	3号館335講義室
開始時刻	S2 気候変動はマツ材線虫病の拡大に対してどのような影響を与えるか？		T3 森林におけるシカ問題の解決に向けて	S8 生理部門企画シンポジウム「金属元素—輸送・集積・無毒化」とポスター1分紹介	S9 里山林の歴史としての「草山」を考える	S7 林業遺産の保存と持続的な活用に向けて—日本森林学会の選定遺産の紹介—
9:00	S2-1 マツノザイセンチュウ抵抗性に影響する気象要因の検討:井城泰一(森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場)ら	T2a 被災地での林業活動再開のために森林の放射性セシウム研究から見えること	T3-1 シカによる森林への影響の広域解析:飯島勇人((国研)森林総合研究所)ら	S8-1 イネの高マンガン集積に関わる分子機構:上野大勢(高知大学)ら	S9-1 大阪の里山はどのくらい草山だったのか—過去の利用と変遷を考える:佐久間大輔(大阪市立自然史博物館)	S7-1 日本森林学会による林業遺産選定の紹介:佐藤直子(九州大学)
9:15	S2-2 マツ材線虫病における病徴進展とマツノザイセンチュウの増殖過程との関係性:山口莉未(九州大学)ら	趣旨説明	T3-2 シカ過密地域の二次林をどうするか?—10年の実験結果から—鈴木牧(東京大学)ら	S8-2 タンニンによるユーカリのアルミニウム無毒化機構:田原恒(国立研究開発法人森林研究・整備機構)	S9-2 草山利用の歴史の変遷:岡山県森山地域を事例として:増井太樹(岐阜大学)	S7-2 全国アンケート調査をふまえた全国の林業遺産とこれからの課題:深町加津枝(京都大学)
9:30	S2-3 環境要因がクロマツのマツノザイセンチュウ抵抗性の発現に及ぼす影響:松永孝治(森林総合研究所 林木育種センター九州育種場)ら	T2-1 森林における放射性物質の新モニタリングの紹介:金子真司(森林総合研究所)ら	T3-3 ニホンジカによる萌芽被害は高伐りによって軽減できるか:高橋裕史(森林総合研究所)ら	S8-3 重金属集積樹木における重金属集積特性とその意義:富岡利恵(名古屋大学)ら	S9-3 森と草原の狭間で:放棄と再生に伴う草原性植物の動態:横川昌史(大阪市立自然史博物館)ら	S7-3 森林機械は遺産たりうるか?:櫻井倫(宮崎大学)
9:45	S2-4 マツノザイセンチュウの温度特性とその適応:小林玄(九州大学)ら	T2-2 きのご原本生産に資するためのコナラ立木の汚染状況調査:小川秀樹(福島県林業研究センター)ら	調整・討論		S9-4 火入れ停止後の草地はどのように森林化していくか? 種子散布型に着目して:三谷絵理子(鳥取大学)ら	S7-4 持続的な林業遺産の保全に向けた取り組み—屋久島を事例にして:柴崎茂光(国立歴史民俗博物館)
10:00		T2-3 林学研究のための新しい成長雉コア自動採取装置:香川聡(森林総合研究所)ら	T3-4 拡大するシカ—戦後70年の分布変化—小泉透(森林総合研究所)ら		S9-5 利用の終わった草山がコナラ林を生んだ:大住克博(鳥取大学)ら	S7-5 四国森林管理局が保有する林業遺産の保存と活用:江坂文寿(四国森林管理局)
10:15		調整・討論	T3-5 シカ目撃情報を活用したシカ出現予測のモデリング:江口則和(愛知県森林・林業技術センター)ら			S7-6 林業遺産「いの町の森林軌道跡」を活用した地域振興:野村孝宏(高知県いの町役場)
10:30		T2-4 材および樹皮中の ¹³⁷ Cs濃度の経年変化傾向:樹種・サイト依存性について:大橋伸太(森林総合研究所)ら	T3-6 造林地におけるニホンジカの出没傾向の把握:池田敬(岐阜大学)ら			
10:45		T2-5 2013年の茨城県筑波山におけるスギ・ヒノキ樹体内の ¹³⁷ Cs分布:渡邊未来(国立環境研究所)ら	調整・討論			
11:00		T2-6 原発事故の影響の少ない北陸地域のコナラの枝のサイズとCs-137濃度との関係:齊藤哲(森林総合研究所)ら	T3-7 高密度なニホンジカを支える冬季の環境収容力:大場孝裕(静岡県農林技術研究所)ら			T4 林業遺産の保存と持続的な活用に関する研究
11:15		調整・討論	T3-8 カメラトラップを用いたシカ個体数低減効果の検証:八代田千鶴((国研)森林機構 森林総合研究所関西支所)ら			T4-1 林業遺産をめぐる「価値」の分類と活用への反映:平野悠一郎(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)
11:30		ポスター紹介	T3-9 森林内におけるエゾシカ捕獲の適地選択:明石信廣(北海道立総合研究機構)ら			T4-2 林業遺産に対する地域の眼差しの変化—北海道の事例—八巻一成(国立研究開発法人 森林総合研究所)ら
11:45		ポスター紹介	調整・討論			T4-3 林野における資源採取の衰退・消滅と法制度に関する試論:齋藤暖生(東京大学)
12:00 ～ 13:30	P1ポスター発表コアタイム					

企画シンポジウムについては、発表の順序を示しており、時間の配分は企画シンポジウムごとに異なります。

発表時間の厳守をお願いします。

座長は別のページに記載しています。

「調整・討論」のコマは、座長の裁量で、時間調整、総合討論等に使用します(林政、風致部門を除く)。

発表後、「調整・討論」の終了時間までは、会場にいてください(林政、風致部門を除く)。

林政部門は、直前の発表者が次の発表の司会(座長)を務めてください。

研究発表題目(企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表) 3月27日午後 1/2

会場	1号館125講義室	1号館127講義室	1号館133講義室	1号館137講義室	1号館141講義室	1号館142講義室	1号館152講義室
開始時刻	S11 津波被災海岸林の再生に向けた取り組み：人工造成基盤上への森林造成の状況	林政1	T1b 木質バイオマスのエネルギー利用の現状と展望－FIT後を見据えて－	T5b 樹木根の成長と機能	S13 日本の伝統的な漆塗を支える国産漆の増産	T6 気象害リスクを低める主伐期時代の森林施業を考える－一個体から景観までの空間構造と森林施業－	S12 薬剤使用の制約を見越して松くい虫被害対策を考える
14:30	S11-1 人工造成基盤上への森林造成の取り組み：趣旨説明：小野賢二(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)ら	A1 貧困削減は森林減少を抑制するか：宮本基枝(森林総合研究所)	T1-9 都道府県別伐出可能量に基づく国レベルのバイオマス供給量の評価：中島徹(東京大学)ら	T5-1 スキャナー画像を用いた熱帯雨林の細根動態の解析：遠藤いず貴(兵庫県立大学)ら	S13-1 ヒノキ師部の傷害樹脂道形成と傷害エチレン生成の特性：楠本大(東京大学大学院)	趣旨説明	S12-1 マツノマダラカミキリの駆除をさらにすすめるために何ができるのか？：中村克典(森林総合研究所)ら
14:45	S11-3 津波被災地における津波被災海岸林の再生を目的とした生育基盤盛土工の改良事例：新井隆也(岩手県林業技術センター)ら	A2 森林幸福度に影響する自然要因の検討：滋賀県野洲川流域を対象として：高橋卓也(滋賀県立大学)ら	T1-10 地形・道路情報を用いた木質バイオマス資源の全国的な利用可能性推定：白澤敏明(信州大学)ら	T5-2 アラスカ内陸部の永久凍土林におけるクロトウヒおよび下層植生の細根生産量：野口孝太郎(森林総合研究所東北支所)ら	S13-2 異なるクローン内での樹皮組織、樹脂生産量及び植物ホルモンの関係：田端雅道(国立研究開発法人森林研究・整備機構)ら	T6-1 アロストリーに基づく樹木生成を通じたヒノキの耐風性の経年変化の推定：南光一樹(国立研究開発法人森林研究・整備機構)ら	S12-2 樹種転換の促進に向けたアカマツの新規用途としてのOLT製造技術の開発：後藤幸広(岩手県林業技術センター)ら
15:00	S11-3 津波被災地に造成された広葉樹盛土植栽地の植栽基盤特性と樹木成長について：佐野哲也(東北工業大学)	A3 自然アクセス権と森林利用を巡る諸問題：スイスおよびドイツを事例として：石崎涼子(森林総合研究所)ら	T1-11 年造林補助費用の最小化による木材生産の選定－地利条件を考慮した場合－：守口海(静岡大学)ら	調整・討論	S13-3 ウルシ液滲出時の遺伝子発現解析：渡辺敦史(九州大学大学院)ら	T6-2 列状間伐後のヒノキ人工林における個体レベルの形状比の評価：宮本和樹(森林総合研究所)ら	S12-3 東北地方におけるマツノサイゼンチュウ抵抗性品種の開発とその利用戦略：山野達太郎(森林総合研究所林木育種センター)ら
15:15	S11-4 生育基盤盛土を伴う海岸林での根系到達深度と固結層出現深度の関係：野口宏典(森林総合研究所)ら	A4 中国の森林公園管理の現状と課題：利害関係者に着目して：許思寒(九州大学)ら	T1-12 生態系モデルを用いた木質バイオマス生産シミュレーション：大場真(国立環境研究所)ら	T5-3 可視・近赤外分光反射率を用いると樹木細根はどのように評価できるのか？：谷川夏子(信州大学)ら	S13-4 <i>Diaporthe toxicodendri</i> によるウルシ綱枯病：安藤裕萌(森林総合研究所東北支所)ら	T6-3 林冠トポグラフィーに基づく風害リスク評価－SIM技術とLESのリンケージ－：小谷野開多(静岡大学)ら	
15:30	S11-5 根系成長を制限する土壌硬度を土壌貫入計で検出する方法の提案：鈴木寛(森林総合研究所)ら	A5 田園回帰する若者の山村親と仕事親－農林複合経営を志向するK氏を事例に－：高野涼(岩手大学大学院)ら	調整・討論	T5-4 ヒノキ7林分の末端次根の直径と長さの変動：土居龍成(名古屋大学大学院)ら	S13-5 ウルシ綱枯病菌 <i>Diaporthe toxicodendri</i> のゲノム解析：升屋真人(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)ら	T6-4 森林風倒害リスク：経験モデルによる推定結果と力学モデル結果の比較事例：阿部友幸(北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場)ら	
15:45	S11-6 低湿地対策としての盛土工を伴う海岸林造成－千葉県九十九里浜の事例－：小森谷あかね(千葉県農林総合研究センター森林研究所)ら	A6 高根県津和野町における地域おこし協力隊制度を活用した林業就業について：田村典江(総合地球環境学研究所)	T1-13 未利用樹種本ノの高付加価値化を含めた里山林バイオマス利用の再構築：山崎淳史(広島県立総合技術研究所林業技術センター)ら	調整・討論	S13-6 ウルシ萌芽木の成長に与える綱枯病の影響：石井智朗(岩手大学大学院)ら	T6-5 北方異齡林における風害：上村佳奈(信州大学)ら	
16:00	S11-7 千葉県有海岸林におけるクロマツの根系伸長特性：橋隆一(東京農業大学)ら	A7 県による企業の森づくり活動の支援に関する研究：水間亮洋(鹿児島大学)ら	T1-14 中山間地域の家庭における木質バイオマスの利用実態：中村省吾(国立研究開発法人国立環境研究所)ら	T5-5 耕耘と石灰施肥が樹木の細根動態と菌根形成に与える影響：田中(小田)あゆみ(森林総合研究所)ら		総合討論	
16:15	S11-8 造成緑地における土壌の特徴と機能：川東正幸(首都大学東京)ら	A8 都市近郊における住民の森林情報の把握実態と管理継承の課題：市野瀬愛(九州大学)	T1-15 大学構内で発生した未利用材の木質バイオマス利用施設への出荷：鈴木保志(高知大学)ら	T5-6 断根および石灰施用がクヌギとコナラの細根生産量に及ぼす影響：水谷和人(岐阜県森林研究所)ら		総合討論	
16:30	S11-9 四国の海岸林における林分構造の比較－広葉樹林とクロマツ林－：大谷達也(森林総研四国)	A9 高知県における魚つき林の史的展開過程：赤池慎吾(高知大学)	T1-16 未利用森林バイオマスの破碎作業のコスト構造に関する日米比較：吉岡拓如(日本大学生物資源科学部)ら	T5-7 3Dプリンタを用いた模型実験による樹木根の形状と引き倒し抵抗性との関係：谷河澤(兵庫県立大学)ら			
16:45		調整	調整・討論	T5-8 スギ、ケヤキ、クロマツにおける根系構造と引き倒しモーメントとの関係：藤堂千景(兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター)ら			
17:00				調整・討論			
17:15							
17:30							
17:45							
18:00							
18:15							
18:30 ～ 20:30	懇親会(会場：三翠園 高知市鷹匠町1-3-35)						

企画シンポジウムについては、発表の順序を示しており、時間の配分は企画シンポジウムごとに異なります。

発表時間の厳守をお願いします。

座長は別のページに記載しています。

「調整・討論」のコマは、座長の裁量で、時間調整、総合討論等に使用します(林政、風致部門を除く)。

発表後、「調整・討論」の終了時間までは、会場にいてください(林政、風致部門を除く)。

林政部門は、直前の発表者が次の発表の司会(座長)を務めてください。

研究発表題目(企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表) 3月27日午後 2/2

会場	1号館153講義室	2号館212講義室	2号館222講義室	3号館311講義室	3号館325講義室	3号館335講義室
開始時刻	植物生態1	T2b 被災地での林業活動再開のために森林の放射性セシウム研究から見えること	経営1	S14 環境変化にともなう森林の生産性と分布の予測	S15 森林の種間交雑の実態にせまる	T4b 林業遺産の保存と持続的な活用に関する研究
14:30	H1 長野県伊那市上牧里山シュンラン自生地における樹木と土壌微生物の種多様性:黒河内寛之(東京大学)ら	T2-7 森林環境における福島第一原発事故から7年間の放射性セシウムの移行状況:加藤弘亮(筑波大学)ら	D1 スギ人工林の樹冠測定を通して:吉田茂二郎(九州大学)	S14-1 森林における反応性窒素のガス-粒子転換に関する数値的研究:堅田元善(茨城大学)ら	S15-1 種間雑種の形態形質は両親種と比較して中間的か?カバノキ属3種を用いた検証:花岡剛(森林総合研究所林木育種センター)ら	T4-4 失われた林業技術と杣・小菅良豪(島根大学)
14:45	H2 四国山地三嶺山域さおりが原における防鹿柵設置の効果:池田華俊(高知大学大学院)ら	T2-8 立地の違いによるミズナラ林の放射性Cs蓄積への影響:戸田浩人(東京農工大学)ら	D2 本数密度が針葉樹人工林の樹高成長に及ぼす影響の再考:細田和男(森林総合研究所)ら	S14-2 山岳森林域における広域大気汚染の影響評価:富山県・立山における事例:久米篤(九州大学)ら	S15-2 モクレン属の交雑帯における第二世代雑種形成時の交雑不適合性の減少:玉木一郎(岐阜県立森林文化アカデミー)ら	T4-5 統治初期台湾における玉山の登頂と阿里山森林の発見:竹本太郎(東京農工大学大学院農学研究院)
15:00	H3 乾燥に晒されたニセアカシアの気孔調節:宮沢良行(九州大学)ら	T2-9 ヒノキ植栽木の放射性セシウム吸収におよぼす成長の影響:小松雅史(森林総合研究所)ら	D3 竹林の自己間引き:井上昭夫(熊本県立大学)ら	S14-3 変動する大気環境下での温帯スギ林及び熱帯季節林の炭素化学性:佐瀬裕之(アジア大気汚染研究センター)ら	S15-3 気候変動は適応的浸透交雑をもたらすか - <i>Rubus</i> 属における種間交雑 - 三村真紀子(玉川大学)ら	T4-6 生の軌跡をなぞる 一個人史と社会史の接点 - 山本伸幸(森林研究・整備機構 森林総合研究所)
15:15	調整・討論	T2-10 コナラの放射性セシウム移行係数と土壌の交換性カリウムの関係:三浦豊(森林総合研究所)ら	調整・討論	S14-4 冬季採採にとまなう春季の光阻害がトドマツ前生稚樹の成長に及ぼす影響:北尾光俊(森林総合研究所)ら	S15-4 北海道海岸林におけるミズナラ・カンワ交雑帯の実態:中西敦史(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)ら	T4-7 森林鉄道遺構の保存と活用:奥山洋一郎(鹿児島大学)ら
15:30	造林1	調整・討論	D4 スギの肥大成長フェノロジーの地理的変異:西園朋広(森林総合研究所)ら	S14-5 プナの葉内光合成過程に対するオゾンの影響:渡辺誠(東京農工大学)ら	S15-5 Hybridization and species boundaries in Japanese <i>Tsuga</i> :Worth, James (FFPRI)	調整・討論
15:45	E1 九州産スギ6品種の成長と樹形-S演習林での植栽試験の結果-榎木勉(九州大学)ら	T2-11 木質チップを用いた森林土壌からの放射性セシウム除去効率と分解率の関係:武藤芽依(横浜国立大学大学院)ら	D5 スギ人工林における間伐方法の違いによる肥大成長の違い:田中邦宏(森林総合研究所 関西支所)ら	S14-6 窒素付加とオゾン暴露がカラマツ属2種苗木の針葉成分に与える影響:音井徹人(北海道大学)ら	S15-6 溪流魚イワナをめぐる交雑現象:北野聡(長野県環境保全研究所)ら	T4-8 焼畑休閑農法の再構築、とくに人口減少地域での活用に向けて:小池浩一郎(島根大学)
16:00	E2 智頭林業において伐期が延長された123年生スギ人工林の特徴:高橋絵里奈(島根大学)ら	T2-12 菌根属栄養植物による放射性セシウムの吸収:岡田直紀(京都大学)	D6 マルチコプターによる索道のリードロープ架設:山増成久(鳥取県林業試験場)	S14-7 高濃度オゾン環境下におけるシラカンバの食害傾向とBVOCの関係性:増井昇(北海道大学)ら	S15-7 大陸スケールでみる樹木の雑種形成および浸透交雑の実態とその歴史:津田吉晃(筑波大学)	T4-9 北山林業の景観と森林所有形態の特徴:高田弥生(京都大学)ら
16:15	E3 魚梁瀬「天然」スギ林の間伐後の成長:酒井敦(森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	T2-13 福島県浜通りにおける山菜・きのこ採取地の回復可能性の推定:松浦俊也(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所)	調整・討論	S14-8 ハルニレ稚樹の成長に及ぼす高オゾンと窒素沈着の影響-虫害に注目して-:小池孝良(北海道大学)ら		T4-10 北山杉と木羽のデザイン会議の活動を通じた北山林業と鞍馬地域の協働:島内梨佐(京都大学)ら
16:30	E4 林木サイズの序列による万能森林管理の可能性:千葉幸弘(森林総合研究所)	調整・討論	D7 GISによる活用を想定した伐出コスト推定式の作成:鹿又秀徳(森林総合研究所)ら			T4-11 北山林業の活性化にむけた北山杉クラフトの可能性:埴岡千尋(京都大学)ら
16:45	調整・討論	総合討論	D8 四国における林分最適化によるスギおよびヒノキの植栽適地比較:光田晴(宮崎大学)ら			調整・討論
17:00			D9 市町村が策定・運用する数値目標(指標)から見た地域の特色と課題:山田祐亮(森林総合研究所)			
17:15			D10 アメリカの大学生の森林観に関する一考察:河瀬麻里(京都大学)			
17:30						
17:45						
18:00						
18:15						
18:30 ～ 20:30	懇親会(会場:三翠園 高知市鷹匠町1-3-35)					

企画シンポジウムについては、発表の順序を示しており、時間の配分は企画シンポジウムごとに異なります。

発表時間の厳守をお願いします。

座長は別のページに記載しています。

「調整・討論」のコマは、座長の裁量で、時間調整、総合討論等に使います(林政、風致部門を除く)。

発表後、「調整・討論」の終了時間までは、会場にいてください(林政、風致部門を除く)。

林政部門は、直前の発表者が次の発表の司会(座長)を務めてください。

研究発表題目(公募セッション・部門別口頭発表) 3月28日午前 1/2

会場	1号館125講義室	1号館127講義室	1号館133講義室	1号館137講義室	1号館141講義室	1号館142講義室
開始時刻	風致	T8 森林環境の持つ保健休養機能の基礎的研究と応用研究			教育1	生理
9:00	B1 静岡の中高年における森林散策頻度の変化:2006～2007年とその5年後の比較:森田えみ(森林総合研究所)ら	趣旨説明	立地		G1 幼児教育における子どもと森:安心と挑戦をもたらす環境としての樹木:遠藤知里(常葉大学短期大学部)	G1 遠州灘海岸防潮堤植栽木の適応状況と活着阻害要因について:猿田けい(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)ら
9:15	B2 森林のアクセス条件に恵まれた住民の森林に対する意識:藤原拓摩(岩手大学)ら	T8-1 注意回復要素「解放」の時間的拡張の試み:尾崎勝彦(フーランス)ら	I1 都市化による土壌酸性の中和が土壌有機物の分解・無機化特性に及ぼす影響:高橋輝昌(千葉大学)ら	植物生態2	C2 演習林を活用した官学連携による森林環境教育活動での子どもの行動:杉浦克明(日本大学)ら	G2 針葉樹2種の苗木において根切りと水ストレスが通水に及ぼす影響:梅林利弘(北海道大学)ら
9:30	B3 近代以降の都内の催事にみる都市公園の社会的位置付けの変遷:大竹美実(東京大学大学院)ら	T8-2 森林環境における心理的回復効果と生活の質、回復力、ストレス対処能力:高山範理(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)	I2 東広島アラカシ林における微生物呼吸に対する長期的な温暖化の影響:寺本宗正(国立研究開発法人国立環境研究所)ら	H4 東シベリアにおいて地形はカラマツ林の分布を強く規定する:佐藤永(海洋研究開発機構)ら	C3 早見表を活用した樹木の二酸化炭素固定の授業実践—小学校での森林教育—:平山大輔(三重大学)	G3 塩のち過および排出機構の異なるマングロープ2種の通水特性:三木直子(岡山大学)ら
9:45	B4 京都東山北部における白川石の石切道遺構の実態と利用可能性:張平京(京都大学)ら	T8-3 ミシガン州立大学林学科における森林アミニティ学、森林療法の講義・実習:上原麻(東京農業大学)	I3 テフラと樹林形成:春木雅寛(北海道大学)ら	H5 西南日本冷温帯混交林の初期更新過程:清野達之(筑波大学)ら	G4 森林環境学習に取り組む児童のポートフォリオ分析:高橋千尋(岩手大学)ら	調整・討論
10:00	B5 伊吹山麓の「薬草文化」を支える資源利用の複合形態:嵯峨創平(京都大学大学院 地球環境学舎)ら	T8-4 パートタイムの主婦を対象とした長期的森林散策カウンセリングの事例:竹内啓恵(東京農業大学)ら	I4 木質燃焼灰を施肥したヒノキ新植地の土壌特性:山田毅(国立研究開発法人 森林研究・整備機構)ら	H6 ヒノキ人工林における低木種個体群の構造と間伐にともなう動態:杉谷華世(鳥取大学)ら	C5 少年期の自然体験が森への意識に及ぼす影響—異なる世代へのアンケートより:蔦田明史(秋田県立大学)ら	G4 Farquharモデルによるスギ・ヒノキの光合成の環境応答比較:北川雄一(信州大学)ら
10:15	B6 砺波平野における今日の屋敷林の構成と利用形態:王聞(京都大学)ら	総合討論	I5 団粒の再形成過程における腐植量と土壌微生物活性の影響:小野裕(信州大学)ら	H7 異なる排出係数を用いた森林炭素蓄積量の比較:ミヤンマーでの調査事例:佐藤保(森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	調整・討論	G5 降水量の変化に伴うオイルパームの繁殖成長と同化物質貯蔵の応答:谷尚樹(国際農林水産業研究センター)ら
10:30	B7 文化的景観の視覚化装置試験:奥敬一(富山大学)	T7a 観光とレクリエーション	調整・討論	調整・討論	C6 中学生の森林研究への興味・関心についての分析:柏倉美沙(埼玉県上尾市立南中学校)	G6 安定同位体ハルスラベリングを用いたブナの当年シュート各器官への窒素配分:韓慶民(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)ら
10:45	B8 都道府県が管理する保護地域の現状:川端篤志(筑波大学)	T7-1 富士山における登山者モニタリング調査:中島泰(公益財団法人日本交通公社)	I6 ウダイカンバ連年施肥林の落葉の葉分濃度—施肥開始から17年間の変化—:長倉淳子(国立研究開発法人 森林研究・整備機構森林総合研究所)ら	H8 マクロ・ミクロ環境に対するスギの樹高成長の応答性における系統間差:松下通也(森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター)ら	C7 生徒自身が森林教育のプログラムを考える取組:小西伴尚(三重中学校・高等学校)	調整・討論
11:00	B9 アメリカの国立公園システムにおけるIUCN保護地域管理カテゴリー位置づけ:伊藤太一(筑波大学)	T7-2 Climbers' Motivation and Awareness of World Heritage Listing: A Comparison of Mount Fuji and Mount Kinabalu: Jones, Thomas (Ritsumeikan APU) et al.	I7 葉と細根の分解過程で失われる炭素:室内培養による呼吸と溶脱DOMの比:谷川東子(森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	H9 日本各地に生育するブナの年輪幅変動と気候応答の類似性:沈豆東(信州大学総合工学系山岳地域環境科学専攻)ら	C8 高校生を対象とした森林の保水力実験に関する授業実践:東原貞志(上越教育大学)ら	G7 遺伝子発現プロファイルに基づくブナ林の衰退兆候の検出:濱藤秀之(北海道大学)ら
11:15	調整	T7-3 村山古道における撮影画像の大学生による分類と機械学習を用いた分類の比較:神宮翔真(筑波大学)ら	I8 超高分解能質量分析法による針葉樹林と広葉樹林の林内雨中溶存有機物の評価:井手淳一郎(九州大学)ら	H10 天然林大径木のポリゴン年輪解析:石田仁(岐阜大学)ら	C9 総合学科高校における森林教育の実践:安藤愛(筑波大学附属坂戸高等学校)	G8 ゲノム編集によるボブラの花成抑制遺伝子の変異と早期花成:西口満(森林総合研究所)ら
11:30		T7-4 富士箱根伊豆国立公園式根島における浅瀬CO₂/SUB>シープの観光価値:武正憲(筑波大学)ら	I9 四方十川流域モミ天然林生態系におけるカルシウムの循環:稲垣善之(森林総合研究所)ら	H11 地上レーザ測量による3次元データを用いた競争指数の開発:神宏樹(千葉大学大学院)ら	C10 新潟大学演習林における森林環境教育:嶋尾均(新潟大学)ら	調整・討論
11:45		調整・討論	調整・討論	調整・討論	調整・討論	
12:00 ～ 13:30	P2, 高校生ポスター発表コアタイム					

発表時間の厳守をお願いします。

座長は別のページに記載しています。

「調整・討論」のコマは、座長の裁量で、時間調整、総合討論等に使用します(林政部門を除く)。

発表後、「調整・討論」の終了時間までは、会場にいてください(林政部門を除く)。

林政部門は、直前の発表者が次の発表の司会(座長)を務めてください。

研究発表題目(公募セッション・部門別口頭発表) 3月28日午前 2/2

会場	1号館153講義室	2号館212講義室	2号館222講義室	3号館325講義室	3号館335講義室
開始時刻	動物・昆虫1	林政2	経営2		利用1
9:00	L1 マツノマダラカミキリ産卵健全木の出現と林内分布(江崎功二郎(石川県農林総合研究センター林業試験場))	A10 ドイツの木材販売基金について(堀靖人(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所))	D11 GNSS測量における位置誤差と面積誤差との関係(松岡真如(高知大学))		K1 スマート林業の展開(I)ー現場作業データとSCMシステムの連携ー(仁多見俊夫(東京大学大学院))
9:15	L2 青森県南部におけるマツノマダラカミキリ幼虫の3年間の侵入密度動態(伊藤昌明(地独)青森県産業技術センター林業研究所)	A11 ニュージーランドにおける人工林林齢構成と木材輸出との関係(立花敏(筑波大学))	D12 RTK測量を用いたUAVによる森林計測精度の向上(米康亮(島根大学))	遺伝・育種	K2 スマート林業の展開(II)ー素材生産現場との需要情報の連携ー(寺岡行雄(鹿児島大学))
9:30	L3 粘着・被覆資材によるマツノマダラカミキリ産出抑制法の寒冷地への適用(杉本博之(山口県農林総合技術センター))	A12 林業経済研究の主題の変遷(高田栄樹(京都大学大学院))	D13 UAVを用いた作業道の測量と造林地の周囲測量法(青木千咲(島根大学))	F2 点群データを用いたスギにおける地上部形質の定量評価(平岡裕一郎(森林総合研究所林木育種センター))	K3 スマート林業の展開(III)ー多品種生産型木材SCの構築ー(松村直人(三重大学))
9:45	L4 マツノマダラカミキリ産出抑制法へのサビマダラオオホソカタムシの適用試験(浦野忠久(森林総合研究所))	A13 林業政策・林業政策研究における技術革新の位置づけの検討(峰尾恵人(京都大学))	調整・討論	F3 自然攪乱の応答に地域変異があるか?ーマツノ産地試験地の台風被害から(石塚航(北海道立総合研究機構林業試験場))	調整・討論
10:00	L5 天敵微生物製剤バイオリサマダラを事後的に施用した際の防除効果(佐藤大樹(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所))	A14 なぜ人工林は管理されないのか? 地籍制度と超高齢化社会(梶間周一郎(金沢大学))	D14 過去の航空写真を用いた樹高成長量の定量的評価(蝦名益仁(地方独立行政法人北海道立総合研究機構))	F4 コウヨウザン林分における幹折れ(近藤慎二(森林総合研究所林木育種センター))	K4 スマート林業の展開(IV)ー特性の異なる地域での木材SCMシステム構築ー(岡田広行(住友林業株式会社))
10:15	調整・討論	A15 小規模市町村における森林行政の展開(柿澤宏昭(北海道大学))	D15 ドローンと航空レーザを組合せた間伐前と間伐後の森林資源調査(張桂安(信州大学))	調整・討論	K5 スマート林業の展開(V)ーGPS位置情報収集による間伐施業の管理ー(薄井徹太郎(住友商事グローバルリサーチ株式会社))
10:30	L6 <i>Bursaphelenchus doui</i> 4アイソレイトのマツノマダラカミキリへの乗り移り(前原紀敏(森林総合研究所))	A16 緑の雇用による新規林業就業者の定着および技能の習熟過程(杉山沙織(筑波大学))	D16 Detection of thinning trees using UAV laser data(DENG, SONGQIU (Shinshu Univ.) et al.)	F5 国内コウヨウザン林分の遺伝的組成の解明と由来の推定(磯田圭哉(森林総合研究所林木育種センター))	K6 スマート林業の展開(VI)ー三重県の本木市場におけるICT活用の可能性ー(野村久子(三重県林業研究所))
10:45	L7 繭虫のクチクラ構造と生活史特性の関係(浴野泰甫(鹿児島大学))	A17 農林業センサスの農業集落調査における森林保全状況の全国的概観(田村和也(森林総合研究所))	D17 UAVを用いた陽樹冠計測と陽樹冠による間伐の指針の検討(音無亮太(島根大学))	F6 石川県内のヒノキアスナロクロンの起源推定(池田虎三(石川県農林総合研究センター林業試験場))	調整・討論
11:00	L8 抗生物質処理によるピロウカミキリ体内のボルバキアの除去(相川拓也(森林総合研究所))	A18 山林所有世帯数の変化ー住宅・土地統計調査の調査票乙の分析ー(松下幸司(京都大学))	調整・討論	F7 精英樹系種苗の普及がスギ人工林の遺伝的多様性に与えた影響(岩崎隼(東京大学大学院))	K7 スマート林業の展開(VII)ー航空レーザ解析を活用した施業効率化検討ー(大野勝正(アジア航測株式会社))
11:15	L9 トドマツノキクムシの寄生選好性とその地理的変異(高木悦郎(首都大学東京))	A19 林業事業体の労働力確保の新たな動向ー岩手県と秋田県を例にー(滝沢裕子(岩手大学))	D18 ALSを利用したエコトープ別平均樹高の解析と推定ー(京丹波町スギ人工林ー塩田廣美(京都府立大学 大学院))	F8 水期が強く影響した日本と中国に分布するスギの遺伝的分化(津村義彦(筑波大学))	K8 バックバック型レーザによる森林の3D計測(中村裕幸(株式会社 woodinfo))
11:30	L10 樹液流出が著しいサクラ樹幹内におけるクビアカツヤカミキリ幼虫の生存(加賀谷悦子(森林研究・整備機構))	A20 森林組合に対する経営学習論的分析ー鳥取県の事例ー(芳賀大地(鳥取大学))	D19 航空レーザデータによる材積推定式の互換性(岐阜県郡上市と高山市の事例(栗屋善雄(岐阜大学))	F9 スギ雄性不稔遺伝子(MS4)の選抜マーカーの開発(長谷川陽一(新潟大学大学院))	K9 立木のヤング係数を非破壊測定する簡易計測器の開発(岩岡正博(東京農工大学))
11:45	調整・討論	調整	調整・討論	調整・討論	調整・討論
12:00 ～ 13:30	P2, 高校生ポスター発表コアタイム				

発表時間の厳守をお願いします。

座長は別のページに記載しています。

「調整・討論」のコマは、座長の裁量で、時間調整、総合討論等に使用します(林政部門を除く)。

発表後、「調整・討論」の終了時間までは、会場にいてください(林政部門を除く)。

林政部門は、直前の発表者が次の発表の司会(座長)を務めてください。

研究発表題目(部門別口頭発表) 3月28日午後 1/2

会場	1号館125講義室	1号館127講義室	1号館133講義室	1号館137講義室	1号館141講義室	1号館142講義室
開始時刻		T7b 観光とレクリエーション	T9 熱帯林研究	造林2	教育2	防災
14:30		T7-5 飯能市エコツーリズム報告書にみるツアー実施者とツアー内容の継続性・張新語(筑波大学)ら	T9-1 Three decades of tropical forestry researches by JIRCAS: a review and ways forward:Takao, Gen (JIRCAS) et al.	E5 休耕田を活用した無花粉スギ・コナラ苗木の省力的な水耕栽培技術:斎藤真己(富山県農林水産総合技術センター森林研究所)ら	C11 市町村林務行政に関わる森林管理技術者の再教育の必要性:秋田邦宏(鹿児島大学)ら	J1 Characteristics of sap flux measured in a <i>Cryptomeria japonica</i> forest in Tanzawa Mountains:CHIANG, MING SHAN (Univ. Tsukuba) et al.
14:45		T7-6 知床国立公園における野生動物に対する訪日外国人旅行者の意識:明石瑞恵(北海道大学)ら	T9-2 Controls of soil CO ₂ efflux of a lowland tropical forest ecosystem in Peninsular Malaysia:Zhao, Xin (NIES) et al.	E6 キルギス共和国の高標高地に植栽されたテンザントウヒの初期成長の状況:徳川浩一(森林総合研究所)ら	C12 旭川市東旭川における高齢者参加型地域資源マップ製作の効果と課題:青柳かつら(北海道博物館)	J2 無降雨時の土壌水分減少量は樹木蒸散量と細根分布で説明できるか?:荒木真岳(森林総合研究所)ら
15:00		T7-7 高山帯における絶滅危惧種の市民調査参加者と登山者の保全対象への意識差:小川結衣(筑波大学大学院)ら	T9-3 Political ecology of the formulation and implementation of the India's Forest Rights Act:Masahiko Ota (Kyushu Institute of Technology)	E7 スギ植栽木の初期樹高成長は春季下刈りと夏季下刈りで異なるのか?:内村慶彦(鹿児島県森林技術総合センター)	C13 植樹の体験学習及び自然環境享受権に基づく森林での生涯学習に関する研究:神前佳毅(京都大学大学院)	J3 プナ林内で観測した微気象要素と全天空写真画像の季節変化:齋藤武史(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)
15:15		T7-8 印刷物に掲載された写真を中心とした日光国立公園の風景認識の特徴と変化:牧野悠(筑波大学大学院)ら	T9-4 Institutional Change of Customary Forest and Its Impacts in Outer Island of Indonesia:BudimanImam (Kyushu Univ.) et al.	E8 積雪のある傾斜地における根鉢の低いヒノキ・コナラ苗木の林地適応:渡邊仁志(岐阜県森林研究所)ら	C14 津波災害の伝承の方法論に関する一考察:山本清龍(東京大学)	J4 山地源流域における地下水・渓流水中の溶存二酸化炭素濃度の変化:勝山正則(京都大学)
15:30		T7-9 本多静六にみる近代神社デザイン論の展開:水内佑輔(東京大学)	調整	E9 北海道のカラマツ人工林伐跡における車両機地帯後の地表植生変化:倉本恵生(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)ら	C15 東日本大震災を経験した子どもたちの作文のテキスト分析:比屋根哲(岩手大学)	J5 山地森林流域における河川流量・水質の空間的規則性:江草智弘(東京大学大学院)ら
15:45		調整・討論	T9-5 Does Community Forest Avert the Tragedy of the Commons? A Case Study in Cambodia:Yamazaki, Masaru (Univ. Tsukuba) et al.	調整・討論	C16 森林組合職員を対象とした森林環境教育の実践:大島原子(琉球大学)	J6 崩壊発生時における斜面地下水の挙動:小杉賢一朗(京都大学)ら
16:00		T7-10 立山ルートの緑化から高山における植生復元計画について考える:大宮徹(富山県農林水産総合技術センター 森林研究所)ら	T9-6 Socio-economic Characteristics of Small-scale Nurseries in Central Luzon, the Philippines: Kanda, Tomoka (Univ. Tsukuba) et al.	E10 高知県の放置竹林における帯状皆伐後の植生の変化:伊藤武治(森林総合研究所四国支所)ら	調整・討論	調整・討論
16:15		T7-11 知床国立公園の利用をめぐる議論の見える化—テキスト分析を通じて:三ツ井聡美(北海道大学)ら	T9-7 Factors Effecting the Livelihood Options of Forest Dependent Community in Myanmar:Mon, SuMyat(Univ. Tsukuba) et al.	E11 アカマツ天然生林皆伐後3年目における高木広葉樹の加入・再生状況:國崎貴嗣(岩手大学)	C17 森林教育活動を実施するための手引きの内容の検討:実施体制を中心に:井上真理子(森林総合研究所)ら	J7 津波で被災した海岸林生態系の再生にかかわる砂地・湿地の価値:平吹喜彦(東北学院大学)
16:30		T7-12 沖縄における観光事業者の連携によるローカルルール現状と課題:寺崎電雄(公益財団法人日本交通公社)ら	T9-8 Impacts of coastal aquaculture on mangrove resources in Sundarbans Reserve Forest, Bangladesh:Momen Majumdar, Mohammad Sayed (Univ. Tsukuba) et al.	E12 林冠下のササ制御とリター処理で木曾ヒノキ天然林の実生バンクを確立する:酒井武(森林総合研究所)ら	C18 森林教育に必要なもの:中島皇(京都大学)	J8 土砂災害警戒情報の降雨指標に関する予備的考察:執印康裕(宇都宮大学)
16:45	学会企画 論文執筆や審査の経験を共有しようPart 3	T7-13 自然保護地域におけるガバナンスのあり方試論(3):土屋俊幸(東京農工大学)	調整	E13 ヒノキ天然更新の初期稚樹密度から30年後の更新成樹を予測できるか?:杉田久志(元 森林総合研究所)ら	C19 森林環境教育とアクティブラーニング:井倉洋二(鹿児島大学)	J9 白山山麓に発生した地すべり地における自生種による植生復元手法の検討:柳井清治(石川県立大学)ら
17:00		T7-14 国立公園の経済評価:栗山浩一(京都大学)ら		E14 亜熱帯域において混交した常緑広葉樹人工林の林分構造と侵入種の成長特性:谷口真吾(琉球大学)ら	C20 電源・情報インフラのない森林での定点撮影・録音による体験の補完と拡張:中村和彦(東京大学)ら	J10 樹冠上からの散水実験による林床被覆と表面侵食の関係:若松孝志((一財)電力中央研究所)ら
17:15		調整・討論		調整・討論	C21 森林教育の来し方行く末—森林教育研究の展望—:大石康彦(森林総合研究所)ら	J11 山地森林流域での土砂流出評価のためのGeoWEPPの適用:堀田紀文(東京大学大学院)ら
17:30					調整・討論	調整・討論
17:45						
18:00						
18:15						
18:30						
18:45						

発表時間の厳守をお願いします。

座長は別のページに記載しています。

「調整・討論」のコマは、座長の裁量で、時間調整、総合討論等に使用します(林政部門を除く)。

発表後、「調整・討論」の終了時間までは、会場にいてください(林政部門を除く)。

林政部門は、直前の発表者が次の発表の司会(座長)を務めてください。

研究発表題目(公募セッション・部門別口頭発表) 3月28日午後 2/2

会場	1号館153講義室	2号館212講義室	2号館222講義室	3号館325講義室	3号館335講義室
開始時刻	動物・昆虫2	林政3	経営3	特用林産	利用2
14:30	L11 カシノナガキクイムシの穿孔被害を受けたミズナラの生残動態:山崎理正(京都大学)ら	A21 近畿地方における広葉樹薪の流通・垂水亜紀(森林総合研究所関西支所)	D20 PROSEPECT-Dを用いた落葉広葉樹の生化学特性の評価:園部礼(静岡大学)ら	N1 近年の丹波マツタケ不作要因と林地適応型人工栽培:園田登(八木町マツタケ生産振興会)ら	K10 沖縄本島やんばる地域での森林認証制度運用の課題と展望:芝正己(琉球大学)
14:45	L12 KMCTラップによるナラ枯れ防除事例:西信介(鳥取県林業試験場)	A22 地方自治体におけるバイオマス普及政策ー東北の薪ストーブ等導入状況中心ー:小坂橋さゆり(岩手大学大学院)ら	D21 落葉樹開葉前に撮影したUAV空中写真を用いた常緑広葉樹の抽出:村上拓彦(新潟大学)ら	N2 2017年長野県におけるマツタケの発生と気象条件:古川仁(長野県林業総合センター)	K11 宇都宮大学演習林の長伐期林における皆伐作業の収支分析:有賀一広(宇都宮大学)ら
15:00	L13 ナラ枯れによるコナラ枯死木を利用したシイタケ栽培:田中正臣(奈良県森林技術センター)	A23 地方都市における薪の供給主体と流通の実態ー岩手県盛岡市を中心としてー:佐藤光弘(岩手大学)ら	D22 UAVを用いた松くい虫被害の単木レベルでの判別:星川健史(静岡県森林技術研究所)ら	N3 中国・江蘇省宣興市の竹林経営管理の実態ーヒアリング調査を通じてー:孫鵬程(京都大学)ら	K12 作業日報の業務への活用実態と生産性向上への活用事例の調査分析:檜崎達也(FOREST MEDIA WORKS)ら
15:15	L14 PCR-RFLP法によるカシノナガキクイムシの系統識別:濱口京子(森林総合研究所関西支所)ら	A24 住宅着工と木材消費量の関係についての国際比較:岡裕泰(森林総合研究所)	D23 森林被害地マッピングのための変化地検出法:齋藤英樹(森林総合研究所)ら	調整・討論	調整・討論
15:30	L15 東アジアにおけるルリクワガタ <i>Platycerus</i> 属の遺伝的分化 (II):朱雪姣(東京大学)ら	A25 宮崎県の木造住宅建築における木材の選択:藤掛一郎(宮崎大学)ら	D24 Evaluating the Relationship between Environmental Factors and Forest Cover Changes in Zeya State Nature Reserve, Russia: Khatancharoen, Chulabush (Univ. Tokyo) et al.	微生物	K13 受口・追口の形状と伐倒木の挙動:松本武(東京農工大学)ら
15:45	L16 日本産ルリクワガタ <i>Platycerus</i> 属とその共生酵母の共進化:久保田耕平(東京大学)ら	A26 公共建築物への地域材利用による経済波及効果ーすぎと幼稚園・保育園を例にー:橋本悠宇至(筑波大学)ら	調整・討論	M1 紫外線によるソメイヨシノこぶ病の発病抑制効果:石原誠(森林総合研究所)ら	K14 集材中の材に働く外力と主索に発生する衝撃の関係:植之原碧(東京農工大学)ら
16:00	調整・討論	A27 西川林業地における木材取引情報の非対称性の把握:茂木も子(東京家政大学)ら	D25 森林3次元計測システムOWLとUAVを用いた森林計測:石井孝(一般財団法人 電力中央研究所環境科学研究所)ら	M2 スギ辺材のチャアナタケモドキ感染部位に集積した抗菌物質:市原優(森林総合研究所関西支所)ら	K15 島根県におけるスینگヤード利用実態:千原敬也(島根県中山間地域研究センター)ら
16:15	L17 林内に設置した防鹿柵の管理方法の検討:三枝道生(岡山県農林水産総合センター森林研究所)ら	A28 労災保険関連統計にみる林業労働災害の発生傾向と災害防止対策の課題:川崎章恵(九州大学)ら	D26 地上レーザーによる森林災害評価法:加藤顕(千葉大学)ら	M3 樹木のフェノロジーが土壌微生物群集の季節変動に及ぼす影響:執行宣彦(東京大学大学院)ら	K16 タワーヤーダを用いた新たな平面型架線集材の可能性:吉村哲彦(島根大学)ら
16:30	L18 シカ防護柵の張りロープのたるみによる有効高の低下:小長井信宏(兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター)	A29 森林所有者が森林管理を行うための経済条件のシミュレーション分析:藤野正也(山梨県富士山科学研究所)	D27 地上レーザーによる立木密度の材積への影響評価:黒宮健佑(千葉大学)ら	調整・討論	調整・討論
16:45	L19 コウヨウザンに対するノウサギの嗜好性と被害:嶋山大志(島根県中山間地域研究センター)ら	A30 素材生産事業体における高性能林業機械の投資リスク:尾分達也(九州大学大学院)ら	D28 反射強度と曲率を利用した樹木の枝葉モデリング手法:齋藤判別:溝口知広(日本大学)ら	M4 Ectomycorrhizal fungal communities in <i>Pinus luchuensis</i> forests over the Ryukyu Islands: Helbert (Univ. Tokyo) et al.	K17 林内での小型車両の走行性能(1)ー傾斜地における走行ー:丸山泰史(東京大学)ら
17:00	L20 保護管理計画にみる大型野生鳥獣対策の傾向:福田夏子(東京大学大学院農学生命科学研究科)ら	A31 自然災害に対する森林所有者の経営対応とリスク軽減策:岩木陽平(九州大学)ら	調整・討論	M5 高山に遺存するハイマツー菌根菌の集団遺伝構造:小泉敬彦(東京大学)ら	K18 林内での小型車両の走行性能(2)ー旋回時における半径・速度の関係性ー:安室尚(東京大学)ら
17:15	L21 侵略的外来種は一次生産者と上位捕食者の2つの栄養段階に影響する:工藤琢雄(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 東北支所)	調整	D29 大規模点群データを用いた樹木の枝葉モデリング手法:齋藤和人(電気通信大学大学院)ら	M6 根圏内生菌 <i>Glutinomyces brunneus</i> 集団間における遺伝的分化の検出:中村慎崇(京都大学)	K19 津波被災海岸林再造成における植栽機械化の試み:山田健(森林総合研究所)ら
17:30	調整・討論		D30 航空機レーザースキャナーを用いた天然林の林分特性把握:平田泰雅(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)ら	調整・討論	調整・討論
17:45			D31 LPデータを活用した西栗倉村百年の森林構想実現に向けた取り組み:イサミディンカリビヌル(アジア航測株式会社)ら		
18:00			D32 レーザ計測によるスマート精密林業の開発:加藤正人(信州大学)ら		
18:15			調整・討論		
18:30					
18:45					

発表時間の厳守をお願いします。

座長は別のページに記載しています。

「調整・討論」のコマは、座長の裁量で、時間調整、総合討論等に使用します(林政部門を除く)。

発表後、「調整・討論」の終了時間までは、会場にいてください(林政部門を除く)。

林政部門は、直前の発表者が次の発表の司会(座長)を務めてください。

研究発表題目(ポスター発表 P1グループ P1-001からP1-281) 3月27日 1/5

会場:北体育館 # :学生ポスター賞応募ポスター ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~17:30

林政	風致	T7 観光とレクリエーション	教育	経営
P1-001 An extension of U-Shape hypothesis of forest resources: a case study of peninsular Malaysia: Michinaka, Tetsuya (FFPRI)	P1-014# Evaluation of potential biodiversity hotspots based on landscape analyses for REDD+ safeguards: Yasa Palaguna, Umar (Univ. Miyazaki) et al.	P1-020 都市林のレクリエーション利用を規定する景観・社会要因の検討:曾我昌史(東京大学)ら	P1-025# 緑地保全活動への2つの市民団体の関わり方ー藤沢市川名緑地を対象としてー:早川尚吾(日本大学大学院)ら	P1-035# 地上レーザデータから抽出した樹冠量と材積の関係:古川修平(京都府立大学)ら
P1-002# 木質資源動向に関する基礎的研究:田村健太郎(鹿児島大学)	P1-015# Visual impact assessment of solar panels in landscape: Tomasi Junior Tawatatau Sovea (Mie Univ.) et al.	P1-021# 外来魚駆除を組み込んだエコツアーを観光客は評価するか?:豆野皓太(北海道大学大学院)ら	P1-026 人工林下層植生にみられる生物多様性の学習内容に関する一提案:荒木祐二(埼玉大学)ら	P1-036# TLSを用いた林分構造の推定精度に下層植生と計測パターンが与える影響:末松直輝(九州大学)ら
P1-003# 木材利用者のニーズに対応した素材供給へー 径級、材質、強度と価格の関係ー:山本江里子(京都府立大学大学院)ら	P1-016 景観継承の可能性 嵐山の事例:正田佑(京都大学大学院)ら	P1-022# 入山協力金制度導入における事前調査の有効性ー屋久島を事例としてー:矢野圭祐(京都大学)ら	P1-027# Walkability from elementary schools to nearest green areas in Malang, Indonesia: Een Hartatik Sri (Mie Univ.) et al.	P1-037# UAVとSfMによる森林内計測法の開発:山下翔之(名古屋大学大学院)ら
P1-004# ヒノキ丸太の径級、材質、強度と価格の関係:原田喜一(京都府立大学)ら	P1-017# 宇和島水荷浦遊子の文化的景観の特徴と今後の課題:崔麗華(京都大学)ら	P1-023# Exploring the site-choice behavior of urban parks and green spaces: A Web-based survey: Hyerin Kim (Hokkaido Univ.) et al.	P1-028 地域研究を活かしたフィールド体験型環境教育の創出:鈴木遥(総合地球環境学研究所)	P1-038# UAVデータによる人工林の樹冠投影図の作成:湯浅美咲(高知大学)ら
P1-005 高齢級林分保有林家の百年史ー人工林と林家のライフコースー:山本美穂(京都宮大学)ら	P1-018 ニュージーランドDMF制度と国立公園管理計画:田中伸彦(東海大学)ら	P1-024# 和歌山県南部におけるホエールウォッチングの経済評価:松波若奈(京都大学)ら	P1-029# 林業大学校における学生調査について:小川高広(名古屋大学)	P1-039# Changes in forest structural complexity followed by selection cutting: An analysis using multi-temporal UAV imagery: SADEEPA JAYATHUNGA (Univ.Tokyo) et al.
P1-006 新潟県におけるスギ素材生産の現状:龍原哲(東京大学)	P1-019 森林減少と択伐の影響を受ける住民の地理的分布:非木材林産物採取の事例:江原誠(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)ら		P1-030 えぞ松の更新(幸田文1971)とサイバーフォレスト:斎藤馨(東京大学)ら	P1-040# ドローンレーザによる間伐率の異なるヒノキ人工林の精度検証:敦見亮太(信州大学)ら
P1-007 国産材利用林産工場の分布に関する近年の状況:嶋瀬拓也(森林総合研究所)			P1-031# 森林インストラクターの活動に影響した過去の経験の特性:泉館菜月(岩手大学大学院)ら	P1-041# バイオマス推定に向けた、ドローンによる森林の樹冠検出手法の検討:米原太一朗(京都大学大学院)ら
P1-008 森林経営計画作成における意思決定:熊本県A町の事例:一藤基子(鳥取大学)ら			P1-032 360度映像を使った疑似森林体験の可能性と課題:丹羽悠二(東京大学)ら	P1-042# 広域の旧薪炭ブナ林における異なるヒノキ人工林の精度推定の方法:成澤慎太郎(新潟大学)ら
P1-009 森林の所有形態による植生変化と管理状況の分析:森野真理(吉備国際大学)			P1-033# 神奈川県における里地里山活動協定認定団体の活動:高尾徹(日本大学)ら	P1-043# 宮崎県美郷町におけるアラカン林分布推定マップの作製およびその検証:岡本南(宮崎大学)ら
P1-010# 葉タバコ産地における大正世代農家の林野利用:角谷黎(宇都宮大学)			P1-034 文学を通じた(森林)環境教育:松岡幸司(信州大学)	P1-044# 四国の竹林の衛星データを用いた抽出:豊永竜司(高知大学)ら
P1-011# 窯業用燃材の生産・流通構造:関向仁志(宇都宮大学)ら				P1-045# Annual visual interpretation of Landsat imageries for identifying land cover and changing analysis from 2000-2016: KISWANTO (Univ. Tokyo) et al.
P1-012# 森林がもつ生態系サービスの需給構造の解明ー滋賀県大津市を対象としてー:山西悠友(京都大学大学院)ら				P1-046# 全天球カメラを用いた林床植生の植被率の推定:安野諒(京都府立大学)ら
P1-013 ミネラルウォーターボトルにみられる森林と樹木のイメージ:泉桂子(岩手県立大学)				P1-047# スギ幼齢林分における最適下刈スケジュールの検討:福本桂子(九州大学)ら
				P1-048# Growth of high-value timber species in natural forests under selection system in northern Japan: Kyaw Thu Moe (Univ. Tokyo) et al.

ポスターの準備ならびに撤収は速やかにお願いします。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。

研究発表題目(ポスター発表 P1グループ P1-001からP1-281) 3月27日 2/5

会場:北体育館 Ⅱ:学生ポスター賞応募ポスター ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~17:30

造林	遺伝・育種	特用林産	生理	
P1-049# アカエゾマツの促成育苗:前田雄介(北海道大学)ら	P1-066# マレーシア・サラワク州のブナ科植物の垂直分布とDNAバーコーディング:渡邊大地(宇都宮大学)ら	P1-078# 優良ウルシ選抜に向けた遺伝資源評価:泉湧一郎(九州大学)ら	P1-085# Effect of Ectomycorrhiza on the Growth of Container Grown <i>Q.serrata</i> (Konara) Seedlings in Dry Condition: Omari, Abdulhaq (Tokyo Univ. of Agriculture and Technology) et al.	P1-102# 雪どけ時期を早めると樹木のフェノロジーや成長は種によってどう異なるか:丸毛絵梨香(北海道大学)ら
P1-050# 暗所処理によるスギコンテナ苗の伸長成長制御:染谷祐太郎(東京大学大学院)ら	P1-067# シオン (<i>Fraxinus spaethiana</i>) の遺伝子流動に溪流沿いの個体が果たす役割:小西雄大(東京大学大学院)ら	P1-079# シラカンバ菌根苗の促成育苗法について:北村啓(北海道大学)ら	P1-086# 地下の障害物がモウソウチク実生苗の成長に与える影響:金道知聖(東京大学大学院)ら	P1-103 冷温帯アカマツの光合成・呼吸と生長フェノロジー:高梨聡(森林総合研究所関西支所)ら
P1-051# 生分解性ペーパーポット苗の植栽後1年間の成長と容器劣化:古里和輝(宮崎大学)ら	P1-068# Genetic diversity and spatial genetic structure in different stages of <i>Parashorea malaanonan</i> : TINIO, CRUSTY (Nagoya Univ.) et al.	P1-080 ナメコおよびシタケ菌床栽培における梅酢と紀州備長炭の添加効果:杉本小夜(和歌山県林業試験場)ら	P1-087# スギにおける光質とさし木発根性との関係:吉村知也(九州大学大学院)ら	P1-104 マダケ当年葉の最大光合成速度とケイ酸含有率におよぼす稈齢の影響:大原遼(九州大学)ら
P1-052# マツ枯れ海岸林に植栽した広葉樹の活着に及ぼす残存林冠と土壌改良の効果:米山隼佑(新潟大学大学院)ら	P1-069# 新潟県におけるツバキ属遺伝資源の花形質および遺伝的特性の評価:小濱宏基(新潟大学)ら	P1-081 シタケ子実体由来酸化酵素への超臨界二酸化炭素処理の影響:上辻久敏(岐阜県森林研究所)	P1-088# ヒノキ細根の水ポテンシャル及び含水率日変化の現地観測:井上直樹(京都大学大学院)ら	P1-105 非同化器官におけるCO ₂ 吸収機能:楢本正明(静岡大学)ら
P1-053# 海岸防災林再生地に植栽した広葉樹の生長:防風ネットとマルチング材の効果:古幡奏未(長野大学)ら	P1-070# ブナにおける <i>R2R3MYB</i> 遺伝子ファミリーの塩基多型の探索:塚本将司(三重大学)ら	P1-082 樹冠情報を用いたコナラ高齢林からのシタケ原木採材量の把握手法の検討:瀧美幸大(石川県農林総合研究センター林業試験場)ら	P1-089 スギ・ヒノキの生理特性データベースの構築:大曾根陽子(森林総合研究所)ら	P1-106 <i>Horsfieldia</i> 2種の根圏低酸素ストレスに対する光合成と貯蔵炭素の応答:則定真利子(東京大学)ら
P1-054# マツ枯れが激しいクロマツ海岸林に自然侵入したシロダモの刈り出し更新:中山美智子(新潟大学)ら	P1-071# 東南アジアのフタバギ科 <i>Shorea curtisii</i> 集団の遺伝的多様性と構造:中谷崇人(愛媛大学大学院)ら	P1-083 マツタケ菌根形成のためのアカマツ細根の地表への誘導法の検討(V):藤田徹(京都府農林水産技術センター)	P1-090 スギ成木の針葉の水ポテンシャルと光合成・蒸散速度の季節変化:井上裕太(森林総研)ら	P1-107 熱帯湿地性樹種 <i>Syzygium kunstleri</i> の根における一次・二次通気組織の分布:ソボンドク(東京大学)ら
P1-055# 異なる環境に置かれたトベラ苗の葉の光合成特性:石渡雄基(日本大学)ら	P1-072# 中部地方におけるコナラとミズナラの遺伝的境界とその成立要因:小野里談(筑波大学大学院)ら	P1-084 ツバキの自家及び他家受粉における種子形成:古村善則(長崎県農林技術開発センター)	P1-091 スギ精英樹数系統の当年生シュートにおける水分特性値の年変化:作田耕太郎(九州大学)ら	P1-108 タイ南部のクアंकレン湿地に植栽された <i>Melaleuca cajuputi</i> の成長:山ノ下卓(東京大学)ら
P1-056# 気象及び立地条件が暖温帯の海岸クロマツ林への広葉樹侵入へ与える影響:中島有美子(東京都市大学大学院)ら	P1-073# 日本におけるイチョウ巨木の遺伝的変異の地域的特性:片倉慶子(千葉大学)ら		P1-092# コンパクトMRIを用いた苗木樹幹の木部樹液流速分布の日変化測定:平川雅文(東京大学)ら	P1-109 針葉樹の光合成機能解析—メラー反応の分子機構と生理機能:津山孝人(九州大学)ら
P1-057# スギ・ヒノキ人工林への広葉樹侵入に及ぼす母樹からの距離と森林施業の影響:横沢広朗(東京農工大学大学院)ら	P1-074# 房総半島に隔離分布するアサダの集団動態と遺伝的多様性:安藤岳洋(東京大学大学院)ら		P1-093# ソメイヨシノの瘤状枝の水分生理:松田敏朗(京都府立大学大学院)ら	(発表取消)
P1-058# スギ人工林における間伐強度が木材生産・生態系サービスに及ぼす影響:根岸有紀(東北大学大学院)ら	P1-075# シデコブシとコブシ間の人工授粉実験による繁殖干渉の評価:和田崎直隆(名古屋大学大学院)ら		P1-094# ヤドリギ類とその宿主の木部構造:谷本直緒子(京都府立大学大学院)ら	P1-111 カラマツの花芽・葉芽形成過程における組織観察:中島剛(地方独立行政法人青森県産業技術センター林業研究所)ら
P1-059# 旧薪炭ブナ林のブナ前生稚樹を被陰する低木7種の下刈りによる光環境改善:生亀史恵(新潟大学)ら	P1-076# 近交弱勢と受粉率を考慮したサワラ自然受粉種子の充実率の推定:加藤敬介(岐阜大学 大学院)ら		P1-095# ヤドリギ寄生枝のヤマザクラの水分生理状態:東瑛里奈(京都府立大学大学院)ら	P1-112# ブナ花成のエピジェネティクス— <i>FT</i> の発現誘導を司るDNAメチル化の役割:和田尚之(北海道大学)ら
P1-060# 島根大学三瓶演習林コナラ二次林における人為的管理が実生更新に及ぼす影響:酒井若菜(島根大学)	P1-077# 新潟県の無花粉スギ育種素材の遺伝的評価:田玉巧(新潟大学)ら		P1-096# 熱帯材における酸素安定同位体比の季節変動:中井涉(京都大学)ら	P1-113 ブナの傷害誘導性 <i>MYB32/202</i> プロモーターのメチル化修飾:赤田辰治(弘前大学)ら
P1-061# 表土の残し方の違いは天然更新に関わる土壌特性を変化させるか?:山崎遥(北海道大学)ら			P1-097 水分特性曲線法を用いたヒノキの樹体内貯留量と蒸散への寄与度の評価:東若菜(京都大学)ら	P1-114# ブナ衰退木の葉のプロテオミクス解析:樋口亮(北海道大学)ら
P1-062# かきおこし処理は針葉樹の更新を促すか:強度の異なる土壌攪乱の影響:鈴木ななみ(北海道大学)ら			P1-098 数種の広葉樹における展葉・肥大および導管形成フェノロジーの関係:玉泉幸一郎(九州大学)ら	P1-115# 風に起因するヒノキの遺伝子発現と生理・成長への影響:杉田昂駿(静岡大学)ら
P1-063# 発芽床としての蘚類の形態と状態がヒノキの発芽に与える影響:木下勇作(鳥取大学 大学院)ら			P1-099 葉内窒素利用特性の着葉位置による違い:崔東壽(東京農工大学)ら	P1-116# カラマツにおける新規カリウムトランスポーター遺伝子の機能および発現解析:西村佳穂(信州大学)ら
P1-064# カラマツ天然下種更新地における初期成長と下刈りの効果:松永宙樹(信州大学大学院)ら			P1-100 ブナの開花に対する樹体内貯蔵炭水化物の役割の検証:五十嵐秀一(愛媛大学大学院)ら	
P1-065# ケニアの自生竹 <i>Arundinaria alpina</i> の地上部現存量推定:笹原千佳(京都大学)ら			P1-101 ミズナラ、コナラの開芽フェノロジーの空間的・時間的変異:水谷瑞希(信州大学)	

ポスターの準備ならびに撤収は速やかにお願いします。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。

研究発表題目(ポスター発表 P1グループ P1-001からP1-281) 3月27日 3/5

会場:北体育館 #:学生ポスター賞応募ポスター ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~17:30

植物生態		立地	T2 被災地での林業活動再開のために 森林の放射性セシウム研究から見えること	
P1-117# 一回伸長性側枝をもつマンリョウの樹形:長谷川研(岐阜大学大学院)ら	P1-257# 非攪乱環境下の天然林においてシカ食害と環境条件が萌芽動態に与える影響:田中翔大(東京大学)ら	P1-129# 立地条件による広葉樹植栽地の林床植生の違い:和田大樹(京都府立大学大学院)ら	P1-142 地域スケールにおけるコナラ萌芽枝内および土壌との ¹³⁷ Cs・ ¹³³ Cs・Kの関係:金指努(森林総合研究所)ら	P1-159# スギ林の林床におけるCs-137の空間的偏在性の把握とその規定要因:前嶋佳太(筑波大学)ら
P1-118# タイ落葉フタバギキ林における種ごとのシュート構造と樹冠葉構造の関係:菅原悠希(静岡大学)ら	P1-258# Four-year stump sprout dynamics of two deciduous oak species after cutting in an abandoned coppice forest: Dinh, Tien Tai (Okayama Univ.) et al.	P1-130# 背負子型LSを利用した大杉谷におけるブナ林の立地環境の把握:吉田羽吹(京都府立大学大学院)ら	P1-143 コナラ等の萌芽枝内における放射性セシウムの時期的な分布傾向について:橋本正伸(福島県林業研究センター)ら	P1-160 福島の森林生態系における ¹³⁷ Csの動態:土壌中の空間的不均一性について:佐野みずほ(京都大学)ら
P1-119# 中部山岳域に生育するオオシラビソの枝伸長量の気候応答:和邊智子(信州大学)ら	P1-259# 壮齡照葉樹二次林における直径成長および枯死パターンとその要因:平山知宏(宮崎大学)ら	P1-131# Differences in water use characteristics between culm age in a Moso bamboo forest, central Taiwan: CHEN, YI-HUNG (National Taiwan Univ.) et al.	P1-144 コナラ苗の放射性セシウム濃度に対する土壌の汚染程度と除染資材施用の影響:岩澤勝巳(千葉県農林総合研究センター)ら	P1-161 森林斜面におけるリター移動に伴う放射性セシウムの空間分布変動:小田智基(東京大学)ら
P1-120# 溪畔林における水平・垂直方向のニッチ分割:大規模稚樹群集データの解析:板橋朋洋(秋田県立大学)ら	P1-260# Fine Root Dynamic and Distribution of Plantation, Bamboo and Natural Forest by Using Optical Scanner in Central Taiwan: Jyun Chiu (National Taiwan Univ.) et al.	P1-132# ¹³ Cバブルスラベリング法を用いた、ヒノキ幼木の乾燥条件下での炭素利用:辻晃(京都大学)ら	P1-145 福島第一原子力発電所事故後に植栽した樹木の放射性物質の移行について:福山文子(福島県林業研究センター)ら	P1-162 福島県内の森林における林内空間線量率の変化傾向:恩田裕一(筑波大学)ら
P1-121# サワラ当年性実生の出現と生存に基質は影響するか:福永潮(岐阜大学大学院)ら	P1-261# カラマツ人工林における細根フェノロジーに及ぼす間伐の影響:加東良彬(静岡大学大学院)ら	P1-133# 積雪環境が欧州アカマツの葉の分解過程に与える影響:大貫真孝(京都大学)ら	P1-146 原発事故5年を過ぎたスギ木ならびにコナラ原木シタケに関する ¹³⁷ Cs濃度:飯塚和也(宇都宮大学)ら	
P1-122# ブナ若齢実生の成長に光環境と土壌環境が与える影響:山田和弘(岡山大学)ら	P1-262# 木本性ツル植物における種特異的なクローン繁殖戦略:森英樹(筑波大学)ら	P1-134# 北海道東部の天然林における土壌深度ごとの細胞外酵素活性と細根形態:中山理智(京都大学)ら	P1-147# カリウムはコナラのセシウム吸収を抑制するかー実生の水耕栽培の結果からー:小林里緒奈(東京大学)ら	
P1-123# ブナ林下層に生育する低木種と高木種の葉分布と光獲得特性の違い:安藤早貴子(静岡大学)ら	P1-263# リョウブのポリゴン年輪解析:松田隆平(岐阜大学)ら	P1-135# スギ人工林皆伐後5年間の土壌呼吸速度の変化:阿部有希子(東京大学大学院)ら	P1-148 非除染ホダ場におけるシタケホダ木の放射性Cs濃度の3伏せ込み年間の比較:成松真樹(岩手県林業技術センター)ら	
P1-124# 択伐後放棄されたブナ林における下層群集の空間変異と動態:日下部玄(弘前大学)ら	P1-264# 樹液流計測と3次元葉分布情報から個葉の蒸散特性をどうまで引き出せるか?:花輪光彦(静岡大学)ら	P1-136# 土壌呼吸への樹液流に伴う樹体内CO ₂ 輸送の影響評価:堀内核(静岡大学)ら	P1-149 コナラ林における落葉分解にともなうセシウム濃度および量の時系列変化:市川貴大(とちぎ農林倶楽部)ら	
P1-125# 三郡山系における尾根筋を中心としたブナ個体の分布とサイズ構造:板橋幸史(九州大学)ら	P1-265# 早春の写真撮影で得られた混交林によるブナ種子生産量の広域推定と応用:丸山諒子(新潟大学大学院)ら	P1-137# 森林土壌のカルシウム可給性はミミズによる難分解性炭素生成を変化させるか:河上智也(北海道大学大学院)ら	P1-150# ウッドチップを用いた森林土壌の放射性セシウムの除染ー形状による比較ー:篠原朝香(横浜国立大学)ら	
P1-126# スズタケの一斉開花・枯死に伴う林内環境と実生更新の変化:依田浩輝(名古屋大学大学院)ら	P1-266# 長野県における竹林の分布予測と無居住地域における拡大状況:相原隆貴(筑波大学)ら	P1-138# ある蛇紋岩地帯における土壌・植物の化学特性の植生タイプによる違い:畑中朋子(酪農学園大学)ら	P1-151 落葉広葉樹林における樹上葉および落葉の放射性セシウムの季節変化:大久保達弘(宇都宮大学)ら	
P1-127# 中国半乾燥地において <i>Juniperus sabina</i> の被覆が植物群落構造に与える影響:山林英果(岡山大学)ら	P1-267# 結実の豊凶は冷温帯落葉樹混交林の年間リター供給量をどう変化させるか:太田和秀(秋田県立大学)ら	P1-139# 里山林における竹林拡大にともなう炭素・窒素存在量と移動量の変化:澤井一毅(滋賀県立大学)ら	P1-152 Stemflow generation and radiocesium leaching from the coniferous and deciduous trees following the Fukushima accident: Zul Hilmi Saidin (Univ. Tsukuba) et al.	
P1-128# ニホンジカが森林土壌の改変を通じて実生動態に及ぼす影響:小原茜(東京大学大学院)ら	P1-268# ヒノキーツブラジイ林における半寄生植物ツクバネのホスト選好性:西川優弥(岐阜大学大学院)ら	P1-140# 火山灰土壌に生育する樹木はアロフエンに吸着したリンを獲得しているのか?:向井真那(京都大学)ら	P1-153 作業道作設に伴う列状間伐前後の森林流域からの放射性セシウムの流出:篠宮佳樹(森林総合研究所)ら	
		P1-141# 森林流域中における溶存有機物形態に対する季節変化の影響:小林高嶺(北海道大学大学院)ら	P1-154# 乾燥に伴うスギ材中の放射性セシウムの移動:酒井哲郎(東京大学)ら	
			P1-155 森林内における放射性セシウム動態のデータベース構築 2:橋本昌司(森林総研)ら	
			P1-156# The influence of forest environment on the ¹³⁷ Cs distribution in five Fukushima forest soils: Mensah, Akwasi (Tokyo Univ. of Agriculture and Technology) et al.	
			P1-157 森林内の表層土壌における放射性セシウムの空間分布および経年変化:今村直広(国立研究開発法人 森林総合研究所)ら	
			P1-158 青森県4市町における森林土壌中放射性セシウムの地理空間分布:土屋慧(地方独立行政法人 青森県産業技術センター林業研究所)ら	

ポスターの準備ならびに撤収は速やかをお願いします。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。

研究発表題目(ポスター発表 P1グループ P1-001からP1-281) 3月27日 4/5

会場:北体育館 # :学生ポスター賞応募ポスター ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~17:30

防災		利用	
P1-163# 温暖積雪域における積雪と融雪水の溶存イオンの濃度変化:玉乃井梓(日本大学)ら	P1-180 アズマネザサのササ稈流量と形状特性の関係:安部豊(サントリーグローバルレノベーションセンター株式会社)ら	P1-197 クラゲチップを用いた放置竹林対策:河野修一(愛媛大学)ら	P1-198# 北関東地域における木質バイオマス発電のための未利用材利用可能量推計:山本嵩久(宇都宮大学)ら
P1-164 複合トレーサによる森林山地流域の水・土砂流出経路の理解:水垣滋(土木研究所寒地土木研究所)ら	P1-181# 葉の濡れ方が降雨中・直後のヒノキ林CO ₂ ・潜熱フラックスに及ぼす影響:仙福雄一(京都大学)ら	P1-199# 軽架線索張り方式と横取り時の搬器係留力:青木遥(高知大学大学院)ら	P1-215 森林作業道検知のためのデバイス性能評価に関する一検討:有水賢吾(国立研究開発法人 森林研究・整備機構)ら
P1-165 多雪森林域における隣接2流域の溶存イオンの流出過程:瀧澤英紀(日本大学)ら	P1-182 樹冠上に設置した赤外式ガス分析計の機種間比較と長期間の耐久性について:清水貴範(国立研究開発法人 森林研究・整備機構)ら	P1-200# 架線系システムの間伐作業による損傷の発生状況及び約6年後の経過:竹嶋一紗(高知大学)ら	P1-217 林内道路沿線におけるEN1150安全色の視認性:松村哲也(信州大学)
P1-166 間伐で再利用された作業道からの濁水流出量:阿部俊夫(森林総合研究所)ら	P1-183 系統の異なるスギのモノテルペン放出特性:深山貴文(森林総合研究所)ら	P1-201# 平成28年台風10号による風倒木の処理作業について:北海道八雲町の事例:亀山翔平(日本大学大学院)ら	P1-218 斜面歩行時の下肢の筋活動の特性:猪俣雄太(森林総合研究所)ら
P1-167 森林小流域における洪水流出害と域の拡大過程の推定:小島永裕(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)ら	P1-184 冷温帯落葉広葉樹林の山頂で実施した渦相關法による熱フラックスの測定精度:小坂泉(日本大学)ら	P1-202# 全方位画像を用いた森林内構造の把握:浅見晟吾(千葉大学)ら	
P1-168 流域のスケールと水流出の関係ー奥秩父山地荒川源流域での観測結果ー:浅野友子(東京大学)ら	P1-185# 熊本地震により草地斜面に生じた亀裂内の土壌及び水文特性:荒田洋平(東京農工大学)ら	P1-203# 地形傾斜からみた森林内路網の拡幅の可能性:渡部優(信州大学)ら	
P1-169 愛媛県内の森林の浸透能:江崎次夫(愛媛大学)ら	P1-186 樹幹流が表面流出に与える影響およびそれに伴う表土侵食への影響:山岸極(宮崎大学)ら	P1-204# 労働負担を考慮した木材運搬距離と時間:中田知沙(三重大学)ら	
P1-170 栃木県FM唐沢山の針葉樹流域における列状間伐前後の河川流量の比較:平岡真合乃(筑波大学)ら	P1-187 源流域における小径流木の物理特性ー密度, 腐朽状態, および強度ー:芳賀弘和(鳥取大学)ら	P1-205 日本林業に適合した情報高度利用システムの開発:NAKAZAWAMASAHIKO((国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	
P1-171 風化基岩層の不飽和水文特性計測の試み:正岡直也(京都大学)ら	P1-188 日本の山地小流域における土層厚マッピング手法の開発:山下尚之(森林総合研究所)ら	P1-206 TLSデータを活用した間伐・採材シミュレーションと実出材との比較:佐野俊和(広島県立総合技術研究所林業技術センター)ら	
P1-172 東シベリアのカラマツ林における永久凍土季節融解深:小谷亜由美(名古屋大学)ら	P1-189 地形曲率の標準偏差による崩壊危険地の評価(2):戸田堅一郎(長野県林業総合センター)ら	P1-207 積載性能の違いによる長尺材の集材生産性比較:鈴木秀典(森林総合研究所)ら	
P1-173 月流出水量の年比を顕著に下げる降水条件:細田育広(森林総合研究所関西支所)	P1-190 樹木が発揮する引き倒し抵抗モーメントの現地実験:岡田康彦(森林総合研究所)	P1-208 横積式フォワードによる一体材集材作業の生産性:吉田智佳史(森林総合研究所)ら	
P1-174 水収支モデルを用いた山岳地域における降水量の補正:澤野真治(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	P1-191 倒木の腐朽段階等の形態的特徴が山地渓流における倒木流出に与える影響:土井裕介(地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所)ら	P1-209 スギ間伐材の簡易な搬出方法の比較:成沢知広(千葉県農林総合研究センター森林研究所)	
P1-175# 蒸熱収支法とライシメータ法によるアズマネザサの蒸散量推定:中川賢斗(東京農工大学)ら	P1-192 雪前防止林造成における木製杭への積雪荷重の測定:柴和宏(富山県農林水産総合技術センター 木材研究所)ら	P1-210 熟練度の違いがフォワードの走行軌跡に及ぼす影響:山口浩和(森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	
P1-176 スギを対象とした複数の樹液流速測定法の検定:飯田真一(国立研究開発法人 森林研究・整備機構)ら	P1-193 平成28年台風10号豪雨によって北上山地で発生した土砂災害と流木災害:岡本隆(国立研究開発法人森林研究・整備機構)ら	P1-211 横入れ自走式破砕機における投入材長と生産性:佐々木達也(森林総合研究所)ら	
P1-177 スギ人工林の間伐が蒸発散量に及ぼす影響:野口正二(国立研究開発法人 森林研究・整備機構)ら	P1-194 透過型堰堤による流木混じり土石流の捕捉過程の粒子法シミュレーション:鈴木拓郎(森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	P1-212 高知県の地形条件等からみた林業機械の導入状況について:山崎真(高知県立森林技術センター)ら	
P1-178 ヒノキ人工林の50%列状間伐6年後の樹冠および林床植生の遮断について:邱滇璋(東京農工大学)ら	P1-195 平成29年7月九州北部豪雨で発生した斜面崩壊の特徴:桑野泰光(福岡県農林業総合試験場資源活用研究センター)ら	P1-213 ドローンによる路網把握と集材作業効率・林地影響の検討:佐々木尚三(森林総合研究所)ら	
P1-179 Rainfall partitioning in an unmanaged-dense Japanese cypress stand: Occurrence of inner change in sub-canopy: Jeong, Seonghun (Kyushu Univ) et al.	P1-196 クラゲチップを活用した防災対策:全権雨(江原大学校)ら	P1-214 森林路網図の作成と活用:古川邦明(岐阜県森林研究所)	

ポスターの準備ならびに撤収は速やかをお願いします。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。

研究発表題目(ポスター発表 P1グループ P1-001からP1-281) 3月27日 5/5

会場:北体育館 Ⅱ:学生ポスター賞応募ポスター ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~17:30

動物・昆虫		T3 森林におけるシカ問題の 解決に向けて	微生物	T5 樹木根の成長と機能
P1-219# マツノザイセンチュウ分泌タンパク質の <i>in planta</i> 機能解析:桐野巴瑠(明治大学)ら	P1-236# 奥秩父山地における夏・冬季のニホンジカ食性の特徴:川崎満(東京大学)ら	P1-239# 植生が退化した生息地におけるシカの採食物構成の季節変化とその栄養的評価:金子瑞季(東京農工大学大学院)ら	P1-246# マツノザイセンチュウ分散型Ⅲ期幼虫の人為的誘導とその遺伝子発現解析:田中克(東京大学)ら	P1-276# Fine root mass and production estimates in broad-leaved forests using sequential soil core and root scanner method: Ji Young An (Kyoto Univ.) et al.
P1-220# 東南アジア熱帯林の群集同調マスキングの進化を促す種子食者の飽食:浅野都(京都大学)ら	P1-237# ニホンジカを含むウシ目2種の分布拡大が森林生態系に与える影響:清水達敏(新潟大学)ら	P1-240# 防鹿柵の設置が実生の生存に与える直接的・間接的な影響:中森さつき(岐阜大学大学院)ら	P1-247# 温帯マツ林における外生菌根菌の菌糸生産量と窒素付与による影響:中川湧太(兵庫県立大学)ら	P1-277# 鳥瞰写真から得られた水平根情報に基づく樹木根系の再構築:江川健太(兵庫県立大学)ら
P1-221# コナラ倒木の直径と腐朽段階に沿った無脊椎動物の利用パターン:森戸航平(東京農工大学)ら	P1-238# 景観構造を考慮したアライグマによる農業被害の県域スケールでのリスク評価:小泉孝雄(兵庫県立大学大学院)ら	P1-241 ニホンジカの高密度生息地域における不嗜好性植物を用いた森林土壌の保全:三井香代子(滋賀県)ら	P1-248# 中日本のスギ林で採集されたスギ細根におけるアーバスキュラー菌根菌の定着:喜多晃平(三重大学大学院)ら	P1-278# 乗鞍山岳域における12種の細根形態・解剖・化学特性の規定要因:晩麻衣子(信州大学)ら
P1-222# Micro-CT scan of adult female <i>Euwallacea interjectus</i> (Coleoptera: Scolytinae) and its mycangial fungi: Ziru JIANG (Nagoya Univ.) et al.		P1-242 ニホンジカとイノシシの誘引餌を用いた森林防護柵の強度試験:日下昭宏(和歌山県林業試験場)ら	P1-249# 和歌山県・奈良県のトガサワラ林における外生菌根菌埋土胞子の空間分布:岡田経太(三重大学大学院)ら	P1-279# スギ細根次数形態の季節動態:和田竜征(名古屋大学大学院)ら
P1-223# Branch dieback of maples and related ambrosia beetles: Syaiful Saragih (Univ. Tokyo) et al.		P1-243 シカの分布や被害の情報収集システムの開発と利用状況:石田朗(愛知県森林・林業技術センター)ら	P1-250# 広葉樹二次林と針葉樹人工林の境界における外生菌根菌群集:石川陽(東京農工大学大学院)ら	P1-280# 乗鞍岳標高勾配に対する細根呼吸と形態特性の応答性:岡本瑞輝(信州大学)ら
P1-224# Behavioral responses of the ambrosia beetle <i>Platypus quercivorus</i> to chemical volatiles from host leaves: Pham Duy, Long (Kyoto Univ.) et al.		P1-244 ニホンジカ埋却が土壌水の物質に及ぼす影響:古澤仁美(森林総合研究所)ら	P1-251# 殺菌処理が林床に生息する混合栄養植物イチヤクソウの炭素獲得に及ぼす影響:河合将生(三重大学大学院)ら	P1-281# ヒノキ・コナラ林における細根の長期動態・季節による環境応答の変化:仲畑了(京都大学)ら
P1-225# 綾照葉樹林におけるナラ枯れ被害木の空間分布パターン:末吉智秀(宮崎大学)ら		P1-245 農地と後背山林におけるニホンジカの併行捕獲は農地への出没を減らせるか?:福本浩士(三重県林業研究所)ら	P1-252# ヒノキ林のアーバスキュラー菌根菌糸の垂直分布~N、P、細根量との関係:Schaefer, Holger(京都大学)ら	
P1-226# 集合フェロモン濃度変化がカシノナガキクムシ飛翔特性に及ぼす影響:石野貴大(兵庫県立大学)ら			P1-253# 海岸・内地クロマツ林に由来する <i>Cenococcum geophilum</i> 菌株の酵素活性:山口郷彬(三重大学)ら	
P1-227# ヨソボシモンシデムシの個体密度に及ぼす植生タイプの影響:井上翔太(高知大学)ら			P1-254# イヌツゲ枝枯病の発生・拡大様式と罹病部周辺の菌相:尾関俊亮(名古屋大学大学院)ら	
P1-228# 虫害を模した毒葉がカラマツ属2種のコンテナ苗成長に与える影響:藤田早紀(北海道大学)ら			P1-255# 中日本のスギ林の異なる土壌環境に触発されるリター層と鉱質土層の線虫群集:北上雄大(三重大学大学院)ら	
P1-229# 画像上の特徴によるトビムシのグループ分けと個体数カウントの自動化:後藤和明(兵庫県立大学)ら			P1-256# 異なる環境下におけるオオシマザクラの葉内生菌群集:小川映瑠香(日本大学)ら	
P1-230# ニホンジカ背面画像を用いた個体識別アルゴリズムの開発:三浦光(名古屋大学大学院)ら				
P1-231# 環境DNA解析によるヌタ場利用哺乳類のモニタリング:米地梨紗子(東京農工大学)ら			P1-274# 滅菌土壌および非滅菌土壌中におけるナラタケ属菌3種の動態:山下翔太郎(日本大学)ら	
P1-232# ニホンヤマビルの宿主動物の同定:森嶋佳織(東京農工大学大学院連合農学研究科)ら			P1-275# リン欠乏の熱帯降雨林における、リン供給源としての土壌有機態リンの重要性:横山大稀(京都大学)ら	
P1-233# ヤマネの生息確率には低木垂高木層の多様性が重要:遠藤啓生(筑波大学)ら				
P1-234# 中大型哺乳類のヌタ場利用に関する研究:佐野千尋(東京農工大学)ら				
P1-235# ツキノワグマの春季食性の変化と樹皮剥ぎ被害量との関係:森智基(信州大学総合工学系研究科)ら				

ポスターの準備ならびに撤収は速やかをお願いします。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。

研究発表題目(ポスター発表 P2グループ P2-025からP2-254) 3月28日 1/4

会場:北体育館 # :学生ポスター賞応募ポスター ポスター準備8:30～11:00, コアタイム奇数番12:00～12:45, 偶数番12:45～13:30, ポスター撤収16:30～17:30

経営			造林	
P2-025 UAV-SfM処理による針葉樹材積の推定 一樹冠投影面積導出法の検討:矢田豊(石川県農林総合研究センター)ら	P2-042 航空レーザデータを使用した屋久スギ分布域の推定:前田佳子(国際航業株式会社)ら	P2-059 三重県紀北町におけるポット苗久スギ分布域の推定:川端俊介(東京農業大学)ら	P2-062 ヒノキの繁殖器官の生産に前年夏の気象条件が及ぼす影響:中西麻美(京都大学)ら	P2-079 スギ摘葉処理苗やコンテナ苗の時期別植栽による下刈り省力効果:藤井栄(徳島県立農林水産総合技術支援センター)ら
P2-026 UAV-SfM処理による針葉樹の樹頂点抽出-個体検出精度の検証:木村一也(石川県森林組合連合会)ら	P2-043 航空機LiDARによる樹木個体樹種分類精度評価(Ⅱ):混交林での特性評価:中武修一(名古屋大学大学院)ら	P2-060 6m材生産を主体としたヒノキ林経営に関する一考察:佐藤孝吉(東京農業大学)ら	P2-063 ヒノキ科3種の培養による形態形成:細井佳久(森林総合研究所)ら	P2-080 育苗の期間・密度の異なるスギ挿し木コンテナ苗の活着と植栽後3年間の成長:八木貞信(森林総合研究所)ら
P2-027 針広混交天然林におけるUAV空撮画像による地形モデリング:古家直行(森林総合研究所北海道支所)ら	P2-044 マツ枯れ対策に向けた枯損木の候補地マップの作成:福士亮太((株)バスコ)ら	P2-061 路網崩壊による集材距離への影響度を基にした崩壊対策箇所の優先度評価:津田高明(北海道立総合研究機構)ら	P2-064 マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ不定胚形成細胞からの成熟不定胚誘導:丸山E.毅(森林総合研究所)ら	P2-081 ヒノキコンテナ苗と普通苗の初期成長比較について:谷清(松野町林業研究グループ)ら
P2-028 森林域におけるUAVとマルチスペクトルカメラの活用:瀬誠志郎(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)ら	P2-045 マルチスペクトル・熱赤外センサーによる樹木水分生理状態の検出特性:坂上大翼(東京大学)ら		P2-065 苗木生産者におけるクリーンラーチ育苗の現状:今博計(北海道立総合研究機構)ら	P2-082 多雪地帯でのスギコンテナ苗の成長に対する植栽方法や苗木の大きさの影響:小谷二郎(石川県農林総合研究センター林業試験場)ら
P2-029 UAV由来の空中写真データを用いた熱帯林の森林変化量の把握:太田徹志(九州大学)ら	P2-046 SPOT画像を用いた持続的な伐採跡地のモニタリング手法の検証:星元啓吾(株式会社バスコ)ら		P2-066 近赤外光で選別したカラマツ種子の発芽と成長:来田和人(北海道立総合研究機構林業試験場)ら	P2-083 皆伐直後の秋と翌春に植栽したコンテナ苗の成長比較:藤本浩平(高知県立森林技術センター)ら
P2-030 UAVを用いたスギ単木樹冠形状の評価:加治佐剛(鹿児島大学)ら	P2-047 衛星画像の時系列解析による焼畑の検知:志水克人(九州大学)ら		P2-067 ブナ苗木の被陰処理と根揚げによる成長抑制効果:伊藤幸介(新潟県森林研究所)ら	P2-084 スギ・ヒノキコンテナ苗における主軸切断の影響-萌芽枝の成長と樹形変化-:山下直子((国研)森林総合研究所)ら
P2-031 UAVによる森林上層部の3次元化に向けた検討:吉野聡(東京農業大学)ら	P2-048 岐阜県内の森林関連業務における森林情報の利用の実態と課題:白田寿生(岐阜県森林研究所)ら		P2-068 スギ直挿し苗の発根特性について:富森加耶子(鳥取県林業試験場)ら	P2-085 コンテナ苗の"形状比"に関する考察:壁谷大介(森林総研)ら
P2-032 畳み込みニューラルネットワークを利用したUAV空撮画像からの樹種分類:鎌田真希(九州大学)ら	P2-049 スマートフォンアプリによる森林資源量調査の精度検証:松英恵吾(宇都宮大学)ら		P2-069 スギ挿し木苗の発根状況と植栽後の生育:相浦英春(富山県農林水産総合技術センター)ら	P2-086 コンテナ苗はどのような条件で有効なのか?～北海道の場合～:津山幾太郎(森林総合研究所北海道支所)ら
P2-033 地上型レーザスキャナによる幹の形の再現性-樹幹解析との対応-:川北憲利(京都府立大学大学院)ら	P2-050 神奈川県秦野市上地区の林分特性とNPOIによる森林整備活動の可能性:古田弘章(日本大学大学院)ら		P2-070 スギコンテナ苗の地上部の形態と根鉢の物理的性質との関係:齋藤隆実(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)ら	P2-087 持続的な林業生産を得るために-システムとしての再造林の考え方の重要性-:宇都木玄(森林総合研究所)ら
P2-034 植栽密度試験地における地上型レーザスキャナーの計測密度の比較:北原文章(森林総合研究所)ら	P2-051 日本大学水上演習林における林相と鳥類の出現種数の関連性:園原和夏(日本大学)ら		P2-071 液肥濃度と灌水頻度がスギコンテナ苗の成長と生理特性に与える影響:小笠真由美(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	P2-088 異なる下刈りスケジュールで育成したカラマツの5年目までの生存と成長:野口麻穂子(森林総合研究所東北支所)ら
P2-035 標準地調査における地上型レーザスキャナーの可能性:松本純(大分県農林水産研究指導センター林業研究部)ら	P2-052 天然林施業の知識ベース構築とその運用:尾張敏章(東京大学)ら		P2-072 春植栽のスギコンテナ苗の初期成長に及ぼす前年秋の追肥の影響:飛田博順(森林総合研究所)ら	P2-089 若齢造林地における隔年下刈りがスギ植栽木の成長に与える影響:山川博美(森林総合研究所)ら
P2-036 地上レーザによる森林計測精度の評価:山崎浩司(名古屋大学)ら	P2-053 森林経営計画における主伐量上限制約の厳格性の試算:富山啓介(東京大学)ら		P2-073 造林地におけるスギ挿し木コンテナ苗の長期保管試験:宮島淳二(熊本県)ら	P2-090 下刈り省略によるヒノキ苗の形態変化と物理的被害:平田令子(宮崎大学)ら
P2-037 植生および地形が航空レーザ計測におけるレーザ光の地表到達率に与える影響:福井翔宇(株式会社バスコ)ら	P2-054 エチオピア囲い込み制度下における北部アカシア低木林の三年間の変化:竹中浩一(国際農林水産業研究センター)ら		P2-074 ヒノキ充実種子の精選及び直接播種によるコンテナ苗育苗:竹内隆介(和歌山県林業試験場)ら	P2-091 大分県南部のシカ生息地における植栽後7年間の無下刈りによるスギの更新状況:野宮治人((国研)森林機構森林総合研究所九州支所)ら
P2-038 低密度の航空機LiDARデータによる林分の平均樹高推定:高橋興明(森林総合研究所九州支所)ら	P2-055 タイ国テーク人工林にみる相対幹形の変化:野田蔵(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら		P2-075 ガラス室を用いた直接播種によるスギ・ヒノキ1年生コンテナ苗育苗試験:山中豪(三重県林業研究所)ら	P2-092 藪の中の微気象と成長 伐区をどこまで狭くすれば下刈りは不要になるのか?:水永博己(静岡大学)ら
P2-039 Liderfによる推定直径からの単木材積の推定精度検証:石塚伸太郎(株式会社バスコ)ら	P2-056 ミャンマーの伝統的林業生態系におけるアジアゾウの行動パターン:溝上展也(九州大学)ら		P2-076 コンテナ苗生産における培地低コスト化の検証:上田和司(山口県農林総合技術センター)ら	P2-093 北海道におけるグイマツ雑種F ₁ 及びカラマツ人工林の成長の比較:滝谷美香(北海道立総合研究機構林業試験場)ら
P2-040 航空機LiDARによる間伐効果評価法の開発:山本一清(名古屋大学)ら	P2-057 本数密度分布図の表現方法に関する研究:上野操子(株式会社バスコ)ら		P2-077 ココビートの充填密度の違いが育苗用培地の保水特性に及ぼす影響:柴崎一樹(国際緑化推進センター)ら	P2-094 山形県におけるカラマツ人工林の現状:上野満(山形県森林研究研修センター)ら
P2-041 航空機LiDARデータを用いた広葉樹の資源量推定に関する検討:田中真哉(森林研究・整備機構)ら	P2-058 宮崎県における短伐期林業に対する一考察-ヤマサンツリーファーム-:黒田真峰(東京農業大学)ら		P2-078 異なるコンテナで育てた苗木の植栽後の成長:上村章(森林総合研究所北海道支所)ら	P2-095 スラッシュマツおよびテーダマツ材齢木の個体サイズと地形、立木密度の関係:島田博匡(三重県林業研究所)ら

ポスターの準備ならびに撤収は速やかをお願いします。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。

研究発表題目(ポスター発表 P2グループ P2-025からP2-254) 3月28日 2/4

会場:北体育館 # :学生ポスター賞応募ポスター ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~17:30

造林		遺伝・育種		植物生態
P2-096 スギ、ヒノキ、マツの伸長・肥大成長フェノロジーと材形成:坂坂武宣(九州大学)ら	P2-113 人工林皆伐時の前生広葉樹残が自然林再生に与える中期的効果:伊藤哲(宮崎大学)ら	P2-129 愛媛で生育するコナラ属3種のSSRマーカーによる遺伝構造解析:西原寿明(愛媛県農林水産研究所)	P2-146 スギ苗へのリン施肥が雄花の成熟に及ぼす影響:岩井淳治(新潟県森林研究所)ら	P2-162 アナトリア地方におけるブナの最終氷期から現在に至る分布移動ルートの推定:松井哲哉(森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら
P2-097 東北タイの砂質土壌に植栽したチークの成長に対する炭とペントナイトの効果:香山雅純(国際農林水産業研究センター)ら	P2-114 針広混交林化を目的とした間伐後の光環境と下層植生の変化:寺本聖一郎(熊本県林業研究指導所)ら	P2-130 類似分布を有する近縁ツツジ属2種の対照的な個体群動態:渡辺洋一(千葉大学)ら	P2-147 カラマツの着花促進処理としての環状剥皮適期の推定:達田英俊(岩手県林業技術センター)	P2-163 森林管理における気候変動適応策の検討:長池卓男(山梨県森林研
P2-098 センダン植栽木への施肥が成長に及ぼす影響:池本省吾(鳥取県林業試験場)	P2-115 UAVを活用した造林未済地における天然更新状況の推定:竹内史郎(道総研林業試験場)ら	P2-131 ゲノムワイドSNPマーカーを用いたスギの分布変遷の推定:内山憲太郎(森林総合研究所)ら	P2-148 カラマツ材質優良品種における着花特性及びスコアリングによる着花促進効果:清水香代(長野県林業総合センター)ら	P2-164 マスティングによるブナ林の樹冠構造と内部光環境、光合成量の変化:飯尾淳弘(静岡大学)ら
P2-099 センダン植栽木の初期成長と立地環境:高山勉(兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター)ら	P2-116 分布拡大しているアオモジと在来の先駆樹木の皆伐地における成長と生残:川口英之(鳥根大学)ら	P2-132 固有樹種シコクシラベ集団内の2豊作年における種子の遺伝的多様性:岩泉正和(国立研究開発法人森林研究・整備機構)ら	P2-149 日本産コウヨウザンの原木丸太の特性:涌嶋智(広島県立総合技術研究所林業技術センター)ら	P2-165 樹冠投影図を用いた常緑広葉樹林と落葉広葉樹林の樹冠形状の特徴比較:安藤真純(三重大学)ら
P2-100 センダンの葉面積の垂直分布が枝と幹の直径成長に与える影響:横尾謙一郎(熊本県林業研究指導所)ら	P2-117 木曽ヒノキ林の天然更新施策後の実生発生量・伐採率、ササ処理との関係一:星野大介(森林総合研究所)ら	P2-133 ヒメバラムミ遺伝資源林における設置7年後の生存率と成長:勝木俊雄(森林総合研究所)ら	P2-150 超小型X線源を用いた立木用X線CT検査装置の開発:古賀信也(九州大学)ら	P2-166 クロマツ成木の詳細な構造:藤井正典(環境科学技術研究所)ら
P2-101 本州西部地域での早生樹センダンの造林成績:糟谷信彦(京都府立大学大学院)ら	P2-118 琵琶湖湖西の里山に見られる低地ヒノキ林の成立過程の推定:橋本朱音(鳥取大学)ら	P2-134 遺伝的多様性と遺伝構造から探るスギ高齢林の更新様式:木村恵(森林総合研究所)ら	P2-151 アカエゾマツにおける材質育種と簡易選抜について:田村明(森林総合研究所林木育種センター)ら	P2-167 中国山地のブナ天然林における主要構成樹種の24年間の動態:牧本卓史(岡山県農林水産総合センター 森林研究所)ら
P2-102 コウヨウザンの簡易収穫予想表の試作:山田浩雄(森林総合研究所林木育種センター)ら	P2-119 モウソウチク放置竹林伐採後における再生タケの刈り取り処理と再生量の変化:奥田史郎(森林総合研究所)ら	P2-135 RAD-Seq解析による'染井吉野'とその関連品種の血縁関係の評価:加藤珠理(森林総合研究所)ら	P2-152 スギカミキリ抵抗性交配家系を用いた抵抗性に関する遺伝性の検討:宮下久哉(国立研究開発法人 森林研究・整備機構)ら	P2-168 秋田佐渡スギ天然林の26年間の林分構造の動態:太田敬之(森林総研)ら
P2-103 チークの個体成長に対する密度効果:榎間岳(国際農林水産業研究センター)ら	P2-120 モウソウチク皆伐後の天然更新木と土地利用履歴の関係について:豊田信行(愛媛大学)	P2-136 連鎖地図を用いたソメイヨシノの染色体ごとの起源推定の試み:鶴田燃海(静岡大学)ら	P2-153 2006年度以降に開発された抵抗性クロマツの接種試験による生存率:遠藤良太(千葉県農林総合研究センター)ら	P2-169 北海道の天然林の林分成長に影響する要因:大野泰之(北海道立総合研究機構)ら
P2-104 ブナ二次林の上層間伐の効果:塚原雅美(新潟県森林研究所)ら		P2-137 13年生交配家系を用いたスギ有用形質のQTL解析:松本麻子(森林総合研究所)ら	P2-154 スギの根元曲がり抵抗性に対する木材強度の影響:宮下智弘(山形県森林研究研修センター)ら	P2-170 全天空写真の高密度撮影による樹冠構造の把握とその季節変動:吉村謙一(山形大学)ら
P2-105 間伐時における伐採木の選択基準:伊東康人(兵庫県立農林水産技術総合センター)ら		P2-138 NGSデータの定量的な解析による目的遺伝子近傍マーカーの開発:上野真義(国立研究開発法人 森林研究・整備機構)ら	P2-155 多雪地に植栽したコンテナ苗の雪圧による倒伏程度と回復能力の品種間の違い:玉城聡(森林総合研究所)ら	P2-171 高知県鷹取山IBP調査区における現存量調査後の樹木の侵入:米田令仁(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら
P2-106 択伐施業における選木のための材の特性予測:吉田俊也(北海道大学)		P2-139 林木の分子育種に向けたマルチプレックスSNPタイピングシステムの構築:永野聡一郎(森林総合研究所林木育種センター)ら	P2-156 二つの灌水条件下におけるスギ精英樹の成長と光合成の系統間変異:河合慶恵((研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター関西育種場)ら	P2-172 東南アジア熱帯雨林における種子サイズと実生の生存戦略の関係:山本仰(愛媛大学大学院)ら
P2-107 定期調査から垣間見える知床国有林1987年択伐林分の30年間:菊池俊一(山形大学)ら		P2-140 スギのさし木発根メカニズムの解明に向けた遺伝子発現解析:福田有樹(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター)ら	P2-157 グルタチオンと育種種苗を用いたスギ・コンテナ苗の低コスト化への取り組み:宮本尚子(森林総合研究所林木育種センター東北育種場)ら	P2-173 中部地方で一斉開花したスズタケの繁殖特性:齋藤智之(森林総合研究所)ら
P2-108 北海道上川町における広葉樹造林の取り組みに関して:平松悠輝(上川町)		P2-141 アスナロ属の低温順化過程における遺伝子発現パターンの産地間比較:細永路子(森林総合研究所 林木育種センター)ら	P2-158 優良系統間で交配したスギの林地植栽後の初期成長:袴田哲司(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)ら	P2-174 中部地方におけるスズタケの2017年一斉開花の範囲:岡本透(森林総合研究所関西支所)ら
P2-109 多雪地域における木製グライド防止工が植栽した広葉樹の成長に与える影響:中島陽平(新潟大学)		P2-142 施肥量がヒノキ・クロマツのコンテナ苗の成長に及ぼす影響:大平峰子(森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター)	P2-159 UAVを用いた若齢スギ個体の樹高の大量計測に向けた最適撮影条件の検討:武津英太郎(森林総合研究所)ら	P2-175 ミヤコザサの葉および稈のフェノロジー:出俣時期による稈サイズと葉の挙動:木佐貫博光(三重大学)ら
P2-110 オオシラビソ被害林における稚樹の分布と立地環境の関係:千葉翔(山形県森林研究研修センター)ら		P2-143 ミニ穂を用いたスギさし木苗増産技術の検討:姫野早和(大分県農林水産研究指導センター)ら	P2-160 植栽11年後のF2スギ人工交配家系の樹幹解析:金谷整一(森林総合研究所九州支所)ら	P2-176 オノエナギおよびエゾノキヌヤナギにおける開花時期の種間・産地間差:矢野慶介(森林総合研究所林木育種センター北海道育種場)
P2-111 「富士山まなびの森」における人工林風倒被害跡地への広葉樹林再生の試み:吉川正人(東京農工大学)ら		P2-144 少降水量地域におけるスギ精英樹と花粉症対策品種の植栽当年の成長:三浦真弘(国立研究開発法人森林研究・整備機構)ら	P2-161 アカマツ精英樹人工交配家系の44年生における成長形質の解析:那須仁弥(森林総研林木種センター東北育種場)ら	P2-177 林冠ギャップ創出者としてのツキノワグマの役割:クマ棚とクマ剥ぎの比較:高橋一秋(長野大学)ら
P2-112 常緑広葉樹林が隣接するヒノキ人工林皆伐1年後の広葉樹稚樹数と樹種:石川実(愛媛県農林水産研究所林業研究センター)		P2-145 カラマツ種子の成熟時期の植栽地間および年次間変異:生方正俊(森林総合研究所林木育種センター)ら		P2-178 絶滅危惧種オキナワセッコクの生育環境・施業履歴と森林構造:阿部真(国立研究開発法人森林研究・整備機構)ら

ポスターの準備ならびに撤収は速やかをお願いします。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。

研究発表題目(ポスター発表 P2グループ P2-025からP2-254) 3月28日 3/4

会場:北体育館 # :学生ポスター賞応募ポスター ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~17:30

植物生態	立地	動物・昆虫
P2-179 北海道太平洋沿岸の海霧を考慮した気候的乾湿度に対するカシワの環境応答:真坂一彦(北海道立総合研究機構林業試験場)ら	P2-184 モンゴル北部の森林-草原境界地域における土壌炭素蓄積と植生変遷:志知幸治(森林総合研究所)ら	P2-201 木質バイオマス燃焼灰の肥料成分特性:平井敬三(国立研究開発法人森林研究整備機構)ら
P2-180 中部カリマンタン州泥炭湿地における荒廃度の異なる森林のバイオマス変化:都築勇人(愛媛大学)ら	P2-185 花粉分析と微粒炭分析に基づく鳥海山麓天然スギ林の1000年前以降の衰退過程:池田重人(森林総合研究所)ら	P2-202 冷温帯林におけるササの除去は土壌水分と窒素動態を变えるか?:福澤加里部(北海道大学)ら
P2-181 樹木種多様性・潜在資源利用・炭素蓄積量の比較:ミャンマーにおける事例:古川拓哉(森林総合研究所)ら	P2-186 国内の森林土壌における団粒サイズと有機物特性の関係:永野博彦(日本原子力研究開発機構)ら	P2-203 DEMから算出した地形指数と土壌型との関係の全国地域間比較:稲垣昌宏(森林研究・整備機構)ら
P2-182 カンボジアの乾燥落葉林における林床植生の地上部と地下部のバイオマス:田中憲蔵(森林総合研究所)ら	P2-187 農地から森林への土地利用変化が土壌炭素量に与える影響—モデル構築と検証—:鶴田健二(森林総合研究所)ら	P2-204 ラオス北部山地のチーク人工林の生育と立地および土壌条件の関係:今矢明宏(国立研究開発法人国際森林水産業研究センター)ら
P2-183 日本の広葉樹バイオマス推定のための相対成長式:諏訪鎌平(森林総合研究所)ら	P2-188 森林と農地間の土地利用変化が土壌炭素量に及ぼす影響—モデル構築と検証—:鶴田健二(森林総合研究所)ら	P2-205 森林土壌の有効水分率の推定に適した保水性モデルの検討事例:釣田竜也((国研)森林研究整備機構 森林総合研究所)ら
	P2-189 森林劣化が進む熱帯地域の炭素貯留量推定のための土壌炭素データベース:鳥山淳平(森林総合研究所)	P2-206 コウヨウザン林における土砂流出量の変化:渡辺靖崇(広島県立総合技術研究所林業技術センター)ら
	P2-190 四国の人工林における土壌炭素貯留量の空間的な変動要因について:酒井寿夫(森林総合研究所)	P2-207 岐阜県スギ人工林冠雪害危険度マップの再検討:久田善純(岐阜県森林研究所)ら
	P2-191 亜高山帯常緑針葉樹林における標高別の土壌炭素の貯留量および放出量:小林元(信州大学)ら	P2-208 北八ヶ岳縞枯れ林における卓越風の特徴:岩本宏二郎(森林総合研究所)ら
	P2-192 森林土壌炭素インベントリにおける断面石礫率を考慮した土壌炭素蓄積量評価:稲富素子(森林総合研究所)ら	P2-209 山陰地方の落葉広葉樹林における冬季融雪時の渓流水質変化:藤巻玲路(島根大学)ら
	P2-193 人工加温操作が土壌の炭素収支に与える影響:高木正博(宮崎大学)ら	P2-210 北海道東部で発生したカラマツの大量枯死:徳田佐和子(北海道立総合研究機構 林業試験場)ら
	P2-194 土壌の乾燥が土壌呼吸の温度依存性におよぼす影響:阪田匡司(森林総合研究所)ら	P2-211 伊豆諸島におけるスダジイ集団枯損終息後のカシノナガキクムシ個体群動態:後藤秀卓(国立研究開発法人 森林研究・整備機構)ら
	P2-195 ハンノキ湿地林における樹幹からのメタン放出量とその変動要因:寺澤和彦(東京農業大学)ら	P2-212 種分布モデルを用いた国内におけるマツ枯れ潜在発生域の予測:松橋彩衣子(森林総合研究所)ら
	P2-196 東アジア森林生態系における温室効果ガス収支の長期変動に関するモデル解析:伊藤昭彦(国立環境研究所)	P2-213 マツ材線虫病被害先端地における線虫媒介昆虫種の3年間の空間的・時間的変化:柳澤賢一(長野県林業総合センター)ら
	P2-197 スギとヒノキの根株の分解に伴う材密度変化の比較:酒井佳美(森林総合研究所)ら	P2-214 クビアカツヤカミキリの合成フェロモントラップで捕獲された昆虫類の組成:松本剛史((国研)森林総合研究所)ら
	P2-198 Litter quality control of decomposition of leaves, twigs, and sapwood by the white-rot fungus <i>Trametes versicolor</i> : Takashi Osono (Doshisha Univ.) et al.	P2-215 侵入害虫クビアカツヤカミキリ防除に向けた信号化学物質の探索:所雅彦(森林総合研究所)ら
	P2-199 北海道内陸部における広葉樹葉リター分解に地形と樹種が与える影響:菱拓雄(九州大学)	P2-216 クビアカツヤカミキリ孵化幼虫の細枝による飼育:北島博(森林総合研究所)
	P2-200 キジャヤステによる土壌リン動態の変化:豊田鮎(香川大学)ら	P2-217 サカキを加害する新たなヨコバヤの生態:坂本淳(和歌山県林業試験場)ら
		P2-218 スギ原木への各種資材の散布処理による穿孔性害虫の穿入防止効果:松浦崇遠(富山県農林水産総合技術センター森林研究所)ら
		P2-219 薬剤樹幹注入したヒノキにおけるスギノアカネトラカミキリの生育3:衣浦晴生(森林総合研究所関西支所)ら
		P2-220 北海道東部で発生したカラマツの大量枯死:徳田佐和子(北海道立総合研究機構 林業試験場)ら
		P2-221 フタモントンボキノコバエによるシイタケ被害の年変動とその生態:加藤徹(静岡県農林技術研究所森林・林業研究所)
		P2-222 熱帯林の土壌呼吸の空間変動にもたらすアリとシロアリの影響:大橋瑞江(兵庫県立大学)ら
		P2-223 北海道のトドマツ人工林とカンバ二次林におけるカミキリムシ類の構成:佐藤重徳(森林総合研究所)ら
		P2-224 トドマツ人工林での保残伐施業実証実験における伐採後の地表性甲虫類の変化:山中聡(森林総合研究所)ら
		(発表取消)
		P2-226 鳥類分布の季節性:繁殖期と越冬期で対照的な気候と土地利用の種数への影響:河村和洋(北海道大学)ら

ポスターの準備ならびに撤収は速やかをお願いします。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。

研究発表題目(ポスター発表 P2グループ P2-025からP2-254) 3月28日 4/4

会場:北体育館 # :学生ポスター賞応募ポスター ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~17:30

微生物				
P2-238 カシノナガキクイムシから検出された細菌群集:鳥居正人(東京大学大学院)ら				
P2-239 日本産白トリュフの発生・非発生地における土壌微生物群集の比較メタゲノム:木下晃彦(森林総合研究所)ら				
P2-240 海岸クロマツ林において母樹周辺に播種した実生の生育に菌根菌が及ぼす影響:中島寛文(愛知県森林・林業技術センター)ら				
P2-241 房総半島においてスギと共生するアーバスキュラー菌根菌の多様性:斉藤広樹(東京大学大学院)ら				
P2-242 沖縄のデイゴ衰退枯死に関わる <i>Fusarium</i> 属菌の分布と病原性の検討:黒田慶子(神戸大学)ら				
P2-243 キツネタケ菌根から分離培養された細菌がキツネタケの菌糸成長に及ぼす影響:小長谷啓介(森林総合研究所)				
P2-244 罹病枝の通水とキャピラリーション-サクラてんぐ巣病とナラ枯れ-:池田武文(京都府立大学大学院)ら				
P2-245 トドマツの幹・根系損傷から侵入した腐朽菌と腐朽の進展:山口岳広(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)				
P2-246 枝打ち部位と非枝打ち部位におけるスギ非赤枯性溝腐病の発生特性:小林真生子(千葉県農林総合研究センター森林研究所)ら				
P2-247 琉球列島におけるホルトノキ萎黄病の分布:亀山統一(琉球大学)				
P2-248 コロラド砂漠で生育する乾燥地植物6種の内部根圏微生物とその宿主特異性:谷口武士(鳥取大学)ら				
P2-249 シラカシボタン材中の菌類群集組成:山田利博(東京大学)ら				
P2-250 混交林における窒素循環の促進におよぼす根系の発達と土壌微生物叢の影響:松尾歩(東北大学)ら				
P2-251 ヒノキ材の分解過程と分解菌の関係:徳島県のヒノキ林における事例(予報):山下聡(徳島大学)ら				
P2-252 岐阜県におけるヒノキ根株腐朽病の被害状況とその発生傾向:片桐奈々(岐阜県森林研究所)ら				
P2-253 PCRによるスギからの非赤枯性溝腐病菌の検出および分離試験との比較:服部力(森林総合研究所)ら				
P2-254 Effect of drought, microbes and <i>Encelia farinosa</i> on soil extracellular enzymes: Mohamed Eltayeb (Tottori Univ.) et al.				

ポスターの準備ならびに撤収は速やかをお願いします。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。

企画シンポジウム

S1 下刈り省力化を睨んだ造林要素技術の展開

Development on the silvicultural elemental technique for the labor-saving weeding

コーディネータ： 宇都木玄（森林総合研究所）、八木橋勉（森林総合研究所）

3月27日 9:00-12:00 会場 共通教育1号館125講義室

国産材の利用拡大と齢級構成の平準化により主伐面積が増大する事を想定すると、造林から初期保育にかけて最も経費の高い下刈り作業の効率化が、低コスト再生造林の重要な鍵となる。さらに下刈り作業は機械化による省力化の目処が立っておらず、作業の労働強度も非常に高い。このような下刈りの問題を解決するためには、下刈り回数の削減を目指す必要がある。また地域によって雑草木の種類が異なり、その技術的対応方法は地域や環境の特性を最も受けやすいと言える。

下刈り作業削減には、雑草木と苗木との競争関係を丁寧に観察して下刈り回数を減らす、一貫作業とコンテナ苗を利用して雑草木の進入より早くに植栽木を成長させる、機械による徹底した地拵えにより雑草の進入を抑制する、下刈りそのものの機械化を促進する、育種苗や大苗を用いて初期から雑草との競合関係を優位にする、除草剤を用いる、カバークロップを用いる等、立地条件や施業方法に応じてカスタマイズが可能であろう。

本シンポジウムでは、下刈り経費の削減を目指して、直接的に下刈り作業に関連した報告だけでは無く、下刈り回数削減に結びつくと考えられる造林個別要素技術研究を報告する。また多くの地域から様々なアプローチを紹介し、下刈り経費の削減・省力化に向けた、研究の方向性を共有することを目的とする。

S1-1 積雪地域に適したスギ林の下刈り省略方法：長岐昭彦(秋田県林業研究研修センター)ら

S1-2 下刈スケジュールが植栽木の成長に与える影響：渡辺直史(高知県庁)ら

S1-3 ワラビカバークロップによる下刈り省力化：中村人史(山形県森林研究研修センター)ら

S1-4 下刈作業の省力化・軽労化へむけた林地用除草剤の散布事例：外館聖八朗(ノースジャパン素材流通協同組合)

S1-5 下刈り機械化のための根株除去技術の検討：渡辺一郎(地独)北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場)ら

S1-6 機械地拵えによる競合植生抑制の可能性：大矢信次郎(長野県林業総合センター)ら

S1-7 クラッシャ地拵による下刈コスト削減効果：原山尚徳(森林総合研究所北海道支所)ら

S1-8 雑草木被度と苗の成長に与える下刈り頻度の影響：城田徹央(信州大学)ら

S1-9 雑草木の植生により下刈り要否の判断基準は異なるのか？：鶴崎幸(福岡県農林業総合試験場)

S1-10 下刈り省力化に向けた UAV/ドローン活用の可能性と限界：中尾勝洋(森林総合研究所 関西支所)ら

S2 気候変動はマツ材線虫病の拡大に対してどのような影響を与えるか？

What kind of influence does the climate change have for expansion of the Pine Wilt disease?

コーディネータ： 渡辺敦史（九州大学）、福田健二（東京大学）

3月27日 9:00-12:00 会場 共通教育1号館153講義室

温暖化に代表される気候変動が森林に対し、様々な影響を与えることが懸念されている。その一つに病虫害の拡大があり、マツ材線虫病も温暖化に伴い、拡大する可能性が指摘されてきた。実際、マツ材線虫病の東北やこれまで被害が軽微であった高標高地域への被害拡大は、この指摘を裏付けるものと言える。本シンポジウムでは、野外環境とマツ材線虫病の関係性またはマツ材線虫病の病徴進展と温度との関係性等の研究成果から宿主寄生者間相互作用に環境要因、特に温度がどのように影響するのか、ここ数年に亘る研究成果を紹介する。さらに、全国から収集したマツノザイセンチュウを対象として、その拡大過程を分子遺伝学的アプローチによって明らかにするだけでなく、適応性に関する研究成果から温度要因が拡大と定着に与えた影響について考察する。今後の気候変動、特に温暖化に伴うマツ材線虫病の拡大に新たな視点を提供する可能性が高い最新の研究成果を報告することに加え、温暖化に代表される気候変動に対して松枯れ被害対策の一つであるマツノザイセンチュウ抵抗性育種の将来方向性を議論したいと考える。

S2-1 マツノザイセンチュウ抵抗性に影響する気象要因の検討：井城泰一（森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場）ら

S2-2 マツ材線虫病における病徴進展とマツノザイセンチュウの増殖過程との関係性：山口莉未（九州大学）ら

S2-3 環境要因がクロマツのマツノザイセンチュウ抵抗性の発現に及ぼす影響：松永孝治（森林総合研究所林木育種センター九州育種場）ら

S2-4 マツノザイセンチュウの温度特性とその適応：小林玄（九州大学）ら

S3 冬の森林生態学 ―気候変動への示唆―

Winter Forest Ecology ―Implications for climate change―

コーディネータ： 小林真（北海道大学）、上田実希（日本女子大学）

3月27日 9:00-12:00 会場 共通教育1号館152講義室

植物は冬季の低温や積雪などに適応するため、成長期とは異なる多様な挙動を示す。また、近年の研究から、冬季は植物にとって単に耐え忍ぶだけの期間ではなく、土壌からの養分獲得や光合成など、年間の活動量の無視できない割合を行っていることが分かってきた。しかし、成長期に比べて、冬季の植物の振る舞いや生態系プロセスに関する研究は圧倒的に少ない。さらに、進行中の気温上昇にともない、冬の気温、積雪量や雪解け時期の変化など冬の気候変化が報告されているが、未だその森林生態系への影響には不明な点が多く残されている。本シンポジウムでは、植物の越冬戦略に関する最新の基礎研究や、気候変動を巧みに模倣した実験的研究の成果などについて講演いただくとともに、植物生理学、森林生態学、土壌学など多様な視点から、今後の研究の方向性について議論したい。

- S3-1** 植物の寒冷適応機構の理解を目指して：実験室から野外へ：上村松生(岩手大学)ら
- S3-2** 樹木木部の生活細胞（柔細胞）の氷点下温度への適応—組織学的なアプローチ：黒田克史(森林総合研究所)
- S3-3** 雪山における落葉樹の開葉時期：可塑性と進化，気候変動に対する応答：石田清(弘前大学)ら
- S3-4** 冷温帯林の高木において温暖化が植物と昆虫の相互作用に与える影響：中村誠宏(北海道大学)
- S3-5** 土壌の凍結融解が根リター増加を介して土壌の窒素変換に与える影響：細川奈々枝(北海道大学)ら
- S3-6** 樹木の冬の窒素獲得と植物体内での窒素動態：上田実希(日本女子大学)
- S3-7** 雪解けの早まりが土壌を介して森林植物に及ぼす影響：小林真(北海道大学)

S4 データベースは樹木根研究を加速させるか？

—樹木根の成長と機能 企画シンポジウム—

Can the development of database accelerate the woody root research?

コーディネータ： 福澤加里部（北海道大学），檀浦正子（京都大学），
大橋瑞江（兵庫県立大学）

3月27日 9:00-11:00 会場 共通教育1号館137講義室

近年、生態学をはじめさまざまな研究分野においてデータベース（DB）の整備が進んでいる。根の研究においても欧米などでこの流れに乗る動きがある。しかし、国内の樹木根や関連領域を扱う研究者にとって、DBへのデータの提供とそれらの利用に関する理解は必ずしも進んでいない。本シンポジウムでは、「そもそもDBとは何なのか？」という基本から始め、「DBを活用することでどのように研究が発展するのか？」、「基礎的なデータ取得に地道に取り組んでいる研究者にとってのメリットはあるのか？」など、多くの研究者がいただいていると思われる疑問について情報を共有し、樹木根研究データの提供と利用の可能性について議論をしたい。この中で、DBの構成要素であるメタデータや成果出版物であるデータペーパーについても触れる予定である。生態学分野でのDBの活用事例について、北海道大学の柴田英昭さんと京都大学の小野田雄介さんに紹介していただくとともに、根の研究におけるDBの活用についての課題と展望を信州大学の牧田直樹さんに講演していただく。そしてDBを活用することにより樹木根研究がどのように加速するのかについて皆で議論する。樹木根研究に直接関わっていない方々も含めて、DB活用など当テーマに関心を持つ多くの方々の参加を歓迎する。

- S4-1** 生態系研究におけるデータ公開：Long-Term Ecological Researchの取り組み：柴田英昭(北海道大学)
- S4-2** 樹木形質データベースの紹介と活用：小野田雄介(京都大学)ら
- S4-3** あなたとわたしの樹木根研究の発展のために～データベースとの付き合い方～：牧田直樹(信州大学)

S5 わが国における新たな国産材産地形成の実態とその意味について

The current state of new domestic lumber production system and its meanings

コーディネータ： 餅田治之（林業経済研究所）

3月27日 9:00-12:00 会場 共通教育1号館141講義室

今日のわが国における国産材の生産・流通のあり方は、かつて1980年代・90年代に「国産材産地」と言われた頃の生産・流通構造と比べると大きく変わってきている。本企画は、その変化の実相と意味を考察することを目的としている。

かつての国産材産地（旧産地）のイメージとしては、たとえばスギ材産地では岩手県気仙、宮城県津山、静岡県天竜、高知県嶺北、大分県日田、宮崎県耳川などの各地域が、ヒノキ産地としては岡山県勝山、高知県幡多・八幡浜、熊本県球磨地域などが浮かんでくる。これらの国産材産地は、中小規模製材工場が多数立地し、近隣の原木市売市場あるいは国有林の公売・随契に原木を依存する形で、それぞれの地域毎に成立していたのである。

しかし、これら旧産地は90年代の後半から縮小・衰退の一途をたどり、それと表裏をなす形で、2000年代に入る頃から、北海道東、南東北・北関東、南九州などにおいて、新たに大規模な国産材の生産・流通の構造が形成されてきた。これらの新産地は、旧産地が再編された形で形成されたものではなく、まったく新しいタイプの産地として構築されてきたものであった。その新国産材産地の特徴を一言で言えば、かつての産地よりもはるかに広域的な規模で、製材・集成材・合板・プレカット・木質バイオマス発電などが錯綜しつつ、かつ相互の競争の中で形成されてきたことであると言えるであろう。当然生産規模も大型化し、新たな流通・消費の仕組みを内包するものであった。

本企画は、今日日本国内に新たに形成されつつあるこうした国産材の生産・流通の仕組みが、何によってどのようにもたらされ、旧産地に対していかなる特徴と意味を持っているのかを明らかにしようとするものである。

S5-1 新たな国産材産地の形成，脱国産材産地について：山田壽夫(木構造振興株式会社)

S5-2 北関東における新たな国産材産地の形成とプレカットおよび住宅産業の動向：坂野上なお(京都大学)

S5-3 東北地域の林業構造の再編と地域林業の課題：伊藤幸男(岩手大学)ら

S5-4 北東北の原木需給と産地形成：大塚生美(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所)

S5-5 北関東における新たな国産材産地の形成：餅田治之(一般財団法人林業経済研究所)

S5-6 1990年代以降の近畿・東海地方における木材加工業の動向：幡建樹(東京大学)

S5-7 中国地方における新・国産材産地形成：伊藤勝久(島根大学)

S5-8 四国地方における国産材加工産業の大型化と原木流通の変化：川田勲(高知大学)

S6 森林気象害のリスク管理 ―森林保険創設 80 周年を迎えて―

Risk management for meteorological damages ― the 80th anniversary of the establishment of forest insurance

コーディネータ： 高橋正義（森林総合研究所）、鈴木寛（森林総合研究所）、
後藤義明（森林総合研究所）

3 月 27 日 9:00-12:00 会場 共通教育 1 号館 142 講義室

林業は林木が成熟するまでに長年月かかるため、その間に強風、乾燥、降雪等の様々な気象条件を経験し、時に気象害が発生する。このような気象害は林業経営においてリスクとして認識されている。日本は、1937（昭和 12）年に森林火災国営保険として創設された森林保険制度を有するなど、リスク管理に関して古くから関心を持つ国である。森林資源の変化とその要請に応じて様々に拡充された森林保険制度は、2017 年で 80 年の節目の年を迎えた。

しかしながら、森林、林業におけるリスク管理は、リスクに応じた施策が十分ではないなど、いまだ発展途上にある。その原因は、気象害の発生頻度や被害の深刻さに関して、林分ごとのリスク評価が十分にはできていないためと考えられる。森林の造成、維持、管理を適切に行うなど林業経営を長期的に支え、同時に、森林に求められている国土保全に関する役割を十分に果たしていくためには、リスクを適切に評価し、リスクに対応した森林の造成・管理技術を開発する必要がある。さらに、森林保険制度もこうした技術的な発展を踏まえながら一層の拡充を図る必要がある。

そこで、風害、雪害、干害、林野火災等の気象害におけるリスク評価に関連する研究報告や、リスクに対応した施策技術、森林保険の歴史やその問題点などリスク管理における現状を紹介するとともに、今後の方向性を探る。

S6-1 転換期の森林保険：興枅克久（筑波大学）

S6-2 統計学からみた森林におけるリスク管理：加茂憲一（札幌医科大学）ら

S6-3 気象害と森林管理の関係：鳥田宏行（北海道立総合研究機構）

S6-4 統計資料に基づく 36 年間の日本の民有人工林における干害の発生状況：吉藤奈津子（（国研）森林研究・整備機構）

S6-5 林床可燃物含水状態の推定モデルによる林野火災発生危険度の広域評価：玉井幸治（森林総合研究所）ら

S6-6 気象データから冠雪害の発生リスクを評価する：勝島隆史（森林総合研究所）ら

S6-7 森林気象害と森林情報：高橋正義（森林総合研究所）ら

S6-8 森林保険と今後の方向性：大貫肇（（国研）森林研究・整備機構 森林保険センター）

S7 林業遺産の保存と持続的な活用に向けて ―日本森林学会の選定遺産の紹介―

Direction toward preservation and sustainable use of forestry heritage — Introduction of the heritage selected by the Japanese Forest Society

コーディネータ： 佐藤宣子（九州大学）、柴崎茂光（国立歴史民俗博物館）、
竹本太郎（東京農工大学）、深町加津枝（京都大学）、櫻井倫（宮崎大学）

3月27日 9:00-11:00 会場 共通教育3号館335講義室

近年、近代化産業遺産や日本遺産といった制度が誕生し、これに呼応する形で、産業遺産に対する世間の関心も高まりをみせている。日本森林学会も2013年度から「林業遺産」選定制度を開始し、2016年度までに計23件が選定されている。

しかし現実をみると、多くの林業遺産は、適切に保存されないまま年々風化が進むという問題を抱えている。林学の世界においても、過去の技術や遺構の適切な保存・活用に関する研究は、必ずしも十分行われてこなかった。

そこで、本シンポジウムでは、「林業遺産を保存しつつ、長期的な視点から林業教育や地域づくりにつなげるための方策」を参加者とともに議論するために企画した。日本森林学会が選定した林業遺産を紹介しながら、全国の遺産の状況、遺産応募にいたる経緯や遺産活用の状況、林業遺産を保存するための課題、林業機械は遺産になりうるのかなど、多様な側面から林業遺産について議論する予定である。

S7-1 日本森林学会による林業遺産選定の紹介：佐藤宣子(九州大学)

S7-2 全国アンケート調査をふまえた全国の林業遺産とこれからの課題：深町加津枝(京都大学)

S7-3 森林機械は遺産たりうるか？：櫻井倫(宮崎大学)

S7-4 持続的な林業遺産の保全に向けた取り組み ―屋久島を事例にして：柴崎茂光(国立歴史民俗博物館)

S7-5 四国森林管理局が保有する林業遺産の保存と活用：江坂文寿(四国森林管理局)

S7-6 林業遺産「いの町の森林軌道跡」を活用した地域振興：野村孝宏(高知県いの町役場)

S8 生理部門企画シンポジウム「金属元素―輸送・集積・無毒化」とポスター1分紹介

Physiology Section Symposium “Metal elements in trees — transportation, accumulation and detoxification” and poster introduction

コーディネータ： 則定真利子（東京大学）、田原恒（森林総合研究所）、
小島克己（東京大学）、斎藤秀之（北海道大学）、津山孝人（九州大学）

3月27日 9:00-12:00 会場 共通教育3号館311講義室

講演会「金属元素―輸送・集積・無毒化」と生理部門のポスター発表の1分紹介からなる生理部門の企画シンポジウムを催します。

生理部門では樹木の成長の仕組みを明らかにする研究に携わる方々の情報・意見交換の場となることを目指します。個体から細胞・分子レベルまでの幅広いスケールの現象を対象とした多様な手法によるアプローチを対象として、以下のキーワードを掲げています：樹木生理、個体生理、生態

生理，水分生理，栄養成長，生殖成長，物質輸送，栄養，環境応答，ストレス耐性，光合成，呼吸，代謝，細胞小器官，細胞壁，植物ホルモン，組織培養，形質転換，遺伝子発現，ゲノム解析，エピゲノム解析，オミクス解析。従来の研究分野の枠組みにとらわれることなく，さまざまなスケール・手法で樹木の成長の仕組みの解明に携わる多くの皆様に生理部門での口頭・ポスター発表にご参加頂くとともに本シンポジウムにご参集頂きたいと考えております。

講演会では，樹木における金属元素の動態をテーマとして，大会開催地の高知大学でイネを材料にマンガンやカドミウムの輸送機構や耐性機構などの研究に携わっておられる上野大勢氏に植物におけるマンガン輸送機構についての研究成果をご披露頂きます。また名古屋大学の富岡利恵氏からの樹木の重金属集積機構についての研究成果披露と森林総合研究所の田原恒氏からのアルミニウムの細胞内無毒化機構についての研究成果披露を予定しています。研究上の苦労や工夫なども交えながらの3講演を通して，樹木以外の植物種で得られている知見にも触れながら樹木の金属元素動態に関する情報・議論を交わして理解を深める場となることを期待しています。

1分紹介では生理部門でポスター発表をされる方に発表内容を1分間でご紹介頂きます。

S8-1 イネの高マンガン集積に関わる分子機構：上野大勢(高知大学)ら

S8-2 タンニンによるユーカリのアルミニウム無毒化機構：田原恒(国立研究開発法人森林研究・整備機構)

S8-3 重金属集積樹木における重金属集積特性とその意義：富岡利恵(名古屋大学)ら

S9 里山林の前史としての「草山」を考える

“KUSAYAMA” as prehistory of Satoyama woodlands

コーディネータ： 大住克博（鳥取大学），横川昌史（大阪市立自然史博物館）

3月27日 9:00-12:00 会場 共通教育3号館325講義室

里山林は，本州以南の日本列島では最も身近な二次的生態系である。里山林が古くから緑肥や薪炭の利用に伴う人為攪乱により維持され，その生態系は人と密接に関わってきたことや，その歴史の中で特徴的な生物相が形成されてきたことは，近年の多くの研究により明らかにされてきた。それらの知見の中で注目すべきことに，近世の里山では，森林ではなく草山が卓越していたことが挙げられる。農地生産力の維持を草山でとれる緑肥に大きく頼っていたために，農村の周囲には，薪炭林の5～10倍程度の草山が必要であったと推計されている。このことと現在の里山がほぼ森林に覆われていることを考えあわせると，現在の里山林には，人為攪乱により天然林から二次林化したものばかりではなく，近世以降，草山からシフトすることで成立したものも多く含まれている可能性が高い。しかしながら，里山林の前史としての草山の存在は，今までの里山林生態系についての議論の中に，十分に反映されてきたとはいえない。

本シンポジウムでは，まず，近世から現代にかけての里山利用の変遷を文書資料などにより追跡することで，里山での森林と草山の動的な変化について検討する。また，草山から里山林に移行する中での植物相の変化について，樹木種の生態から見た草山の森林化のメカニズムと，草本種からみた草山の森林化に伴う衰退メカニズムの双方から概観し，その生態的なプロセスを議論したい。

- S9-1** 大阪の里山はどのくらい草山だったのか—過去の利用と変遷を考える：佐久間大輔(大阪市立自然史博物館)
- S9-2** 草山利用の歴史的変遷：岡山県蒜山地域を事例として：増井太樹(岐阜大学)
- S9-3** 森と草原の狭間で：放棄と再生に伴う草原性植物の動態：横川昌史(大阪市立自然史博物館)ら
- S9-4** 火入れ停止後の草地はどのように森林化していくか？ 種子散布型に着目して：三谷絵理子(鳥取大学)ら
- S9-5** 利用の終わった草山がコナラ林を生んだ：大住克博(鳥取大学)ら

S10 森林教育研究のさらなる展開を目指して—教育学，実践現場との関わりを通じて

For seeking to extend forest education research activities: associating with various pedagogists and specialists of forest administration

コーディネータ： 井上真理子（森林総合研究所），東原貴志（上越教育大学），
大石康彦（森林総合研究所）

3月27日 9:00-12:00 会場 共通教育1号館127講義室

森林・林業分野では、「森林環境教育」の提唱（1999年）や「木育」の提唱（2004年）など，教育活動が推進されている。日本森林学会大会での森林教育に関するセッション（企画シンポジウム）は，2003年（第114回大会）から設けられ，研究発表が継続して行われてきている。本年からは，新たに教育部門が設置されることとなった。森林教育の研究史をひも解くと，古く1925年の林學會雑誌に農林学校の林学に関する論文が掲載されており，取り組みの歴史は長く，森林学での教育研究は，これから更なる推進が期待される。ただし，森林に関わる教育活動は，森林や林業の専門教育，子ども達や一般の人を対象に森林や林業への理解を広める活動などを含んでおり，幅広い。活動内容をみても，森林や自然の観察活動，林業や木工作業，ハイキングや登山などの森林レクリエーション活動など，多様な要素が含まれている。内容の幅が広い森林教育について，森林学会の部門として研究を深めてゆくには，様々な視野からのアプローチが必要といえるであろう。

そこで，教育の部門化を契機に森林教育研究のさらなる発展を目指して，学際的に研究を推進してゆくために，森林に関わりが深いさまざまな教育学の研究者や行政や教育活動の実践者などと教育研究の情報を共有するシンポジウムを企画した。本シンポジウムには，環境教育，理科教育，林産教育や木育，野外教育，森のようちえん活動，森林・林業行政等の関係者にご登壇頂く予定である。森林教育の研究者に限らず，森林学の知見を広く普及することに関心のある各分野の研究者や，森林・林業分野の人材育成に関わる方など多くの学会員にご参加頂き，活発な議論を行いながら，森林教育研究の可能性を追求してゆきたいと考えている。

- S10-1** 学習指導要領等の改訂を踏まえた「森林 ESD」の推進：木俣知大(公益社団法人国土緑化推進機構)
- S10-2** 秋田県における森林環境学習等の取り組みについて：戸部信彦(秋田県)
- S10-3** 地域密着型ネイチャーセンターにおける野外教育の人材育成：山田亮(北海道教育大学岩見沢校)ら

- S10-4** びわこちびっこキャンプの取り組みとその効果：中野友博(びわこ成蹊スポーツ大学)
- S10-5** 幼児期における森林教育―東京ゆりかご幼稚園の事例報告―：内野彰裕(東京ゆりかご幼稚園)
- S10-6** こどものけんちくがっこう：鷹野敦(鹿児島大学)
- S10-7** 幼児教育における木育の環境構成：寺床勝也(鹿児島大学)
- S10-8** 中学校における生物育成の技術に関する森林・林業教育の実践：大谷忠(東京学芸大学)
- S10-9** 森林ボランティアサークルによる大学演習林を活用した森林環境教育の実践：神代圭輔(京都府立大学)

S11 津波被災海岸林の再生に向けた取り組み：人工造成基盤上への森林造成の状況

Recent studies for afforestation of coastal forests damaged by the mega-tsunami: Current state of the replanting trees on the berms constructed as a growth medium of coastal forests

コーディネータ： 小野賢二（森林総合研究所），野口宏典（森林総合研究所）

3月27日 14:30-17:30 会場 共通教育1号館 125 講義室

東日本大震災で発生した津波により一部の海岸林は壊滅的被害を受けた。この一因に地下水位が高い場所では根が地中深くまで発達していなかったことがある。このことから、被災した海岸林の再生においては植栽木根系の健全な成長が担保されるよう、生育基盤として盛土が行われている。しかし、盛土は造成時の重機の走行等による締固めによって、土壌が硬くなり、排水性も低くなることが報告され、これらが盛土の目的である「根系の健全な成長」を妨げている事例が生じている。現在、東北地方太平洋沿岸で進められている盛土を伴う海岸林造成のように、非常に広大且つ分厚い有効土層を有した生育基盤を造成した上での森林造成は、東日本大震災以前にはほとんど行われていなかった。従来の森林造成は「適地適木」が原則だったためである。そのため、樹木の生育基盤としての造成土上への森林造成法に関する知見は、公園造成や都市緑化などの小面積で有効土層が浅い「緑化工」分野に限定されている。本シンポジウムでは、現在進められている被災海岸林再生現場において造成された生育基盤としての盛土土壌の現状を紹介し、土壌硬度や排水不良などの土壌物理性と植栽木根系発達の問題を取り上げて議論を深めたい。さらに、東日本大震災以前から低湿地対策としての盛土造成を伴う海岸林造成を行ってきた千葉県有海岸防災林や、埋め立て地における公園緑化を進めてきた東京都海の森公園予定地（2020年東京オリンピック会場）における事例も紹介し、今般の海岸林再生事業に役立てるべき情報について整理する。さらに、海岸林の再生にあたっては広葉樹の利用も求められ、実際に植栽されているので、そうした現場の実態と課題を整理し、海岸林での広葉樹類の活用のあり方を議論する予定である。

- S11-1** 人工造成基盤上への森林造成の取り組み：趣旨説明：小野賢二(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)ら
- S11-2** 岩手県における津波被災海岸林の再生を目的とした生育基盤盛土工の改良事例：新井隆介(岩手県林業技術センター)ら
- S11-3** 津波被災地に造成された広葉樹盛土植栽地の植栽基盤特性と樹木成長について：佐野哲也(東北工業大学)

- S11-4** 生育基盤盛土を伴う海岸林での根系到達深度と固結層出現深度の関係：野口宏典(森林総合研究所)ら
- S11-5** 根系成長を制限する土壌硬度を土壌貫入計で検出する方法の提案：鈴木寛(森林総合研究所)ら
- S11-6** 低湿地対策としての盛土工を伴う海岸林造成—千葉県九十九里浜の事例—：小森谷あかね(千葉県農林総合研究センター森林研究所)ら
- S11-7** 千葉県有海岸林におけるクロマツの根系伸長特性：橘隆一(東京農業大学)ら
- S11-8** 造成緑地における土壌の特徴と機能：川東正幸(首都大学東京)ら
- S11-9** 四国の海岸林における林分構造の比較—広葉樹林とクロマツ林—：大谷達也(森林総研四国)

S12 薬剤使用の制約を見越して松くい虫被害対策を考える

To cope with pine wilt disease under limited use of chemical agents

コーディネータ： 中村克典（森林総合研究所）

3月27日 14:30-17:00 会場 共通教育1号館152講義室

日本の松くい虫防除技術は駆除と予防（予防散布，樹幹注入，抵抗性育種）をセットに成り立っていたが，農薬使用を忌避する風潮の下，とくに予防散布の実施に強い制約がかかるようになり，結果として松くい虫被害の拡大に十分に対処できない例が増えている。このような条件下での今後の松くい虫対策では，予防散布が担っていた外部から飛来，侵入する媒介昆虫へのバリアの効果を一部でも代替できる手法を開発・導入するとともに，予防散布以外の技術についても高度化を図っていく必要があるだろう。これを実現するために，今，具体的に考えられる手立ては何か？

本企画シンポジウムでは薬剤使用への制約が強まる中での松くい虫被害対策の強化に向け，(1)伐倒駆除の高度化に資する未普及の技術に関する有効性の検証，ならびに被害材の燃料利用の普及に向けた生産－流通システムの検討，(2)予防伐採，樹種転換の促進に向けたアカマツの新規用途としての CLT 製造技術の開発，(3)既被害地，未被害地，アカマツ林業地といった場面ごとに求められる抵抗性マツ生産・利用技術の高度化，のそれぞれの観点からすすめられてきた研究の現状を紹介する。その上で，これらの技術を組み込んだこれからの松くい虫防除戦略ないしマツ林管理のあり方について議論を深めたい。

- S12-1** マツノマダラカミキリの駆除をさらにすすめるために何ができるのか？：中村克典(森林総合研究所)ら
- S12-2** 樹種転換の促進に向けたアカマツの新規用途としての CLT 製造技術の開発：後藤幸広(岩手県林業技術センター)ら
- S12-3** 東北地方におけるマツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発とその利用戦術：山野邊太郎(森林総合研究所林木育種センター)

S13 日本の伝統的な漆塗を支える国産漆の増産

High urushi lacquer production for keeping traditional urushi painting in Japan

コーディネータ： 田端雅進（森林総合研究所），小谷二郎（石川県林業試験場）

3月27日 14:30-17:00 会場 共通教育1号館141講義室

ウルシの樹脂（漆液）は、9000年前の縄文時代から漆器等に使われ、日本人に広く親しまれている。漆は国宝・重要文化財の修復など伝統文化の維持に貢献してきたが、昨今伝統文化を支える国産漆の供給が危機的状況にある。現在日本で使用される漆の約97%を中国産が占め、国産漆は残り3%程度しか生産されていない。全国産漆の4割が平成19年からの日光の文化財修復で使用され始めたことによる深刻な漆の供給不足が起こっていることから、安定的な需給体制を確立する必要性が高まっている。そのため、漆の生産性や品質の向上が強く求められている。このような背景の中で平成22年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業の研究プロジェクトを行い、第123・124回森林学会テーマ別シンポジウムではウルシ林の管理技術や病気の被害防除技術について報告し、情報共有した。

今回のシンポジウムでは、傷害樹脂道形成と傷害エチレン生成の特性、樹皮組織、樹脂生産量及び植物ホルモンの関係、漆液滲出時の遺伝子発現解析、ウルシ胴枯病菌のゲノム解析、萌芽木の成長に与える胴枯病の影響等の研究成果を発表していただき、今後の国産漆増産について参加者と議論し、情報共有を図りたい。

S13-1 ヒノキ師部の傷害樹脂道形成と傷害エチレン生成の特性：楠本大（東京大学大学院）

S13-2 異なるクローン内での樹皮組織、樹脂生産量及び植物ホルモンの関係：田端雅進（国立研究開発法人森林研究・整備機構）ら

S13-3 ウルシ液滲出時の遺伝子発現解析：渡辺敦史（九州大学大学院）ら

S13-4 *Diaporthe toxicodendri* によるウルシ胴枯病：安藤裕萌（森林総合研究所東北支所）ら

S13-5 ウルシ胴枯病菌 *Diaporthe toxicodendri* のゲノム解析：升屋勇人（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら

S13-6 ウルシ萌芽木の成長に与える胴枯病の影響：石井智朗（岩手大学大学院）ら

S14 環境変化にともなう森林の生産性と分布の予測

Forest productivity and distribution under changing environment

コーディネータ： 渡辺誠（東京農工大学）

3月27日 14:30-17:30 会場 共通教育3号館311講義室

産業革命以降、化石燃料の消費拡大に代表される人間活動によって、森林を取り巻く環境は劇的に変化している。特に降水量の変化などの気候変動、大気CO₂濃度の増加、窒素や硫黄といった酸性物質の沈着量の増加・減少、オゾンやPM2.5などの大気汚染物質が森林生態系に与える影響は世界的に懸念されている。また、林分単位に目を向けても、様々な施業に伴って、そこに残された樹木の環境が大きく変化し、その影響の理解が必要となる。これらの人為起源の環境変化は、土壌の養分・水分の利用性や病虫害に対する抵抗性といった様々なプロセスの複雑な変化を通じて森林の生

産性や分布に影響を与える。一方で、そのフィードバック作用として、森林からの養分・水分および揮発性有機化合物などの放出特性が変化する。数十年の長い年月が必要とされる木材の生産、環境資源としての森林の持続的利用、そして流域レベルでの物質循環の将来予測を行う上で、これら人為起源の環境変化と森林・樹木における相互作用の理解は避けて通ることができない重要な課題である。本シンポジウムは樹木生理生態学を中心として、大気を中心とした環境のモニタリング、操作実験およびフィールド調査、さらに森林や樹木への影響の数値モデルを用いた評価、というように分野横断的な発表により構成される。これらの様々な分野における最新の知見を持ち寄り、日本をはじめとしたアジア地域の森林に対する大気環境の変化の影響と将来の展望を議論する。特に異なる分野間の異なるスケールで得られた知見を、双方からどのように捉えるのかについての議論を深める機会としたい。

S14-1 森林における反応性窒素のガスー粒子転換に関する数値的研究：堅田元喜(茨城大学)ら

S14-2 山岳森林域における広域大気汚染の影響評価 富山県・立山における事例：久米篤(九州大学)ら

S14-3 変動する大気環境下での温帯スギ林及び熱帯季節林の溪流化学性：佐瀬裕之(アジア大気汚染研究センター)ら

S14-4 冬季伐採にともなう春季の光障害がトドマツ前生稚樹の成長に及ぼす影響：北尾光俊(森林総合研究所)ら

S14-5 ブナの葉内光合成過程に対するオゾンの影響：渡辺誠(東京農工大学)ら

S14-6 窒素付加とオゾン暴露がカラマツ属 2 種苗木の針葉成分に与える影響：菅井徹人(北海道大学)ら

S14-7 高濃度オゾン環境下におけるシラカンバの食害傾向と BVOC の関係性：増井昇(北海道大学)ら

S14-8 ハルニレ稚樹の成長に及ぼす高オゾンと窒素沈着の影響—虫害に注目して—：小池孝良(北海道大学)ら

S15 森林の種間交雑の実態にせまる

Get to the picture of hybridization in forest

コーディネータ： 玉木一郎（岐阜県立森林文化アカデミー）、津田吉晃（筑波大学）

3月27日 14:30-17:30 会場 共通教育3号館325講義室

森林で研究をしている人であれば、これまでにフィールドで「これは雑種ではないか？」という形態を示す生物を目にした経験があるのではないだろうか。そのような直感は概ね正しく、操作実験や遺伝マーカーにより確かめることができるが、雑種形成過程の実態はそう単純ではないことも多い。一方で雑種と思われる個体を遺伝マーカーで調べてみると、雑種でないということもある。祖先多型なども考慮する必要があるが、最近の種間に着目した遺伝構造研究の多くは、種分化後に種間で遺伝的交流が存在した可能性が高いことを報告している。つまり、現在の種内の遺伝的構造には、過去の種間交雑が多かれ少なかれ影響を及ぼしている可能性があるということである。具体例としては、我々人類のゲノムにも、過去のネアンデルタール人やデニソワ人との種間交雑の痕跡が

残っていることが知られている。種間交雑の時間的スケールには、現在進行形のものから、最終氷期やさらに昔に生じていたものまでと幅がある。また、交雑帯が生じている空間的スケールも、流域レベルから、大陸レベルまでと幅広い。どのような生物的・非生物的要因の下で種間交雑が生じている／生じていたのかを明らかにすることは、対象種の過去や将来を予測し、森林資源の管理・保全や育種に役立てる上で重要である。本シンポジウムでは、樹木を中心に、時間的・空間的スケールが異なる種間交雑の最新研究を紹介する。そして、これら雑種形成動態をどのように森林科学の研究現場だけでなく、森林リクリエーションなど森と社会との繋がり の場に応用するか、参加者とともに議論を行いたい。

- S15-1** 種間雑種の形態形質は両親種と比較して中間的か?カバノキ属 3 種を用いた検証：花岡創(森林総合研究所林木育種センター)ら
- S15-2** モクレン属の交雑帯における第二世代雑種形成時の交雑不和合性の減少：玉木一郎(岐阜県立森林文化アカデミー)ら
- S15-3** 気候変動は適応的浸透交雑をもたらすか—*Rubus* 属における種間交雑—：三村真紀子(玉川大学)ら
- S15-4** 北海道海岸林におけるミズナラ・カシワ交雑帯の実態：中西敦史(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)ら
- S15-5** Hybridization and species boundaries in Japanese *Tsuga* : Worth James (FFPRI)
- S15-6** 溪流魚イワナをめぐる交雑現象：北野聡(長野県環境保全研究所)ら
- S15-7** 大陸スケールでみる樹木の雑種形成および浸透交雑の実態とその歴史：津田吉晃(筑波大学)

公募セッション

T1 木質バイオマスのエネルギー利用の現状と展望—FIT 後を見据えて—

State and projection of woody biomass use for energy: Focusing on the era after FIT

コーディネータ： 鈴木保志（高知大学），寺岡行雄（鹿児島大学），
久保山裕史（森林総合研究所），吉岡拓如（日本大学），有賀一広（宇都宮大学）

3月27日 9:15-12:00 14:30-17:00 会場 共通教育1号館133講義室

森林学会大会では、第124回大会以来、木質バイオマス（森林バイオマス）のエネルギー利用に関するテーマ別シンポジウムあるいは企画シンポジウム、公募セッションが継続して設けられ、林政・経営・利用といった分野を横断しての報告と議論が重ねてられてきた。近年はFITの施行にともない規模の大きい木質バイオマス発電の持続可能性に注目したテーマが続いているが、中小規模の熱利用など地域に根差した地道な事業も重要である。そこで本大会の木質バイオマスセッションでは、持続可能なエネルギー資源としての木質バイオマス（森林バイオマス）資源の育成・収穫・供給（ロジスティクス）・利用には何が必要かという原点に立ち返り、広い分野・観点からの現状や課題の報告をもとにした議論の場としたい。想定する具体的な内容は、発電や熱利用も含めたFIT事業に関してはその経過、木材価格や施業計画への影響といった現状の報告と分析、FIT後を見据えた今後の展望などであるが、これらに限らず新しい観点からの研究成果の報告も期待するものである。

T2 被災地での林業活動再開のために森林の放射性セシウム研究から見えること

What can we do for resuming forestry at areas affected by the FDNPP accident through radiocesium research in forest?

コーディネータ： 小松雅史（森林総合研究所），大久保達弘（宇都宮大学）

3月27日 9:15-12:00 14:30-17:00 会場 共通教育2号館212講義室

ポスター発表 3月27日 P1-142~P1-162

福島第一原発事故から6年が経過し、最近の1年間で葛尾村や飯舘村、富岡町の広域で避難指示が解除された。また、国による除染特別地域の除染はすべて完了し、特別地域外の市町村の除染も完了しつつある。このように原発の周辺では地域的な復興が着実に進行している。一方森林については、森林の周辺以外の除染は行われていないことに加え、森林から系外への放射性セシウムの流出割合は小さい。このため、新たに避難解除された地域の森林内に放射性セシウムは比較的高濃度で保存されていると考えられることから、林業活動再開のための知見が求められる。また、野生きのこや山菜、しいたけ用原木となる広葉樹は、それぞれ基準値や指標値を超えているため、広域で出荷制限が継続している。森林の放射能汚染は、地域ごとの汚染程度や特性によって解決すべき課題が異なり、問題は複雑化している。本公募セッションは今年で6回目となる。これまで、多くの研究者が参加し、ポスター・口頭の両方の形式で森林内の放射性セシウムの動態や汚染対策、将来予測など数多くの研究成果が発表されてきた。様々なレベルで発生している森林の放射能汚染問題を解決し、被災地の林業再開を支援するために、これまでの知見に基づく議論を継承しつつ、新たな知見を募り、議論を深めるために今年も公募セッション

ンを企画することとした。今年も幅広い分野・視点からの参加をお願いしたい。

T3 森林におけるシカ問題の解決に向けて

Constructing solutions against the impact of deer on forestry and forest ecosystems

コーディネータ： 藤木大介（兵庫県立大学），明石信廣（北海道立総合研究機構
林業試験場），飯島勇人（森林総合研究所），安藤正規（岐阜大学）

3月27日 9:00-12:00 会場 共通教育2号館222講義室

ポスター発表 3月27日 P1-239~P1-245

全国各地におけるシカの増加によって、森林では様々な影響が顕在化している。シカによる森林への影響を軽減するためには、シカの生態や個体数管理、シカの生息状況や森林への影響の把握方法、影響の程度を決定する要因の解明などシカを対象とした研究だけでなく、これらの知見を育林技術や林業経営、さらには森林に関する政策と統合するための多様な視点からの検討が必要である。

シカによる影響の蓄積によって、森林生態系に容易には回復させることのできない変化が生じることが明らかにされつつあり、他の生物や土壌などに及ぼす影響についても研究がすすんでいる。森林への影響が広域化し、これまでシカの少なかった地域でもシカ対策が求められるようになってきているが、そこでは、すでに対策がすすんでいる他地域の事例が大いに参考となるだろう。一方、林業分野ではシカの生息下で適切に施業を進めていくための方策が求められており、更新施業の中でシカ捕獲を実施するなどの実験的取り組みなども実施されている。今後、人工林資源が成熟して再造林面積が増加することが予想される中、再造林地のシカによる更新阻害問題が急浮上する可能性がある。育林技術や林業経営の視点からのシカ対策に関する研究も大いに取り組まれる必要があるだろう。今年で4回目となる本セッションでは、シカに関する幅広い研究発表とともに、シカ問題に関心をもつ多様な分野の研究者の参加を期待し、活発な議論をすすめたい。

T4 林業遺産の保存と持続的な活用に関する研究

Research on preservation and sustainable use of forestry heritage

コーディネータ： 佐藤宣子（九州大学），柴崎茂光（国立歴史民俗博物館），
竹本太郎（東京農工大学），深町加津枝（京都大学），櫻井倫（宮崎大学）

3月27日 11:15-12:00 14:30-17:00 会場 共通教育3号館335講義室

適切に保存されないまま風化しつつある多くの林業遺産を保存し、長期的な林業教育や地域づくりに繋げるためには、林業遺産をめぐる多角的な視角からの研究が求められる。本公募セッションでは、①全国の林業遺産に関する網羅的な調査、②活用されている林業遺産の事例分析、③風化の恐れのある林業遺産に関する事例分析、④保存や持続的な活用を行う上での政策的課題、⑤保存や持続的な活用を行う上での技術的課題、といった広範なテーマでの発表を予定している。本セッションでは、「山との関わりを持ちながら、木材・薪炭材・動植物・楽しみ（畏れ）といった山からの様々な恵みを受ける活動や、山地災害を軽減させるために行う活動」を（広義の）林業とし、そうしたもののなかで、「地域における森林・林業史の上で何らかの意味を持つ」ものを林業遺産と位置付ける。具体的には、①林業跡地や建

造物，②道具類・資料群，③林業技術④林業関連の信仰習俗，⑤林業発祥地・記念地，⑥林業景観を対象としている。

T5 樹木根の成長と機能

Development and function of tree roots

コーディネータ： 平野恭弘（名古屋大学），野口享太郎（森林総合研究所），
大橋瑞江（兵庫県立大学）

3月27日 11:15-12:00 14:30-17:15 会場 共通教育1号館 137 講義室
ポスター発表 3月27日 P1-276～P1-281

『樹木根の成長と機能』の公募セッションでは、樹木根をキーワードに太い根から細い根まで、生態系レベルから細胞レベルまで、根と関連した多岐にわたる研究を公募し、報告対象といたします。本公募セッションでは、樹木根だけでなく、境界領域分野との融合を目指します。ご自身の研究内容に「根」に関する測定項目があれば、葉や材質特性など樹木地上部に関する研究、土壌微生物、土壌化学性、土壌緊縛力など土壌に関する研究、温暖化や酸性化といった環境変動に関する研究など、根以外を主な対象とする発表も広く歓迎いたします。また、今後「根」を測定項目としたい会員向けに測定方法の共有も目的とします。

発表形式は口頭発表またはポスター発表とします。発表当日は、趣旨説明の後、口頭発表していただき、適宜発表間に討論時間を設け、最後に総合討論の時間を設ける予定です。趣旨説明では2017年6月にエストニアで行われた第7回国際樹木根会議や根研究学会の開催する根研究集会の紹介など樹木根の国際および国内動向を森林学会員に広く情報提供し、総合討論では、樹木根と境界領域分野との関連研究者間ネットワーク作りを促進するための討論も行いたいと思います。

T6 気象害リスクを低める主伐期時代の森林施業を考える

—個体から景観までの空間構造と森林施業—

Think forest management of matured forests to mitigate meteorological damage risk: considering spatial forest structures from individual to landscape

コーディネータ： 南光一樹（森林総合研究所），上村佳奈（信州大学），
水永博己（静岡大学）

3月27日 14:30-16:30 会場 共通教育1号館 142 講義室

地球スケールでの気候変動の進行下で、局所的には様々な極端気象現象の頻度が増加しており、甚大な森林被害が生じやすい気象環境下にある。一方で、わが国の人工林の多くは標準伐期を超えており、大規模被害が生じた場合には大きな経済的損失・心理的負担さらには復旧のための煩雑で危険な労働が求められる。その中でも特に人工林の成熟化に伴う風害への脆弱化が懸念されている。気象環境からも、森林資源の状態からも、あるいは施業トレンドからも人工林の風害リスクは高まっている状態にあると考えられる。

気候変動と主伐期到来時代を同時に経験する現在の森林施業には気象害の中でも風害リスク管理が

欠かせない要件であるといえる。しかしながら、多様な森林環境に関わる風害発生メカニズムの多くは未だに解明されておらず、回避のための施業デザインは未だに技術的な確立からは程遠く、現段階では社会的なリスク回避システムのみに依存せざるをえない状況である。

風害の物理的ダメージへの抵抗性は樹木の個体構造と関係が深く、風環境の激しさは群落構造や景観構造と関係が深い。そして、このような構造は施業デザインで人為的に操作できる部分がある。どのような個体構造が風害に強いのか？ 風害に強い個体構造をどのように育成するか？ どのような林分構造が強風を緩和するか？ 伐採区の配置と風害リスクの関係は？ これらの課題について、過去の技術の掘り起こしから、風害データの解析、メカニカルモデルからのアプローチまでを総動員して、風害に対するレジリエントな森林施業へ一歩踏み出したい。

T7 観光とレクリエーション

Tourism and Recreation

コーディネータ： 武正憲（筑波大学）、水内佑輔（東京大学）、庄子康（北海道大学）、
久保雄広（国立環境研究所）、愛甲哲也（北海道大学）

3月28日 10:45-12:00 14:30-17:30 会場 共通教育1号館127講義室
ポスター発表 3月27日 P1-020~P1-024

本公募セッションの目的は、近年の観光やレクリエーションに対する社会的な注目を反映し、これらについて議論できる場を設定し、研究交流の促進を図ることにあります。扱う対象は森林だけでなく、自然保護地域や自然公園、都市公園、景観、野生動物など幅広い対象を想定しており、観光やレクリエーションという文脈の下、様々な学問分野の研究発表がなされることを想定しています。観光とレクリエーションはこれまで風致部門においてキーワードレベルで扱われてきました。しかし、1) 林業名目GDPに占める割合は0.1%に満たないのに対し、観光業は5.0%を占めており、自然地域での観光がこの値すべてに関係している訳ではないものの、かなりの部分で関係していること、2) 全国の大学で観光関係の学部が新設されており、そこには森林学会に所属している研究者も数多く教員として採用されていること、の二点から公募セッションを設けることとしました。本公募セッションは四回目の開催になります。皆様のご参加をお待ちしております。

T8 森林環境の持つ保健休養機能の基礎的研究と応用研究

Basic and applied studies on forest amenities

コーディネータ： 上原巖（東京農業大学）

3月28日 9:00-10:30 会場 共通教育1号館127講義室

本セッションは第129回大会で14回目を迎え、森林科学研究の分野の中で、一般市民の関心が高い分野の1つである。これまでの大会では、生理的および心理的なアプローチの基礎的研究をはじめ、臨床事例、研究手法、尺度開発、国内外の地域における事例研究などが発表されてきた。基礎的研究から、保健休養に供する森林環境の整備といったハードの課題、治療・保養プログラム作成等のソフトの課題、そして各臨床症例・事例研究や、保養地事例などに至るまで多岐にわたった内容になっていることが特

徴である。そのため、森林・林業関係者だけでなく、医療、社会福祉、心理、教育など、多領域の専門家に参加していただきながらコラボレーションを行ってきたことが本セッションの特色であり、存続意義である。森林環境は、一般市民の日常的な健康増進はもとより、職場における保健衛生や、医療、福祉、教育などの社会における諸分野での可能性が大きい。本大会のセッションでは、そのような諸分野における視点から心身の保健休養に供する森林、樹木の利用、活用手法などの調査研究だけでなく、特に事例研究にも重点を置き、森林の持つ保健休養機能についての研究手法、アプローチ方法についても検討、考究したいと考えている。

T9 熱帯林研究

Tropical Forestry Research

コーディネータ： ONDA Nariaki 御田成顕 (Kyushu University 九州大学),

TERAUCHI Daisuke 寺内大左 (Toyo University 東洋大学),

OTA Masahiko 大田真彦 (Kyushu Institute of Technology 九州工業大学),

FUJIWARA Takahiro 藤原敬大 (Kyushu University 九州大学)

3月28日 14:30-17:00 会場 共通教育1号館133講義室

This session is designed to share knowledge, information and experiences on tropical forestry research. To address issues and achieve better conservation and utilization of tropical forests, it is essential to have the following: (1) knowledge on interdisciplinary approaches, (2) dialogue based on accurate information, and (3) learning from past experiences of trial and error. We invite presentations from various research fields such as ecology (e.g. biodiversity, carbon stock), silviculture, socioeconomics (e.g. farm economy, community forestry), anthropology (e.g. local livelihood, culture), politics (e.g. national and international policy), and information science (e.g. remote sensing, GIS). We also welcome presentations by international students as well as young Japanese researchers. To carry out discussion among participants from different countries, English is official language for all presentations and following question and answer in this session. To facilitate lively discussion in this session, the speakers are encouraged to make your presentations understandable for the participants with different background and mother languages.

学会企画

1. 観光レクリエーション分野のあり方検討会

コーディネータ： 田中伸彦（プログラム編成委員会 林政，風致部門委員長，東海大学）

日時 3月26日 17:00-19:00 会場 高知県立県民文化ホール第6多目的室

日本森林学会大会では、近年「観光・レクリエーション」や「教育」の分野にかかわる研究発表が増加し、関連する複数の公募セッションや企画シンポジウムが毎年のように開催されるようになった。このような状況の中で、これらを主宰する研究者の中から、各々の分野を部門化してほしいという要望が2016年に提出された。そのため、2017年3月に開催された第128回大会（鹿児島大）において、「林政・風致・経営，観光・レクリエーション，教育分野」のあり方検討会を行い、部門化の検討を行った。

その結果、「教育」分野は第129回大会から独立部門化することが決定されたものの、「観光・レクリエーション」については2017年度以降に結論を持ち越すことになった。そのため、本検討会では「観光・レクリエーション」分野の部門化についての討議を、改めて公開形式で行う。進め方としては、「観光・レクリエーション」にかかわる公募セッションや企画シンポジウムを学会大会で長年コーディネートしてきた研究者らに登壇いただき、昨年度の検討会の結果を踏まえた意見を提示していただく。そして、既設の「林政」、「風致」、「経営」、「教育」部門の部門委員会委員らを交えた討議を進め、「観光・レクリエーション」の部門化を検討したい。

2. 男女共同参画ランチョンミーティング「海外滞在と研究者家族」

コーディネータ： 山本美穂（男女共同参画担当理事，宇都宮大学）

日時 3月28日 12:15-13:15 会場 共通教育1号館125講義室

海外滞在時に研究者とその家族が直面した課題等について情報共有し交流を深める。留学・研究のために海外滞在を経験した者，来日研究者および留学生等，男女の共同参画のみならず多様な人材の参画推進を目的に開催する。

話題提供者

- (1) 北原文章（森林総合研究所）
- (2) 藤原敬大（九州大学）

3. 大学院進学とその後の進路の選択ー公立研究機関、行政機関への就職ー

コーディネータ： 黒田慶子（副会長，神戸大学）

日時 3月28日 13:30-14:30 会場 共通教育1号館 125講義室

一昨年の第127回大会（日大）では博士課程進学希望者に向けて，日本学術振興会の特別研究員（DC1，DC2，PD など）の申請方法と書類作成のコツについて，経験者に解説いただきました。昨年の第128回大会（鹿児島大）では，大学院進学後の進路を取り上げ，大学の助教の方2名をお呼びしてポスドクから大学の職を得るまでの経験談を，具体的に紹介いただきました。そのセミナー後の参加者アンケートでは，大学だけでなく民間企業や国公立研究機関への就職例を知りたいという意見，修士課程後の進路など学部生向けの話を聞きたいという希望が多くありました。そこで第129回大会では修士課程修了者を含めた進路として，公立研究機関や行政機関への就職をテーマとして，セミナーを開催します。

4. 論文執筆や審査の経験を共有しよう Part 3 ～男女共同参画の観点も含めて～

コーディネータ： 正木隆（表彰担当理事，森林総合研究所），

山本美穂（男女共同参画担当理事，宇都宮大学）

日時 3月28日 17:00-19:00 会場 共通教育1号館 125講義室

第127回大会（日大），第128回大会（鹿児島大）に引き続き，第129回大会においても論文執筆に関するセミナーのPart 3を開催します。

第127回大会では和文誌（例えば日林誌や関連学会誌）への論文投稿・審査を念頭に，学生の論文執筆の指導に携わる先生方，および地方研究機関で行政に近い位置にいらながらも論文を発表されてきた研究者の方をお招きして経験談をご紹介いただきました。第128回大会では，査読コメントに対する回答書の書き方のポイント，若手の時に初めて投稿論文に取り組んで受理に至った体験談，地方の研究機関に所属しながら国際誌に論文を掲載し博士号を取得した体験などをご紹介いただきました。これらの話題提供を通じてセミナーの参加者には，論文を効率的に作成し審査に効果的に対応するためのノウハウだけではなく，論文を執筆し投稿すること自体が自らの研究の進展・進化につながることを伝わったのではないかと考えています。

Part 3 では前回の開催後のアンケートの集計結果を参考に，下記のとおり，英語論文を書くためのテクニックやツールに関する話題，ポスドクとしてのキャリアの中での論文執筆，家庭生活と論文執筆活動との両立などをテーマとしてセミナーを開催いたします。

このセミナーに参加された会員諸氏が，なんとなく論文が簡単に書けるような気分になり，そのモチベーションを保ったまま高知大会での発表内容を，日林誌やJFRをはじめとする学術誌に投稿されることで森林科学の発展につながっていけばたいへん喜ばしいことと考えています。

(1) 産みっぱなし論文術 石原正恵（京都大学）

(2) 地方公立大文系学部でのサバイバル研究生活 泉桂子（岩手県立大学）

(3) 日本語の卒論を英語の投稿論文に仕立てた経験談 南光一樹（森林総合研究所）

（上記タイトルは当日変更される場合があります）

第 129 回日本森林学会大会：高校生ポスター発表題目一覧

2018 年 3 月 28 日（水）コアタイム 12：00～12：45 発表（奇数番），12：45～13：30 発表（偶数番）
表彰式など 14：00～（予定：ポスター発表会場）

登録	学校名	発表題目
KP01	滋賀県立河瀬高等学校	土壌から探る彦根山の環境変化—ササラダニ類の変化
KP02		土壌から探る彦根山の環境変化—間伐による土壌内の栄養塩類の変化
KP03	北海道岩見沢農業高等学校	トドマツにおける剥皮率の違いが樹勢に与える影響についての調査研究
KP04	青森県立五所川原農林高等学校	国際森林認証 FSC 取得への取組
KP05	岐阜県立不破高等学校	南宮山に生息するニホンジカに関する生態学的研究
KP06	山梨英和中学校・高等学校	富士山北麓と八ヶ岳南麓のササラダニ類による森林環境評価
KP07	東京都立科学技術高等学校	ピンクに染まる不思議な杉—未利用資源としてのサンプスギの利用
KP08	北海道立旭川農業高等学校	ササの有効利用—森林バイオマスとしてのササ資源の利用
KP09		木の大切さを伝えよう パート 7—「コドモリ箱」が心を繋ぐ
KP10	高知県立高知農業高等学校	シキミ生産・販売に関する活動
KP11		Animal hazards —林内の生態系を維持せよ
KP12	奈良県立青翔中学校・高等学校	奈良県二上山におけるナラ枯れの発生状況について
KP13	岡山県立勝間田高等学校	5 年連続生産量日本一 美作桧 PR の取り組み
KP14	岐阜県立岐阜高等学校	環境 DNA を用いた長良川・揖斐川の魚類の分布解析
KP15		岐阜県カスミサンショウウオ生息地の GIS と環境 DNA を用いた未来予想
KP16		岐阜県オオサンショウウオの多角的調査・解析
KP17	北海道帯広農業高等学校	トドマツ集団枯死の謎に挑戦
KP18	横浜サイエンスフロンティア 高等学校	国産木材を救え！ 外国産木材との比較
KP19		油分解微生物の探索とその最適条件
KP20		マレーシアにおけるパーム油産業と森林・環境問題
KP21	三重中学校・高等学校	「主体的に森林を守っていくために」—森林プログラムの作成・実践
KP22	京都府立嵯峨野高等学校	嵯峨野高校校有林のもつ多面的機能～これまでの研究の総括と今後の方向性
KP23	鳥取県立智頭農林高等学校	鳥とともに森林環境を考える—繁殖鳥モニタリング調査を通じて
KP24		アメニティー空間の創造—棚田の保全活動
KP25		智頭魅力アッププロジェクト—匠の技で智頭宿の街並みを守る
KP26	東京都立江北高等学校	荒川の上・中・下流における水生生物の生態—下流の生物を中心に
KP27	東京都立大島高等学校	伊豆大島の外来種キョンの被害とその生態
KP28		よみがえれ 伊豆大島の里山—ヤブツバキ 300 万本の活用方法を探る
KP29	秋田県立秋田中央高等学校	秋田平野のため池における水生植物群落の分布と埋土種子集団に関する研究

* 題目：1 月 11 日時点 （国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」助成事業） 中等教育連携推進委員会

関連研究集会等

集会名	日時	場所
IUFRO-J 平成 30 年度機関代表会議	3 月 27 日 12:00-13:00	共通教育棟 3 号館 331 講義室
森林計画学会総会	10:00-12:00	
森林計画学会賞受賞者講演会	3 月 29 日 13:00-13:30	共通教育棟 1 号館 142 講義室
森林計画学会春季シンポジウム	13:30-16:30	
林業経済学会 2018 年春季大会	3 月 29 日 9:00-18:00	共通教育棟 2 号館 212 講義室
第 22 回森林施業研究会シンポジウム	3 月 29 日 9:00-12:00	共通教育棟 1 号館 127 講義室
第 24 回森林昆虫談話会	3 月 29 日 9:00-12:00	共通教育棟 1 号館 141 講義室
森林利用学会総会	3 月 29 日 10:30-12:00	共通教育棟 1 号館 153 講義室
森林利用学会シンポジウム	13:00-16:00	
第 7 回森林遺伝育種シンポジウム	3 月 29 日 9:00-12:30	共通教育棟 1 号館 137 講義室
樹木病害研究会	3 月 29 日 9:00-12:00	共通教育棟 1 号館 133 講義室
第 34 回林木の成長機構研究会	3 月 29 日 9:00-12:00	共通教育棟 1 号館 136 講義室
森林立地学会理事会	3 月 26 日 16:00-18:00	高知県立県民文化ホール
森林立地編集委員会	18:00-19:00	第 9 多目的室
森林立地学会現地研究会／総会	3 月 29 日 8:00-16:50	高知県森林総合センター, 高知大学海洋コア総合研究センター
森林 GIS フォーラム学生研究コンテスト	3 月 26 日 17:00-19:00	高知会館 「飛鳥」

注:二重線以下の会合は, 高知大学朝倉キャンパス内で開催いたしません。

IUFRO-J 平成 30 年度機関代表会議

日時: 3 月 27 日 (火) 12:00~13:00

会場: 共通教育棟 3 号館 331 講義室

内容: 平成 29 年度会務報告, 会計決算, 監査報告の審議と承認, 及び平成 30 年度事業計画案, 予算案の審議と承認案, 予算など

連絡先: 川元スミレ, 国際森林研究機関連合日本 (IUFRO-J) 事務局, 〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1 森林総合研究所 国際連携・気候変動研究拠点 国際研究推進室, Tel. 029-829-8327, Fax. 029-874-3720, E-mail: iufro-j@ffpri.affrc.go.jp

森林計画学会総会

日時：3月29日（木）10:00～12:00

会場：共通教育棟1号館142講義室

連絡先：齋藤英樹，〒305-8687 つくば市松の里1 森林総合研究所 森林管理研究領域，Tel. 029-829-8314，
Fax. 029-873-3799，E-mail: rslsaito@ffpri.affrc.go.jp

森林計画学会賞受賞者講演会

日時：3月29日（木）13:00～13:30

会場：共通教育棟1号館142講義室

連絡先：齋藤英樹，〒305-8687 つくば市松の里1 森林総合研究所 森林管理研究領域，Tel. 029-829-8314，
Fax. 029-873-3799，E-mail: rslsaito@ffpri.affrc.go.jp

森林計画学会春季シンポジウム

日時：3月29日（木）13:30～16:30

会場：共通教育棟1号館142講義室

テーマ：国家森林資源調査（NFI）のこれまでとこれから

内容：1999年から始まった国家森林資源調査（現 森林生態系多様性基礎調査）は、平成30年度の調査をもって4期目の調査が終了する。そこで、これまでの国レベルの森林資源情報がどのように利活用されてきたのかを振り返り、今後の発展・深化に向けて議論し森林計画学会としてこれからの資源情報のあり方について発信していく。

連絡先：齋藤英樹，〒305-8687 つくば市松の里1 森林総合研究所 森林管理研究領域，Tel. 029-829-8314，
Fax. 029-873-3799，E-mail: rslsaito@ffpri.affrc.go.jp

林業経済学会 2018 年春季大会

日時：3月29日（木）9:00～18:00 受付 8:30～（共通教育棟2号館212講義室前にて）

会場：共通教育棟2号館212講義室

9:00～17:00 大会シンポジウム

テーマ：転換期の日本林業における人材育成・林業労働の現状と課題

内容：全国に林業大学校が次々と開校されるなど、林業への新規就労への社会的関心が高まりを見せている。そこで緑の雇用関連につき三木氏（信州大学）、フォレスター・森林施業プランナー関連につき大石氏（近畿大学）、中等教育・大学校関連につき奥山氏（鹿児島大学）からの報告と興梠氏（筑波大学）と井上氏（森林総研）からのコメントを得て、林業就労やそれにかかわる人材育成について、日本林業の現況との整合性の観点などから批判的に検討する。

17:00～18:00 定期総会

閉会后、懇親会（朝倉キャンパス生協食堂）

大会に先立って3月28日に理事会、評議会、各種委員会を共通教育3号館331-333講義室にて開催予定です。

連絡先：松本美香，〒783-8502 高知県南国市物部乙200 高知大学 農林海洋科学部 森林経営学研究室，

E-mail: matsumoto-mika@kochi-u.ac.jp

第 22 回森林施業研究会シンポジウム

日時：3 月 29 日（木）9:00～12:00

会場：共通教育棟 1 号館 127 講義室

テーマ：早生樹は林業の救世主になり得るか？

内容：昨今、早生樹造林の機運が高まりつつある。各地で、地域に合った早生樹の探索、その造林や育苗の試験が試みられ、植林も行われ始めている。はたして早生樹は、林業界の救世主となり得るのか。このシンポジウムでは、早生樹造林に関する研究事例の報告をいただき、早生樹造林の可能性や課題を議論したい。

1. 埴田宏『「早成樹造林」とは何だったのか』
2. 横尾謙一郎（熊本県林業研究指導所）『熊本県におけるセンダン育成技術の開発』
3. 陶山大志（島根県中山間地域研究センター）『有用広葉樹としてのオニグルミの可能性』
4. 江島淳（佐賀県林業試験場）『早生樹としても期待できる次世代スギ精英樹』
5. 総合討論：早生樹造林を考える

連絡先：横井秀一，〒501-3714 岐阜県美濃市曾代 88，岐阜県立森林文化アカデミー，Tel. 0575-35-3884，
Fax. 0575-35-2529，E-mail:yokoi@forest.ac.jp

第 24 回森林昆虫談話会

日時：3 月 29 日（木）9:00～12:00

会場：共通教育棟 1 号館 141 号講義室

テーマ：話題の樹木害虫 クビアカツヤカミキリを徹底的に語る ―バラ科樹木への深刻な被害報告と対応について―

内容：サクラなどバラ科樹木に深刻な被害をもたらす侵略的外来種クビアカツヤカミキリについて話題提供して頂き理解と議論を深めていきたい。

<話題提供>

1. 「クビアカツヤカミキリが日本にきた：5 年間で起こったこと」
加賀谷悦子（森林総合研究所）
2. 「クビアカツヤカミキリの現状：その分類・分布・生理・生態」
岩田隆太郎（日大・生物資源・森林動物）
3. 「関東圏におけるクビアカツヤカミキリに対する防除活動と被害・分布について」
桐山 哲（日大・生物資源・森林動物）
4. 「関西におけるクビアカツヤカミキリの被害，および防除&捕獲試験」
衣浦晴生（森林総合研究所・関西支所）
5. 「モモで被害を拡大した徳島県内の状況とその対策について」
中野昭雄・渡邊崇人（徳島県立農林水産総合技術支援センター）
6. 「クビアカツヤカミキリを飼育してわかったこと」
浦野忠久（森林総合研究所）

世話人：吉田智弘（東京農工大学）・松浦 崇遠（富山県森林研究所）・松本剛史（森林総合研究所）
3 月 28 日（水）夜に懇親会を予定しています。

連絡先：松本剛史，〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1 森林総合研究所 森林昆虫研究領域，
Tel. 029-829-8253，Fax. 029-873-1543，E-mail: mtakeshi@ffpri.affrc.go.jp

森林利用学会総会・シンポジウム

日時：3月29日（木） 総会 10:30～12:00 シンポジウム 13:00～16:00

会場：共通教育棟1号館153講義室

シンポジウムテーマ：森林資源を上手に活用していくために一川上～川下の情報共有を通じて—

内容：利用期に達しつつある森林資源利用を進めていくには、出口を見据えた木材生産が鍵となる。その課題解決には川上から川下間の木材のスムーズな流れを構築することが必要となる。そこで本シンポジウムでは、木材供給体制や木材流通の構築、木材情報のクラウド化、木材のコーディネート機能の確立等、川上と川下間の情報共有を通して森林資源を上手に活用していくための方策について議論する。

連絡先：森林利用学会事務局、〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1, 東京大学大学院 農学生命科学研究科 森林科学専攻 森林利用学研究室内, E-mail: jfes-office@jfes.jp

第7回森林遺伝育種シンポジウム

日時：3月29日（木） 9:00～12:30

会場：共通教育棟1号館137講義室

テーマ：次世代シーケンサー利用のための基礎から応用まで

内容：

坂口翔太（京都大学）「生態的多様化を遂げた植物群の次世代シーケンス解析」

伊津野彩子（森林総合研究所）「種内形質多様化により広域ニッチを優占するハワイフトモモのゲノム解析」

平尾知士（森林総合研究所）「林木におけるゲノム育種に向けた次世代シーケンサーの活用」

岩田洋佳（東京大学）「ゲノム情報をもとに植物の環境適応・応答をモデル化する」

連絡先：津村義彦、〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1, 筑波大学生命環境系, Tel. 029-853-4629, Fax. 029-853-4629, E-mail: tsumura.yoshihiko.ke@u.tsukuba.ac.jp

樹木病害研究会

日時：3月29日（木） 9:00～12:00

会場：共通教育棟1号館133講義室

テーマ：樹木の内生菌あれこれ

内容：樹木には必ず内生菌が存在するが、樹木病害の研究では対象外とされることも多い。しかし、実際には宿主や他の菌類と様々な相互作用があり、内生菌の機能や生態を知ることは、樹木病原菌への理解を深めるためには重要である。今回は様々な方向から内生菌と樹木病害との対比、議論を通じて樹木病害全般の知識の深化を試みる。

連絡先：松下範久；〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1, 東京大学大学院 農学生命科学研究科, Tel./Fax. 03-5841-5226／03-5841-7554, E-mail: matusita@fr.a.u-tokyo.ac.jp, 石原 誠；札幌市豊平区羊ヶ丘7番地, 森林総合研究所・北海道支所, Tel./Fax. 011-851-4131／011-851-4167, E-mail: makolin@affrc.go.jp, 升屋勇人；盛岡市下厨川字鍋屋敷 92-25, 森林総合研究所・東北支所, Tel./Fax. 019-648-3961, E-mail: massw@ffpri.affrc.go.jp

第 34 回林木の成長機構研究会

日時：3 月 29 日（木）9:00～12:00

会場：共通教育棟 1 号館 136 講義室

テーマ：スギとヒノキにはどのような違いがあるのか

内容：人工林は日本の森林面積の半分近くを占め、木材生産にとどまらず炭素蓄積や水源涵養など様々な機能を持っています。人工林の多くにはスギとヒノキが植えられており、両種の光合成など葉の機能的性質、木部の通水性、成長特性など様々な生理生態的パラメータを理解することは、炭素蓄積量のモデル化や気候変動への応答の解明などに不可欠です。この研究会では、主にスギとヒノキに焦点を当て、これまでの生理生態学に関する研究の略史やメタ解析からの知見、水利用特性の差異を中心に紹介し、議論を深めたいと思います。

話題提供：

大曾根陽子（森林総合研究所）

「スギとヒノキの生理生態学的特性 ―研究略史とメタ解析からの知見―」

鶴田健二（森林総合研究所）

「スギとヒノキの炭素蓄積に影響を与える水利用特性（仮）」

世話人：田中憲蔵・米田令仁

連絡先：田中憲蔵；森林総合研究所，E-mail: mona@affrc.go.jp

森林立地学会理事会

日時：3 月 26 日（月）16:00～18:00

会場：高知県立県民文化ホール 第 9 多目的室（和室）

内容：2017 年度実施内容報告

2018 年度実施計画（案）検討

連絡先：総務担当・石塚成宏，〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1 森林総合研究所，Tel. 029-829-8227，
Fax. 029-874-3720，E-mail: ritchi_general@ffpri.affrc.go.jp

森林立地編集委員会

日時：3 月 26 日（月）18:00～19:00

会場：高知県立県民文化ホール 第 9 多目的室（和室）

内容：編集状況の報告および編集方針の検討

連絡先：総務担当・石塚成宏，〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1 森林総合研究所，Tel. 029-829-8227，
Fax. 029-874-3720，E-mail: ritchi_general@ffpri.affrc.go.jp

森林立地学会現地研究会

日時：3 月 29 日（木）8:00～16:50

開催場所：高知県森林総合センター、高知大学海洋コア総合研究センター

テーマ：高知県における森林・林業と地球科学研究の最先端

内容：海洋コア（柱状堆積物）研究の世界的拠点の一つである高知大学海洋コア総合研究センターの施設を見学します。世界中のコア試料が保管されている冷蔵設備や、数々の高度な分析機器を見学するとともに、施設共同利用の案内もしていただきます。また、高知県が取り組んでいる CLT を活用した建築や、コンテナ苗についても紹介いただく予定です。

行程：8:00 JR 高知駅北口 — 9:00 高知県森林総合センター（高知県の森林・林業について話題提供、CLT を活用した林業大学校校舎とコンテナ苗育成施設の見学、土壌断面観察） — 11:50 昼食と総会 — 13:00 森林総合センター発 — 13:40 高知大学物部キャンパス着（海洋コア総合研究センター概要と施設共同利用に関する説明、「コアから読み解く地震・津波の痕跡」に関する講演、コア保管庫や高度分析機器の見学） — 16:00 高知大学物部キャンパス発 — 16:10 高知空港着 — 16:50 JR 高知駅着

参加費：¥3,000 程度（学生・PD は割引予定・昼食代込）

申込方法：森林立地学会申込フォーム（<https://shinrin-ritchi.jp/apply-excursion/>）または下記連絡先に氏名・性別・研究会当日の年齢・所属・住所・電話番号・E-mail アドレス・バス下車の場所（高知空港 or 高知駅）と搭乗 or 乗車時刻（決まっている場合）をお送りください（2018 年 2 月 28 日締切予定、定員 45 名、先着順）

連絡先：事業担当・山下尚之、〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1 森林総合研究所、Tel. 029-829-8227, Fax. 029-874-3720, E-mail: ritchi_excursion@ffpri.affrc.go.jp

森林 GIS フォーラム学生研究コンテスト

日時：3 月 26 日（月）17:00～19:00

開催場所：高知会館 「飛鳥」（高知市本町 5 丁目 6 番 42 号）

テーマ：森林・林業分野における GIS、リモートセンシング技術の応用全般

内容：学生研究コンテストは次世代の森林 GIS を担う若手研究者・技術者の育成と交流の場です。大会の他部門で発表したものと重複しても結構です。1 人 15 分程度の口頭発表を行い、優れた発表数件を表彰します。以下の 2 部門で各 5 名程度を募集し、応募者多数の場合は選抜します。

部門（1）卒業論文の研究

部門（2）修士論文、博士論文の研究

連絡先：高橋正義、〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1 森林総合研究所 森林災害・被害研究拠点、Tel. 029-829-8314, Fax. 029-874-3720, E-mail: martaka@ffpri.affrc.go.jp